MOBSPROOF

PUNK MAGAZINE FOR DESTRUCTION

モブスプルーフ VOL.05 999yen

どうせオレたちゃ行き場のねぇゴロツキども

READY STEADY GO issue



亜無亜危異デビューから30周年!

仲野茂 巻頭インタビュー

亜無亜危異から現在まで…"今昔物語"

FOLLOW UP NIGHT
SUGIイラストギャラリー
NOISECORE SYMPOSIUM
MAVERICK KITCHEN VOL.2

トータル10時間虐殺ギグ!!

抹殺OSAKA

YOUTH PUNKSの狼煙はブチ上げられた!

THE ACTION

パンクの映画★パンクな映画

FILM FOR PUNX

ONLY PUNK PHOTOS&TEXT

MOBSPROOF

VOLUME 05 READY STEADY GO issue contents

02 亜無亜異危デビューから30周年! 日本のパンクオリジネイター"今昔物語" 仲野茂 インタビュー

07 パンクの映画★パンクな映画 FILM FOR PUNX

9 FOLLOW UP NIGHT PHOTO REPORT
THE PRISONER / OLEDICKFOGGY / ECODAMNED / SLIGHT SLAPPERS / SPIKE / SCUM BANDITZ / Oi-SKALL MATES / CHEERIO / ボンクラ峠 / GASOLINE / ELECTRIC SUMMER / Discharming man / 200 mph / ACROSTIX REALITY CRISIS / YAS OIL THE WELLCARS / CHIKA CHIKA / FUCK ON THE BEACH / S.V.S / JABARA. / Oink

7 ZIGZAG 京都伝説のパンクス･ヒロシ レアフォト発掘!

3 HERE IS STRONG LOCAL GIG 日本列島シリーズギグの今! FUTURE NOW!

NOISECORE SYMPOSIUM 恐怖! ノイズコア復興の宴!

SWEET GENE THE GIGOLOCKの革ジャン IS MY LIFE 第2回「ジョニー (ジャン)・リメンバー・ミー?」

THE ACTION YOUTH PUNKSの狼煙はブチ上げられた!
FOLKEIIS / INTRUDERS / -REJECT- / SKIZOPHRENIA

STIFF LITTLE FINGERS×LUCY & THE LIPSTIX

ex.ACTIVES / AKATOMBO PAUL KIRK インタビュー

PUNK ART EXHIBITION THE 1ST EXHIBITION SUGI

魁! PUNK乙女塾 昼休み「乙女たちの妄想ギャラリー」

SCREAMING PUNK RECORDS SPAIN編2×PORTGUL編

CHANNEL SIX in MOBSPROOF

CROPPED MEN & BOOTed COCKS インドネシアツアーレポート

MAVERICK KITCHEN 2 PHOTO REPORT
THE BACILLUS BRAINS / THE BAWDIES / 怒髪天 / ゲタカルビ / JAPAN-狂撃-SPECIAL / 毛皮のマリーズ MOSQUITO SPIRAL / ニューロティカ / SA

LIVE TILL DEATH
BAD DIRTY HATE / JOHONS TOWN ALOHA / REDNECKS / ZYANOSE

ORIGIN OF [M] インタビュー＆全曲解説

抹殺OSAKA PHOTO REPORT
FORTITUDE / COMPLETED EXPOSITION / REDUCTION / ADIXION / DEVASTATED GOES / NERD / UNARM SIGN OF SIN / RIVERGE / BAD DIRTY HATE / PROCESS / ATOMIC THROAT / KROSSA / SWARRRM / 屈辱 GALLHAMMER / DISGUST / LITTLE BASTARDS / MORTALIZED / AKKA / UNHOLY GRAVE

KEEP IN TOUCH / SPECIAL INFORMATION

FARPLANE NIGHT 3 PHOTO REPORT

界をパンクだらけにしてしまえ!

cover photo / Yuki Kuroyanagi



死んじゃってもう聴けないって飢餓感が一般の人に出てくるのは好きじゃない

photo / Yuki Kuroyanagi



亜無亜危異デビューから30周年! 日本のパンクオリジネイター“今昔物語”

仲野茂

Shigeru Nakano interview

interview / Ohige No Matsuoka

70年代後半、イギリスのパンクロックに影響を受け、リアルに提示したアナーキー。メジャーデビューから30周年を迎えた今だからこそ語れる数々の秘話を、未発表写真と共に巻頭特集!



ナメられちゃいけねぇってのあるじゃん ダセぇって言われるのもシャクだしさ

今回はアナーキーデビュー30周年ということで過去を振り返りつつ、現在の仲野さんのコンディションまで紐解ければと思っております。

仲野：あぁ、よろしく。

さっそくですがアナーキー結成当時って、パンクロックの情報とかは普通に入ってきていたのですが？

仲野：そうだね、ピストルズの『NEVER MIND THE BOLLOCKS』は出てたし。それと東京ロッカーズもあったしね。やっぱり当時は、雑誌がなんにもないから。『ミュージックライフ』と『音楽専科』くらいで。『音楽専科』の後ろのモノクロページに、ちょっとパンクが載ってたね。

それまでは、どんな音楽を聴かれていたんですか？

仲野：日本のロック。70年代は日本のロックが良いときだったんだけど、ちょうどみんな解散する時期だったんだよね。頭脳警察も外道も。俺は特に外道が好きだった。歌詞の面白さとかね。それで70年代後半に、みんな解散してなんも聴くものなくなったってときに、ピストルズが来たんだよ。

当時はどんな格好をされていたんですか？ やっぱり革ジャンをパッと羽織って？

仲野：いやいや。ファッションなんてわかんないよ。Yシャツとかにスプレーでなんか書いたり。ピストルズの「ANARCHY IN THE UK」ってタイトルを"こんな感じかな"ってスプレーで書いたりさ。そしたら、"ANARCHY"がでかくなって"IN THE UK"まで書けないのよ。で、バンド名どうするかって話になったときに、伸一か誰かがさ、「コレ、アナーキーっていいじゃん」ってなって。「ANARCHY IN THE UK」まで書けてたら、バンド名変わってたかもな（笑）。

スプレーでなにかメッセージを書くってセンス、当時は暴走族とかヤンキーの文化とクロスオーバーしてそうですが。

仲野：いや、ちょっと違ってた。音楽やってること自体が軟派なわけ。集会とか行くんだけど、"すいません、ロック好きで…"みたいなさ（笑）。

コンテストからの成り上がりってのがやっぱり面白いですよね、アナーキーって。ライブハウスでバリバリライブやってのし上がっていったバンドも多いわけで、その中でも異色のプロフィールですもんね。痛快ですよ！

仲野：いや、俺らもずっと江古田のマーキーで演ってたよ。どこでライブやるかって話し合ったときに「いきなりロフトは、ハードル高くねぇか？」とかなるわけ。けど、誰も知り合いもいないしさ。そういうとこに顔出して、人脈広げてみたいなのもないし。もう、メンバーの5人しかいないのよ（笑）。でさぁ、なんも知らねぇ5人だからさ、「どうする？」って。『ぴあ』とか見てたらさ、ピストルズがロンドンでデビューしたマーキーってライブハウスと同じ名前のがあるわけよ。「おい、江古田にマーキーってあるぞ！」ってさ（笑）。そこが基本的にアコースティックで。今でもそうだけど。音源持って来いって言われてラジカセで録ってさ。「ノット・サティスファイド」はもうあったかな。後はピストルズとかね、ルージュって日本のバンドのカバーとか。

そのころのピストルズのカバーは日本語で？

仲野：いや、英語だった。

後のカバーで、日本語でやろうと思われたのは、何がきっかけだったんですか？

仲野：やっぱり、英語できないしさ。「3・3・3」とかは、『PUNK20』ってオムニバスにスティッフとかシャムとか999が入ってて。その中でもダントツでかっこいいわけ。すぐに"演ろうぜ！"ってなったね。けど歌詞カードとかもないし、英語もできないし。なんとか演りたいけどってなったら、やっぱり日本語だよね。

あの歌詞の乗せ方、ヤバいっすよね！

仲野：英語できないのが逆に良かったよね。日本語にすんなりいきやすかった。

話が戻りますが、マーキーでの初ライブはどうでしたか？

仲野：案の定、音がでかくて苦情きてさ、おまわりが来て演奏中止（笑）。その頃だよ、池袋でリハーサルし出して。そのアマチュアバンド合戦みたいなのに参加してさ。で、『EASTWEST』にテープを送ってくれたんだよ、その店が。じゃあ、審査通ってさ。それで出たんだよね。自分たちが調べて出ようって流れじゃないんだよ。

他にその周辺はどういうジャンルのバンドがいたんですか？

仲野：パンクは少なかったね。俺たちのときは子供バンドが一緒だった。あと、氷室もいた。BOOWYの前のデスペナルティってバンドでね。やたら歩き方とか突っ張ってたね、氷室は。「アイツ、やっちゃおうぜ」っていつも言ってたよ（笑）。

昨年公開されたドキュメンタリーを観ていて思ったんですが、デビュー当時の5人って、何も恐れてないなってビッシビシ伝わってきましたよ！ 無邪気なのか、ポーズなのかも分かりませんでした。

仲野：ポーズじゃないよね。とにかく何にも知らねぇからさ、ナメられちゃいけねぇってのあるじゃん。ダセぇって言われるのもシャクだしさ。虚勢を張ってる感じだよね。『リブ・ヤング』って番組に出たときにさ、一緒に出たのがシャネルズとクリスタル・キングだったんだよね。

シャネルズも、アナーキーと別ベクトルでめちゃくちゃ悪そうですね…。

仲野：そうそう。ナメられちゃいけねぇからさ、クラウンとかハコスカのシャコタン乗ってるヤツとか呼んで、そいつらで周り固めてさ。じゃ、シャネルズはさぁ、アメ車なんだよね…。しかもさ、カマロとかムスタングとかじゃなくて、バラクーダとか渋い感じのやつなのよ。見たことのないようなセダンっぽいのをホットロッドにしてさ。"すごいなぁ"とか思いながらも、楽屋でわざと聞こえるように「シャネルズ、あんなの金持ち暴走族じゃねぇか、むかつくよな！」とかさ、言うわけ俺たち（笑）。

宇崎竜童さんのインタビューシーンも、食って掛かってる感じで、最高でした！

仲野：って見えるでしょ？ 実は俺らダウンタウン・ブギウギバンドのファンでさ。アガってただけなんだよね、宇崎さんに（笑）。けどとにかく、他のバンドに負けねぇぞって感じだったね。当時は。だから仲も良くないしね、バンド同士。ロッカーズとかルースターズとかスターリンとかさ、RCとかもそうだけど、楽屋で口なんてきかないもん。

音楽的には、その頃には、昔よりもっとたくさんの音に触れたと思うんですが、影響を受けたものとかありますか？

仲野：うん。パンクだけじゃなくて、その後さ、スペシャルズとかマッドネスとか出てきて。ヨーロッパでも、ツェッペリンとかディープ・パープルとか往年のロックが消えてさ。ロッド・スチュワートがディナーショウやってたり。だから、なんて言うんだろ。俺たちがデビューするのと同時にピストルズは解散しちゃうし、混沌としてたからね。

それで、自然とアナーキーにもレゲエとかスカとかみたいなアプローチが入ってくる、と。

仲野：自然でもなかったけどね。寺岡が知ったかぶってボブ・マーリィの『BABYLON BY BUS』持ってきたりさ。眠くってさ。かったるかった（笑）。スペシャルズとかの方が小気味良かったね。ボーカルの顔も好きでさ。

クラッシュ・ライクなレゲエですよね、アナーキーも。

仲野：『SANDINISTA！』は当時好きじゃなかったけどね。やっぱり『動乱』までが良かった。今聴いたら良いけどね。俺たちはマイキー・ドレッドに出会って、そのおかげでクラッシュとも出会えるんだけどね。クラッシュ、良かったね。リハーサルスタジオに行ったの、奴らの。で、「俺たち、カヴァーさせてもらってて」って言ったらさ、お披露目することになっちゃってさ…。

えっ？ そのクラッシュのリハーサルスタジオでですか？

仲野：そう。「東京イズバーニング」「ホワイト・ライオット」「セイフ・ヨーロピアン・ホーム」よ。クラッシュの楽器借りてさ。したら伸一がさ「セイフ～」のときミック・ジョーンズに「オマエ、そこのコード違うぞ」ってさ（笑）。

本物にダメ出しされてるじゃないですか！

仲野：そう。でさ、パブに行ったわけ。一緒に。したら俺ら舞い上がっちゃってさ。通訳連れて行かなかったんだよ。ジョーとかも一生懸命喋ってくれるんだけど、何言ってるのかさっぱりわからなくってさ（笑）。

それは『アナーキー・シティ』のレコーディングの時の話ですよね。まさかそれって、初海外ですか？

仲野：そうだよ。初めて飛行機乗ったんだもん。

すごい初海外ですね…。ちょっと駆け足になってしまうのですが、マリさんの事件のあとTHE ROCK BANDとして活動されますが、この頃の話を。


photo / Yuki Kuroyanagi











仲野茂 Rare Photos





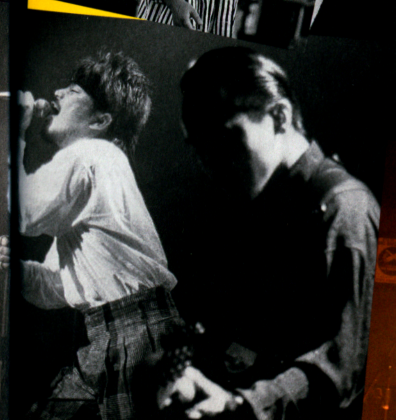


















FILM FOR PUNX

パンクスのリアルな姿を伝えるドキュメントから激熱ライブ映像まで、パンクスのための映像の数々…その暴力性を秘めたフィルムを一挙特集。さらにパンクスが選ぶリアルな"パンクな映画"セレクションで意外な発見が!?

パンクの映画★パンクな映画

亜無亜危異デビューから30周年! 日本のパンクオリジネイター"今昔物語" 仲野茂 インタビュー

仲野：実はマリの事件が起きる前から、もうクタクタだったわけ。国鉄服も脱いで音楽的に変わって。『レディ・ステディ・ゴー』とかはもう、どんどんロックンロールになって。そこにマリの事件があったから。個々でやりたいこともあったんでいったんは活動停止して。寺岡もニューヨーク行きたいとかさ。で、久々に音出したいってことになって、軽井沢で合宿したんだよね。それが面白かったんだよ。いろんなカヴァーやったりして。その流れでセッションぽい感じでファーストアルバムを作るんだけど。自由な感じでね。ただやっぱり、当時、俺がつぶれるのが早かった。ROCK BANDで2枚が限界だったね。『四月の海賊たち』みたいなコンセプトアルバム作って、なんていうんだろ…飽きちゃったね、音楽に。

飽きて、"次じゃあ何？"ってなったときに、俳優っていう選択肢に？

仲野：アナーキーって現象の輪の中に、映像作家とかもいてさ。で、崔洋一に呼ばれたりして。映画の現場って、お祭りなんだよね。すごいなぁって。役者やりたいっていうより、その現場にいたいってさ。お祭りの現場に。ただのお祭り好きだよね、俺(笑)。そういうのに満たされて、音楽、もういいやって。めんどくせぇし。けどあるとき、またやりてぇなってなったんだよね。ただ今更ね、とっくに事務所も辞めてたし。じゃ、アコースティックでリハビリ兼ねてやるかって。それが仲野茂バンドの前身。ピアノとトロンボーンとベースで。面白かったよね。それでベースにサンハウスの奈良さんが入ってくれるって。奈良さんやってくれるなら、バンドやってもいいよねってさ。

勝手な解釈だったんですけど、アナーキーって名前に囚われてらっしゃった部分があったんじゃないかなって思ってたんです。だから、ROCK BANDにしても、仲野茂バンドにしても、まったく違うアプローチのものをやろうとしてらっしゃったのかなって。

仲野：あぁ。俺よりもレコード会社の方がまさにそうでさ。アナーキーでホールは借りれねぇしさ。マリの事件があった後に、イベントのオファーがあって。レコード会社もアナーキーって名前を使いたがらなかったね。俺はアナーキーで出たかったの、実は。したら伸一が「5人でアナーキーだから。マリ待とうぜ」みたいなさ。じゃあ、バンド名いるわけで。誰かがぽろっと"ROCK BAND"って出した。だから、思い入れなんてないもん(笑)。"名無しのごんべぇず"だったかもしれなかったしね。けど、マリを待つっていうのも、俺がどんどん挫折していくわけなんだけど。

その音楽に飽きたっていう気持ちって、今でも鮮明に覚えてらっしゃいますか？ 今、現に音楽をやってらっしゃるのが、素晴らしいと思うんですよね。例えば、石橋稜さんとか、かなり役者よりにシフトしていた時期とかあったじゃないですか。

仲野：う〜ん。やっぱりロックって、脱いで脱いで、自分をさらけ出してナンボじゃん。けど役者って着て着て、変身じゃん。なんか違うって感じはあったと思うんだよね。やっぱり歌の方がいいなって。

非常に分かりやすい表現ですね。映画の現場よりかは、舞台とかの方が、ライブ感って意味では音楽寄りなんでしょうかね？

仲野：けどやっぱり、言葉の問題ってのがある。脚本家が書いたセリフをなぞっていくってのがね。自己発信じゃないっていうのが。

ゲタカルビにしろSDRにしろ、今の仲野さんの動きを見ていると、すごく音楽とうまく付き合ってらっしゃるなって気がします。紆余曲折を経たからこその動きかな、と。

仲野：そうかもね。それと、どっか俺の中で、もうそんなに時間があるわけじゃないってのがあるのかもね。年を食うってのは、20代の時とぜんぜん違うからね。あのころは無限に時間があると思ってたから。そういう意味は、今は本当にリアル。

そのリアルって言うのは、例えばですけど、去年の清志郎さんの件とか、仲野さんの中で大きかったりするんですか？

仲野：……やっぱりそうだよね。悲しいって言うより、ああいう動きの人って少ないじゃん。やっぱりコントラストとして、矢沢がいて、清志郎がいてっていう方がスリリングだしね。いい見本として、いてほしかったね。また方法論が、売れるレコード作ってどうのこうのじゃなくて、もっともっとこう……なんて言うんだろうね。

わかります。しかし、RCを聴いたことのない世代が清志郎さんの死によって音源に触れるのはすごくいいことだと思うんですけど、死に乗っかってビジネスをやろうとする人たちが多いのも事実ですよね。

仲野：それはもう、どうでもいいんだけどね。けど尾崎とかもそうだけど、死んじゃってもう聴けないって飢餓感が一般の人に出てくるのは好きじゃない。死んで美化するのは簡単だしやりやすい。けど、今生きてるやつらから、清志郎みたいな動きをするやつをどうやって見つけるかを考えて欲しいしね。それに、あんまりもう、誰も死んでほしくないね。

仲野茂 RECENT WORK



SDR『NO FREEDOM』
日本晴RECORDS / JCUR-088 / ¥3,000（税込）



SDR『FREEDOM』
SDR RECORDS / SDR-001 / ¥4,000（税込）



ゲタカルビ『公式海賊盤「壱」』
SONIC FLOW-REVOLSIST / SSSR-0001 / ¥3,000(税込)



ゲタカルビ『公式海賊盤「弐」』
SONIC FLOW-REVOLSIST / SSSR-0002 / ¥3,000(税込)



photo / Yuki Kuroyanagi

仲野茂History

音楽、映画などマルチな活動の歴史

1960年1月2日…誕生
1978年 8月 アナーキー結成
1979年 8月 『EAST WEST』出場。優秀バンド賞と最優秀ボーカル賞を受賞
1980年 3月 アナーキー、ビクターよりメジャーデビュー
11月 セカンドアルバム『'80維新』リリース
1981年 5月 サードアルバム『亜無亜危異都市(アナーキー・シティ)』リリース
10月 アナーキーとして映画『嗚呼! おんなたち猥歌』に出演
12月 4枚目のアルバム『READY STEADY GO』リリース
1982年 3月 5枚目のアルバム『LIVE』リリース
9月 6枚目のアルバム『ANARCHISM』リリース
1983年 5月 7枚目のアルバム『REVEL YELL』リリース
7月 映画「十階のモスキート」に出演
1984年 3月 8枚目のアルバム『デラシネ』リリース
1985年 3月 9枚目のアルバム『BEAT UP GENERATION』リリース
1986年 8月 アナーキーからTHE ROCK BANDに改名
10月 『THE COVER』(新宿LOFT)開催(以降、定期的に開催していく)
11月 松田優作追悼イベント出演
12月 アルバム『アナーキー』リリース
1987年 8月 アルバム『四月の海賊たち』リリース
1991年 8月 Vシネマ『襲撃 BURNING DOG』出演
9月 映画『新・同棲時代』、『風の国』出演
12月 『NEW YEAR ROCK FESTIVAL』出演
1992年 3月 芝居公演『蒼き眠りの祈り』(下北沢スズナリ)出演
5月 初のソロライブ(新宿LOFT)
6月 仲野茂バンド、ワンマンライブ(新宿LOFT)
1993年 7月 映画『極道記者』出演
11月 ファーストアルバム『遠くで火事をみていた』リリース
12月 『NEW YEAR ROCK FESTIVAL 21th』出演
1994年 4月 アナーキー再結成ライブ(新宿LOFT / 渋谷 ON AIR EAST)
6月 ミニアルバム『大東亜のいびき』リリース
7月 『大東亜のいびき』レコ発ワンマンライブ(渋谷 ON AIR WEST)
映画『800 TWO LAP RUNNERS』出演
8月 『ANARCHY LIVE 1994』リリース
1995年 1月 映画『平成無責任一家 東京デラックス』出演
TOKYO-FM 『まんたんミュージック』開始
2月 映画『君といつまでも』出演
4月 芝居公演『風』(下北沢スズナリ)出演
5月 アルバム『窮鼠』リリース
8月 『スターリン再結成ライブ』ゲスト出演
10月 FN 『くねくねくらぶ』開始
1996年 1月 ドラマ『つながった世界』出演
2月 Vシネマ『スケバン女教師』出演
3月 Vシネマ『痴漢白書3』主演
8月 Vシネマ『のぞき事件簿』主演
6月 アナーキー 『HISTORY OF ANARCHY』(赤坂BLITZ)
9月 アナーキー活動再開
12月 Vシネマ『マルソウ改造自動車教習所』出演
1997年 3月 映画「レディース MAX Give me a Shake」出演
GAZAとしてライブ(リキッドルーム)
1998年 2月 『ARB COVERS』藤沼伸一と共に参加
5月 Vシネマ『マルソウ改造自動車教習所2』出演
映画『Zero・Woman-危ない遊戯-』出演
2001年 3月 アナーキー活動休止
ソロバンドDREAD NOUGHT結成
4月 期間限定ユニットANARCHY NAN DA COBRA結成
2003年 1月 ゲタカルビ結成
7月 『THE COVER』コンピレーションCD発売＆発売記念ツアー
2004年 2月 DREAD NOUGHT解散
2005年 10月 アナーキーオリジナルメンバーで20年ぶりの新曲レコーディング
2006年 2月 アナーキーコンプリートBOX 『内祝』リリース
8月 SDR結成
2007年 2月 映画『幽閉者〜テロリスト〜』出演
2008年 2月 映画『傷 -KIZ / KIDS-』出演
7月 映画『ATTITUDE』出演
12月 ドキュメンタリー映画『アナーキー』公開
2009年 2月 映画『少年メリケンサック』出演
SDR 『NO FREEDOM』リリース
2010年 3月 ゲタカルビ『公式海賊盤「壱」』リリース

to be continue...

ゲタカルビ http://getakarubi.net/pc.html SDR http://sdr.rdy.jp/index.html

FILM FOR PUNX パンクの映画★パンクな映画

セックス・ピストルズ 勝手にやったぜ!!

好き勝手にやってくれ!

アルバム『勝手にしやがれ!!』30周年を記念して、2007年11月ロンドンのブリクストン・アカデミーで行われたギグを収録。ここにはパンクとしてのリアルは感じられないが、一級のロックバンドとしての彼らを観ることができる。スティーブ・ジョーンズが奏でるギターの艶っぽさときたら!!

2008年／イギリス／監督:ジュリアン・テンプル
DVD:KIBF-610・￥4,179（税込）
発売・販売:キングレコード株式会社







ROUGH CUT & READY DUBBED

でも、パンクは死なない

長年、ブートでも出回り、多くのパンクスにひっそりと、そして熱く観られていた作品。STIFF LITTLE FINGERSやCOCKNEY REJECTS、UK SUBSなどパンク第2世代を捉えた内容がタマらない。多くのパンクバンドを国営ラジオで紹介したジョン・ピールなども登場し、観どころ多し!

1982年／イギリス／監督:ハーサン・シャー、ダム・ショウ
DVD:NODD-00077・￥3,990（税込）
発売・販売:株式会社ニューズベース







UK/DK

パンクムービーのマスターピース

80年代のUKハードコアパンクを語る上で確実に外せない作品。これを観て震えない人はパンクとは一生無縁だろう。CHAOS U.K.のスクリーミング、DISORDERの落ち着きの無さ、THE EXPLOITEDのヤンチャぶり。そして何といってもTHE ADICTSのファニーさにヤラレルこと必死なのです。

1980年／イギリス／監督:クリストファー コリンズ & ケン ローレンス
DVD:KIBF-599・￥4,179（税込）
発売・販売:キングレコード株式会社





THE PUNK ROCK MOVIE

70年代のリアルに衝撃!

手持ちカメラで撮影されたのが逆にリアルな臨場感を産み出している70's UKパンク映画の基本中の基本。オープニングでポゴりまくる、後年にTHE POGUESのフロントマンとなるシェイン。THE SLITSの原始的リハーサル風景。ブタの頭をタコ殴りするEATERなど見どころ満載。

1978年／イギリス／監督:ドン・レッツ
DVD:TMSS-139・¥6,825（税込） TMSS-140・¥3,990（税込）
発売・販売:株式会社トランスフォーマー



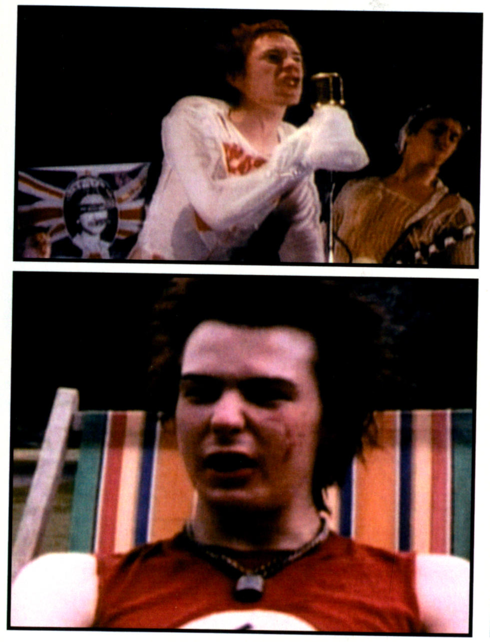


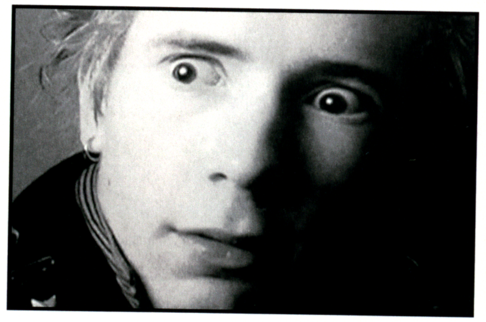
NO FUTURE A SEX PISTOLS FILM

21年後の真実解放

メンバーによる『THE GREAT ROCK'N'ROLL SWINDLE』の意趣返しとも言うべき作品。シドの事を語り涙するジョニー・ロットン（ジョン・ライドン）や恰幅のいいスティーブ・ジョーンズ（まるでマフィア!）など、現在の姿と交錯して映し出される過去のレア映像はファンにはたまらない。

2000年／イギリス／監督:ジュリアン・テンプル
DVD:TMSS-137・￥6,825（税込） TMSS-138・￥3,990（税込）
発売・販売:株式会社トランスフォーマー







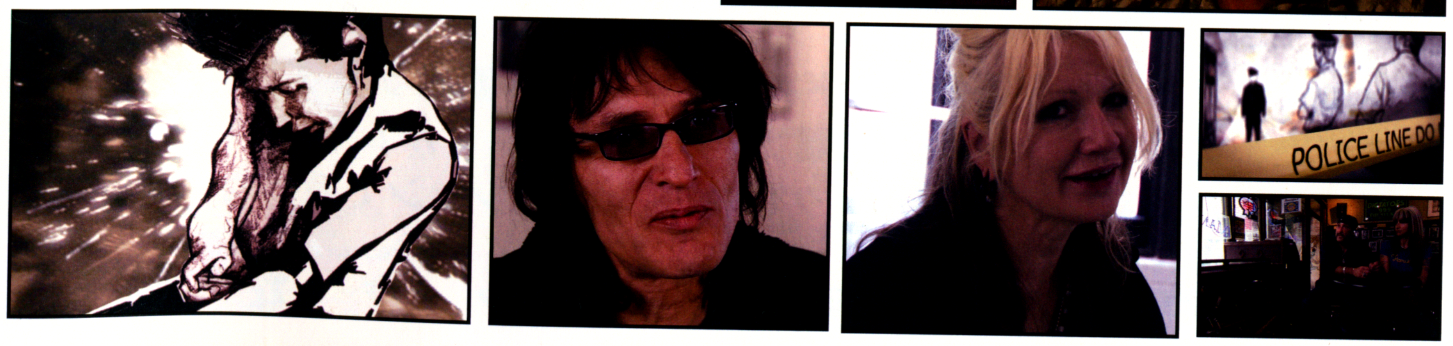
フー・キルド・ナンシー

キーワードはチェルシーホテル100号室

THE EXPLOITEDの「SID VICIOUS WAS INNOCENT」、NAZIS AGAINST FASISMがリリースした『SID DID IT』など、パンク界でよく話題にされる事件の真相を追ったドキュメンタリー。映画よりも真相を探って欲しいと懇願しながら自殺したシドの母親の執念に驚愕だ。

2008年／イギリス／監督・脚本:アラン・パーカー
DVD:KIBF-9620・￥6,279（税込） KIBF-620・￥4,179（税込）
発売・販売:キングレコード株式会社





FILM FOR PUNX パンクの映画★パンクな映画

★映画ライターが選ぶパンクな映画★

数多ある映画から「この映画、キてるよ!」「この映画、めっちゃヤバイ!」と評されるパンクな映画の数々。メジャーフィールドで活躍中ながら“分かっている”、MOBSPROOF編集部激押し映画ライター平田裕介が厳選８本を紹介だ!

text／平田裕介

三等高校生

82年／日本／監督:渡辺祐介／ビデオ:絶版／配給: 東宝



現在はマッチよりもギンギラギンなヨッちゃんだが、たのきん時代はウルトラ能なしポジション。特に映画においては、マッチとトシが喧嘩→ヨッちゃんが仲裁→2人が「オマエはすっこんでろ!」と咆哮する酷い扱い。そんな彼が、ソロ映画デビューを果たしたのがコレだった。しかし、タイトルには“三等”をつけられたうえに共演は田中邦衛。おまけに一緒に気球に乗り、どこまでも飛んでいってジ・エンド! これこそ「BORN TO LOSE」よ!

座頭市(89年度版)

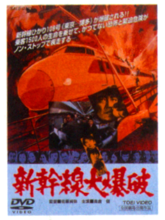
89年／日本／監督:勝新太郎／ DVD:JVDD-1164・¥3,990（税込）／発売・販売:株式会社ジェイブイディー



我らのグルにして総本山にして曼陀羅華にして宇宙でもあらせられる勝新太郎が、もう1人の彼“座頭市”を復活させたメガトン傑作。どう考えても樋口可南子とまぐあうために捩じ込んだシーンありなど、いまさら素晴らしすぎる内容は言う事ナッシング。殺陣のリハに真剣を使ってしまい、俳優の首に刺さって死亡。それでも“だって、映画は真剣勝負だから!”と言わんばかりに撮影凶行、そんでもって大ヒット! ネバー・ギブアップ!

新幹線大爆破

75年／日本／監督:佐藤純彌 ／ DVD:DCTD-2090・¥3,150（税込）／発売・販売:東映株式会社



新幹線の運転士が千葉真一! 仕掛けられた爆弾よりも、そっちに震えるのが筋。すでに“直撃地獄拳”で“ボディガード牙”な雰囲気をたたえた彼が旧国鉄の制服をまとう姿はアナーキーを軽く凌駕。対向する他の新幹線とギリで擦れ違えと運転指令長(宇津井健)に命令されるや、「てめぇ、俺たちを殺す気か!」と咆哮。しまいにゃ、自らバーナーを背負って爆弾のケーブルを切断! しかし、その表情は「ノット・サティスファイド」と言いたげ!

NEW YEAR ROCK FESTIVAL

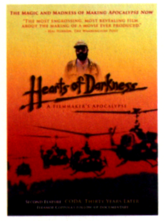
08～09・09～10年／放送:フジテレビ



「私小説なんてもんがあるならよぉ、私映画ってのもよぉ…あってもいいんじゃねぇか?」。そんな内田裕也の趣意を感じるのが、ここ数年における『NEW YEAR ROCK FESTIVAL』TV放送のオープニング。監督&主演はユーヤ。無言でエスカレーターを上がってくるユーヤ。常に杖を手放さないユーヤ。スカイダイブするユーヤ。とにかくメンチ切るユーヤ。かなりの速さで自転車を飛ばすユーヤ。その下に流れるユーヤのメッセージ字幕は、これまた読めぬほど速い。

HEARTS OF DARKNESS

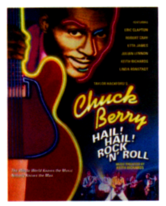
91年／アメリカ／監督:ファックス・バー／ DVD:日本未発売



理論も技術もコネもないヤツらがロックを奏でるのがパンク。理論、技術、コネもあるヤツらが映画を撮ったのに、マジでパンクしたのがコレ! D・ホッパーを現場に呼べば、ヤク中でセリフ覚えられず(しかし、台本が渡されたのは5日前)。話の要になるキャラにM・ブランドを迎えたら、すっかり太って頭から下を写せず。さらに、ロケ地フィリピンの密林には反政府ゲリラがウヨウヨ。とうとう監督コッポラは、リボルバーを頭に当てて発狂!

HAIL! HAIL! ROCK'N'ROLL

87年／アメリカ／監督:テイラー・ハックフォード／ DVD:WPBR90661・¥8,900（税込）／発売・販売:ワーナーミュージック・ジャパン



チャック・ベリーの60歳誕生日記念ライブを軸に、彼が自ら軌跡を振り返るドキュメント。ライブのバックを努めようとキース・リチャーズやエリック・クラプトンら大御所が結集してベリーをリスペクト。でも、当の本人は「ああ…」と気もそぞろ。リハでは「俺のアンプに触るな!」と激昂してペケペケの音でプレイ、映画の製作者でもあるキースを罵倒、しまいにゃ自分で作詞・作曲した曲の歌詞を「忘れた」。それでもライブは大成功! 見習え!

炎の大捜査線

91年／香港・台湾／監督:チュ・イェン・ピン／ DVD:OPL-24868・¥1,480（税込）／発売・販売:株式会社ソニーピクチャーズエンタテインメン



黒社会の顔が本業で、俳優は副業という稀有な方がジミー・ウォング。とにかく犯罪まみれで、現在も香港から台湾に逃亡中という本物。そんな御大が「ちょっと稼がせろや」とジャッキー・チェン、サモ・ハン・キンポー、アンディ・ラウを無理矢理に集めて撮り上げたアクション。とにもかくにも見どころは、出演者たちの表情。誘拐された人というか、銃を突きつけられた人というか…こんなジャッキー見たことない! しかも全員が劇中で死亡!

刑事物語

82年／日本／監督:渡辺祐介／ DVD:ASBY-4456・¥3,990（税込）／販売:アミューズソフトエンタテインメント株式会社



武田鉄矢といえば、“金八”で“赤いきつね”と“緑のたぬき”だった。そんなイメージを完全破壊したのが、鉄矢の原作・脚本・主演によるコレ。のっけからトルコ風呂をガサ入れ。そこで保護した聾唖のトルコ嬢の身元引受人になって同棲。別の事件の聞き込みのためにトルコ風呂を満喫、トルコ嬢にしゃぶりつく鉄矢。そこに映る彼は、それまでの俺たちが知っていた鉄矢じゃなかった。ファッションもDR.FEELGOODのリー・ブリロー風で○。

★ SPECIAL PICK UP ★

おそいひと

コロスゾ…

障害者が殺人を犯すという、ショッキングかつタブーに触れた内容で、上映後に数多くの賛否両論を呼んだ衝撃作がDVD化! 主演は住田雅清42歳、モノクロ画面とノイズ…暴力的衝動と不安や狂気が未知のグルーヴを呼び起こす。

2004年／日本／監督: 柴田剛
DVD:TMSS-169・¥3,990（税込）
発売・販売:株式会社トランスフォーマー



『おそいひと』制作裏話 柴田剛(『おそいひと』監督)

この映画は住田雅清氏という1人の重度肢体不自由者とヘルパーの仲悟志との出会いからはじまった。2000年に準備がはじまり、1年半の撮影後に編集を経て、2004年の夏に完成した。一緒にラーメン屋へ行った時に見た壮絶な食べ方が忘れられない。これからはじまるこの撮影現場をあらかじめ予告されたようで武者震いした。この映画のタイトル『おそいひと』はもともと『欲望といえる神々』だった。編集が終わったとき、欲望もなければ神々もいないことに気付いた。

柴田剛最新作『堀川中立売』近日公開! http://www.horikawanakatachiuri.jp/



ALL CRUSTIES SPENDING LOUD NIGHT 2002

柴田剛監督のハードコアパンク・ワークスが、永遠のジャパニーズ・クラストDVDの金字塔的作品『ALL CRUSTIES SPENDING LOUD NIGHT 2002』だ。収録バンドは ZOE、POIKKEUS、DECONSTRUCTION、FRAMTID、ABRAHAM CROSS、DISCLOSE、DEFECTOR、LIFE、REALITY CRISIS、EFFIGY。そしてボーナストラックとして『FINAL NOISE ATTACK 1997』を収録。

DVD:MCR-179DVD・¥2,415（税込） 発売・販売:MCR COMPANY





PUNK'S NOT DEAD

SUM41なんかパンクじゃねえ

冒頭がTHE RUTSの「BABYLON'S BURNING」…それだけで、ゾクゾクさせられる。SUBHUMANS(UKの方ね)のディックやUK SUBSのチャーリー・ハーパーが延々と出てくるのもいい! 詰め込み過ぎの感も強く、片手落ちなところも目立つが充分に楽しめる。

2007年／アメリカ／監督:スーザン・ダイナー
DVD:KIBF-9520・¥6,279（税込） KIBF-520・¥4,179（税込）
発売・販売:キングレコード株式会社



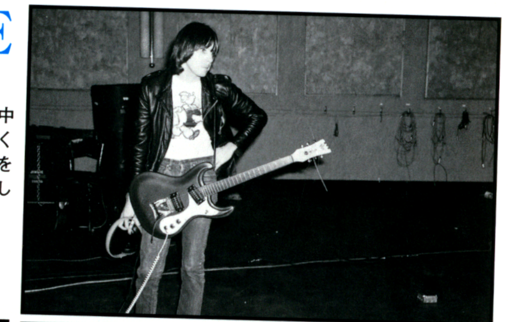


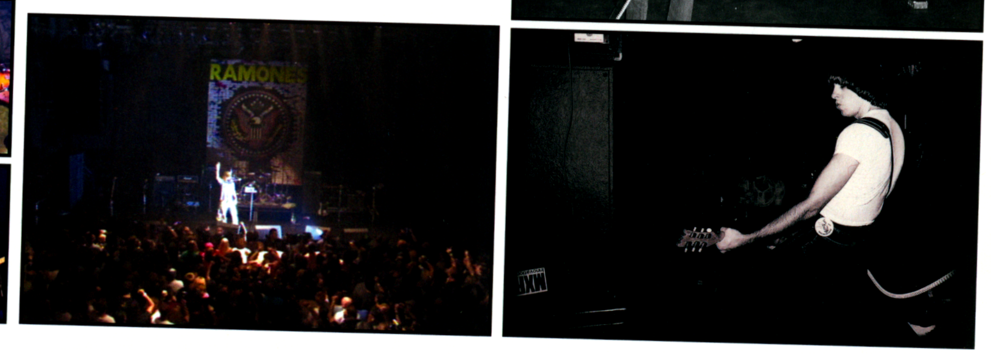
TOO TOUGH TO DIE

豪華メンツのトリビュートライブ

ジョニー・ラモーンの「ファンが待ってるんだ、ステージを中断せずに続けろ」…ファンならば、この一言だけでグッとくるだろう。RAMONESがどれだけロック界に大きな影響を与えたかも再確認でき、そしてヘンリー・ロリンズは何をしてもヘンリー・ロリンズということも再確認できるのだ。

2006年／アメリカ／監督:マンディ・スタイン
DVD:KIBF-9531～9532・¥6,279（税込） KIBF-531・¥4,179（税込）
発売・販売:キングレコード株式会社





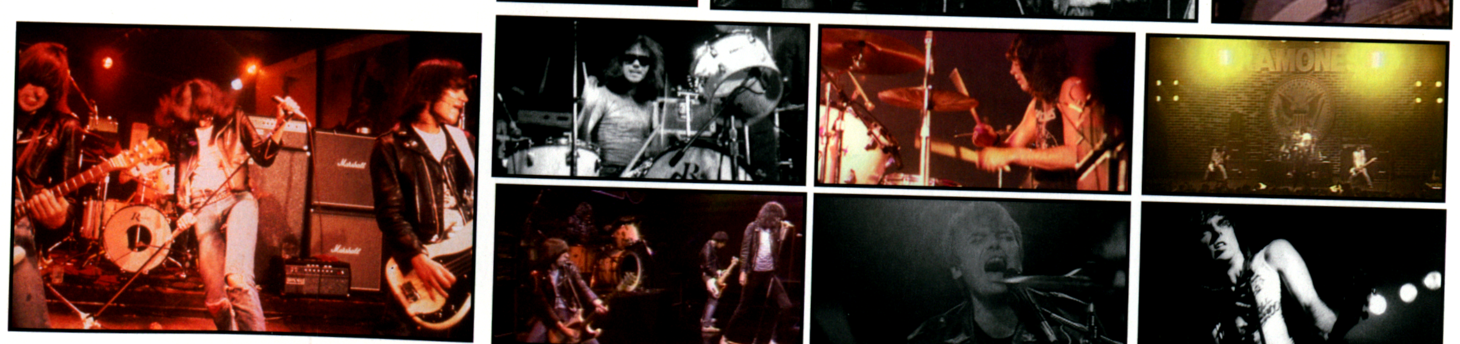
END OF THE CENTURY

3コード革命児、激動の22年!

衝撃のデビューから暗黒時代、復活期などメンバーや関係者の証言を交えバンドの内部をエグるように描いたドキュメンタリー。レア映像も満載だし、ジョー・ストラマーの発言「ジョニー・ロットンはラモーンズの楽屋を訪ねるのをビビって『殴られるんじゃないか』って言ってたよ」も最高!

2004年／アメリカ／監督・製作:マイケル・グラマグリア&ジム・フィールズ
DVD:KIBF-9310・¥9,975（税込） KIBF-309・¥3,990（税込）
発売・販売:キングレコード株式会社





FILM FOR PUNX パンクの映画★パンクな映画

アメリカン・ハードコア

歪んだ社会から産まれた混沌!

格差社会が産んだ歪みを暴力的なまでに激しいサウンドとステージングで抗議した、アメリカのハードコアパンク・シーンを追ったドキュメンタリー。ハードコアパンクがものすごい勢いでアメリカ中を巻き込んでいった様子は痛快。真にパワーが溢れるものはアンダーグラウンドに根付くのだ。

2006年／アメリカ／監督:ポール・ラックマン
DVD:KIBF-9442・¥6,279（税込） KIBF-422・¥4,179（税込）
発売・販売:キングレコード株式会社





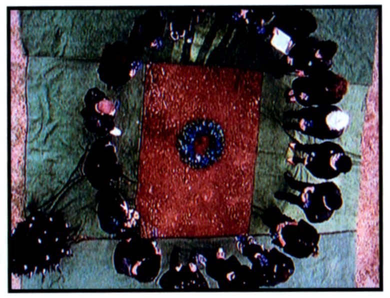



ジャームス 狂気の秘密

悲しきアメリカの狂気

"SEX PISTOLSよりパンクになる"という壮大な目標を掲げ、成し遂げようとしたダービー・クラッシュの壮絶な狂気の日々を描いた作品。ダービー役のシェーン・ウエストはダービーと雰囲気も似ており、彼をヴォーカルにジャームスが再結成されたというのも納得だ。

2007年／アメリカ／監督・脚本:ロジャー・グロスマン
DVD:KIBF-722・¥4,220（税込）
発売・販売:キングレコード株式会社





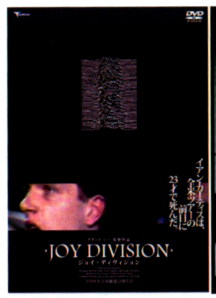


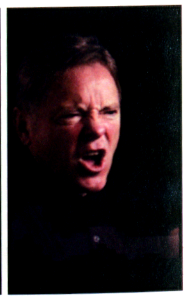
JOY DIVISION

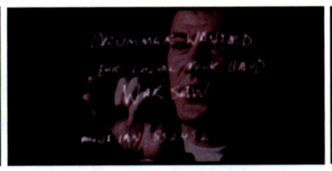
自分たちの音楽を目指した彼らの奇跡

若くして自殺したイアン・カーティスとJOY DIVISIONを追ったドキュメンタリー。VIRGIN RECORDSからリリースされたコンピレーション10"でも知られるエレクトリック・サーカスの様子やWARSAW時代の話など興味深い内容が語られ必見だ。

2007年／イギリス・アメリカ合作／監督:グラント・ジー
DVD:TMSS-112・¥9,975（税込） TMSS-1123・¥4,935（税込）
発売・販売:株式会社トランスフォーマー







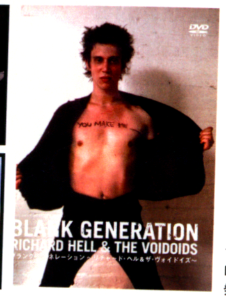
BLANK GENERATION

気怠さと空白の世代

最初に髪を逆立て、Tシャツを切り裂いたパンクファッションのオリジネーターといわれるリチャード・ヘル。スプレー染めのシャツの上にトンでもないオッサンコートを着ているシーンもあるが、やはりカッコいい。お芝居はいただけないものの演奏シーンはルーズで雰囲気も最高!

1979年／アメリカ／監督:ウーリー・ロメル
DVD:NODM-00002・¥3,990（税込）
発売・販売:株式会社ニューズベース







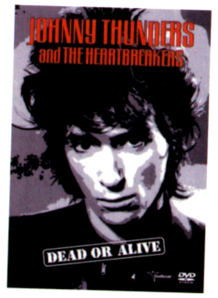


JOHNNY THUNDERS DEAD OR ALIVE

極上ロックンロール炸裂の再結成ギグ!

84年、ロンドンのライシアムで行われた再結成ギグに、多数のアウトテイクを交え制作された作品。名曲連発で間にアコースティック・パートを盛り込むなど、さすがのステージングを見せる。『BORN TO LOSE-THE LAST ROCK'N'ROLL MOVIE』に収録されている映像と見比べるのも面白い。

2001年／イギリス
DVD:TMSS-044・¥4,935（税込）
発売・販売:株式会社トランスフォーマー

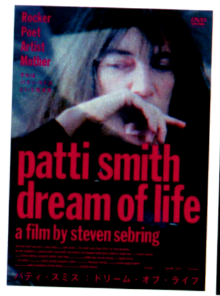


パティ・スミス:ドリーム・オブ・ライフ

主張と生き方が詰まったドキュメンタリー

独自のスタンスで活動を続けるパティ・スミスの人生を、11年間に渡って追った渾身のドキュメンタリー映画。全体的に抑えたトーンで淡々と進みながらも、時に激しく映し出されるシーンの数々は彼女の作品や人生を表していて興味深い。

2008年／アメリカ／監督:スティーブン・セブリング
DVD:TMSS-167・¥9,975（税込） TMSS-168・¥4,935（税込）
発売・販売:株式会社トランスフォーマー





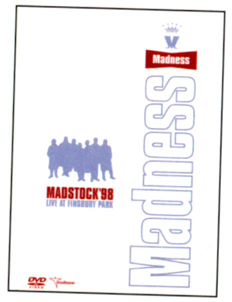

MADNESS マッドストック'98:ライブ・アット・フィンズベリー・パーク

ダンスしまくりのロックンロールショー

80年代初頭、自動車のCMに登場し、日本でも大ブレイクしたMADNESS。ジャンル的にはスカですが紹介しちゃいます。本作はロンドンのフィンズベリー・パークで行われた再結成ギグを収録。ステージの隅っこにメンバーの家族がガンガン映っているのも微笑ましい。

1998年／イギリス／監督:オーブリー・パウエル
DVD:TMSS-049・¥4,935（税込）
発売・販売:株式会社トランスフォーマー





ウィ・ジャム・エコノ ストーリー・オブ・ミニットメン

奇跡の3ピースバンドのすべて!

本編と特典映像を合わせると5時間を超えるという衝撃のドキュメンタリー。ハードコアをベースにフリー・ジャズからファンク、フォークなど様々な音楽を貪欲に吸収した彼らを表すかの様に、様々なミュージシャンが証言していく。ライブ映像もたっぷり!!

2005年／アメリカ／監督:ティム・アーウィン
DVD:KIBF-409・¥4,410（税込）
発売・販売:キングレコード株式会社






★パンクスが選ぶパンクな映画★

形容詞として軽々しく"パンク"という言葉が扱われて久しい…その中でも"パンクな映画"というのもよく聞くが、パンクスでもない人間が発するその言葉はあまりに空虚だ。果たして、リアルなパンクスが選ぶ"パンクな映画"は一体どんな作品なのか?

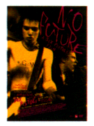


選出者2
僕がパンクを感じる映画。それは元祖『爆裂都市』ともいえる『MAD MAX』! 内容はめちゃめちゃ薄いんですが、暴走族ナイトライダーの不良たちのファッションがカッコ良過ぎます! 登場するマシンも素敵過ぎて男の子ゴコロをくすぐりまくりです。日本パンク創世記にも似たあのファッションセンスは今でも十分通用します(因みにポリスメンのサイジングは、ダサいです)。ババ、最高! トーカッター、最高!!

text by カツナガキック(Discokick)

NO FUTURE A SEX PISTOLS FILM

2000年/イギリス/監督:ジュリアン・テンプル/DVD:TMSS-137・¥6,825(税込) TMSS-138・¥3,990(税込)/発売・販売:株式会社トランスフォーマー



ベッタベタな邦題がイカすぜ! 堅苦しい事は抜きにして、写真集感覚で観てしまえ! ズバリ、見どころは51分24秒のシドジャン+黒い革手袋と、52分00秒のシド(バッキンガム)ジャンと、1時間18分29秒のシドジャン+ピンクのペグトラウザーズと、1時間37分06秒のシドジャン着てクリーパーの臭いを嗅ぐシドと…って、全部シドジャンじゃん!! あ〜あ、僕ん家のテレビがもっと大きかったら一時停止&コマ送りで、もっと色んな事が判明するのにな〜…誰か大型テレビ買って!

text by SWEET GENE the GIGOLOCK (GIGOLO13 / 666)

カッコーの巣の上で (原題:One Flew Over The Cuckoo's Nest)

1975年/アメリカ/監督:ミロシュ・フォアマン/ DVD:WPC-36222・¥3,979 (税込) /発売:ワーナー・ホーム・ビデオ



疾駆する衝動、叛逆の狼煙、動乱の硝煙、ヒロイック! デカダンス! あ、そ〜れ! ほいほいっ!といった、これ見よがしな要素はこの映画には全くありません。が、自由のあり方への考察、含蓄に富んだプロットと、映像で管理社会に疑問を持つ事を教唆してくるパンク映画。印象的なラストシーンの映像。先行き不透明な曇天(自由)が広がる。そこへ飛び込むか? 雨除けと毛布を引き替えに盲従し緩慢な生〜死を享受するか? 主人公の道化は自由は環境によって左右されないというメッセージ。精神病院を自分たちの環境に置き換えるとわかりやすい。

text by ドクターからへんじ(RADICAL PUNK ADDICT)

PETER PAN

2003年/アメリカ/監督:ピー・ジェイ・ホーガン/ DVD:OPF-34932・¥1,480 (税込) /発売・販売:ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント



大人になれない大人みたいな腰抜に、ピーターパンなんちゃらとか病気みたいに言うけど、ピーターパンの名前を悪く使わんといてほしいな〜。映画見ればわかるけど、彼はどんな大人より、覚悟を決めて生きてる男の中の男よ。強いし! フィクションやけどね。かーくんも言うとったけど、ホンマにかっこええ奴はマンガや映画の中にしかおらんのかな〜。

text by なめんなよーかい(JAPAN-狂撃-SPECIAL)

PHANTOM OF THE PARADISE

1974年/アメリカ/監督:ブライアン・デ・パルマ/ DVD:FXBCC-1473・¥3,990 (税込) /発売・販売:20世紀 フォックス ホーム エンターテイメント



若い頃70年代の映画にハマり、この映画にも出会ってしまう。とてもいかがわしく、ずっとカルトで不気味なオーラが漂い、はちゃめちゃで…。でも、何度も観たくなってしまう。まずは冒頭に出てくるロックンロール・アイドル(?)バンドTHE JUICY FRUITSの演奏シーンを2度3度巻き戻して観てしまうことからはじまり、DEATH RECORDSのマークの格好良さに憧れ、胸に刺さる切なさと印象に残りまくる濃い人たちと、トラウマになりそうな名シーンの数々に胸焼けがするほどで、それはもう最高です!

text by バンケイコ(VORTEX)

THE RETURN OF THE LIVING DEAD

85年/アメリカ/監督:ダン・オバノン/ DVD:MGBCC-23030・¥3,990 (税込) /販売:20世紀 フォックス ホーム エンターテイメント



割と小さい頃に観た『THE RETURN OF THE LIVING DEAD」。所謂、『バタリアン』。これと、やはり絶対外せない『悪魔の生贄』。これは映画の中のパンクで、パンクの中のパンクでもあると思います。ぶっ飛んでてかっこ良く、おまけに残忍だ! これまで数多くの映画を鑑賞してきたが、自分にとって、この2本を超える作品には、これからも出遭わないような気がする。「なんだかな」とか思ったりもするが、これでいいのだ(^3^)/

text by TAKAYAMA (PUNK AND DESTROY / FRAMTID / Nightmare)

THE TERMINATOR 2

1984年/アメリカ/監督:ジェームズ・キャメロン/ DVD:MGBNW-15917・¥1,890 (税込) /発売・販売:20世紀 フォックス ホーム エンターテイメント ジャパン



この映画の個人的に好きなシーンは中学生位の悪ガキ・ジョンが、銀行ATMにコンピューターを繋げて金を不正に引き出だすシーンとか、バイク乗り回すとことか、すごく楽しそうで憧れます。しかし、そのジョンが未来から来た殺人ロボット・ターミネーターに命を狙われて、逃亡の旅に出るのです。最後は人間の優しさがロボットを超えます。涙ちょちょぎれるで。ホンマに。

text by ラン坊(JAPAN-狂撃-SPECIAL)

UK/DK

1980年/イギリス/ DVD:KIBF-599・¥4,179 (税込) /発売・販売:キングレコード株式会社

これを観ずしてパンクを語るなかれ! パンクロック・ムービーの基本中の基本。世界中のパンクロッカーのパンドラの箱が開いた珠玉の1本! パンクは死んじゃいなかった! 「Punks Not Dead!!」

text by チャーミー (LAUGHIN'NOSE)

WEDDING SINGER

1998年/アメリカ/監督:フランク・コラチ/ DVD:TDV-2573D・¥6,300 (税込) /発売・販売:東宝

パンク映画同好会女子部(そんなん無いけど)代表としましてはパンク映画も色々あるんですが、たいていはドキュメンタリー、またはアーチストの伝記的なものが多いですね。…女子にはちょっと退屈かも知れません。それでお勧めしたいのが『WEDDING SINGER』。これなら、はじめて彼女を部屋に招いたときなんかに見たらばっちり☆ え? それ、パンク映画かって? いいえ、ラブコメディーです(笑)。80's パンク・ニューウェーブな時代のストーリーでビリー・アイドルが最後にちょっと出演してます! ファーストクラスで酒を飲んでいる姿が拝めます。え? パンクの映画じゃないとダメ? ドリューバリモア、可愛いからいいじゃん!

text by ヤマダミチコ(CHERRYBOMB)

24 HOURS PARTY PEOPLE

2002年/イギリス/監督:マイケル・ウィンターボトム/ DVD:ZMBY-1548・¥4,700 (税込) /発売・販売:メディアファクトリー

パンクから始まりニューウェーブ→ディスコ→クラブ→レイブという流れで、激動のマンチェスター・ムーブメントを当時映像をミックスして制作された映画。シーンの中心クラブ・ソシエンダの仕掛け人で、JOY DIVISION〜NEW ORDERを発掘したレーベルFACTORYオーナーでもあるトニー・ウィルソンと所属バンドを中心に進むテンポの良い映画。皮肉たっぷりのDISな台詞やパンキッシュな発言、ロケーションの暗さ、陰気な空気感は躁鬱英国感たっぷり。映画自体はノー・ファン。そこがグッドです。 text by 廣田(UK EXTRA)

BERNIE

1996年/フランス/監督:アルベール・デュポンテル/ DVD:日本未発売

純粋無垢&誇大妄想狂の孤児青年ベルニーが、"僕の両親は悪党に攫われた"と思い込み(実際は捨てられただけ)、無関係な人間を殺害したり、インコの頭を噛みちぎったりするフレンチ暗黒喜劇。花屋の娘さん(薬物中毒)との歪んだ純愛含め、自己世界と現実世界の絶望的なまでの隔絶、価値観の反転。綺麗事を並べるヒューマニストをベルニーが躊躇なく撃ち殺す瞬間に、パンクと類似した衝撃/衝動性を感じます。無邪気な暴力、そして愛と狂気。

text by 山路健二(EL ZINE)

BLADE RUNNER

1982年/アメリカ/監督:リドリー・スコット/ DVD:HP-12682・¥1,575 (税込) /発売:ワーナー・ホーム・ビデオ/販売:ワーナーエンターテイメントジャパン株式会社

意思、思考能力を持った/持たされた機会人間(レプリカント)が、生への執着から起因する身勝手な製造者(人間)への反逆/抵抗っていう部分もこじつければパンクっぽいのかもしれないけど、なんといってもダリル・ハンナ演じるプリスのビジュアル! 近未来のストーリー、舞台となる街も含めパンクなイメージを感じます。ダリル ハンナは『KILL BILL』でもスネークっていう最高のヒールを演じてて、それもかなり良い!

text by 飯嶋俊男(BASE / MANGROVE LABEL)

BRAVE HEART

1995年/アメリカ/監督:メル・ギブソン/ DVD:FXBNT-8908・¥1,489 (税込) /発売・販売:20世紀 フォックス ホーム エンターテイメント ジャパン

RADIOTSにいちばん縁がある映画といっても過言じゃないです。RADIOTSのライヴに来ている人は皆聴いてると思うけど、ライヴオープニングSEはこの映画からピックしたほど。スコットランドの伝説の英雄ウィリアム・ウォレスを題材にした歴史スペクタクルで、ラヴロマンスの角度からも楽しめる。これから観る人のために大事なネタは伏せます…。ラストで主人公が処刑される間際に"ある言葉"を叫ぶシーンがホントにカッコイイ!!! 自らの生き様とスコットランドの未来への咆哮がこのラストで全て爆発してます。漢(男)なら奮える事、間違いなし!!!

text by YOSHIYA (RADIOTS)

CRY BABY

1982年/アメリカ/監督:スティーヴン・スピルバーグ/ DVD:GNBF-1611・¥2,079 (税込) /発売・販売:ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント

ジョニーデップ初主演映画。不良少年たちが歌って踊って、恋して捕まって、といったストーリーも映像もかなりカッコイイ!! 今では薄くなってきているが、"ロックは不良"というのを思い出させる作品。イギー・ポップも出ているのが、とても貴重!

text by TOMO (CENTER JAPAN MARKET)

EL TOPO

1969年/メキシコ/監督:アレハンドロ・ホドロフスキー/ DVD:OPSD-S134・¥5,040 (税込) /発売・販売:株式会社エスピーオー

どっかのバカ(ジョン・レノン)が権利を一人占めしてたおかげで、長きにわたりお蔵入りとなっていたことでも有名です。この映画を観て号泣した、当時ティーンエイジャーの私は、そのまま障害者解放運動シーンに身を投じてしまい、今に至ります。あまり映画を真に受けるとロクなことになりませんね。

text by NORI (SCREWITHIN / LIFE)

E.T.

1982年/アメリカ/監督:スティーブン・スピルバーグ/ DVD:GNBF-1611・¥2,079 (税込) /発売・販売:ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント

好きな映画で考えると、洋画は『E.T.』、邦画は『蒲田行進曲』になってしまいます。そんな映画を観まくってる訳でもないし、かといって嫌いで全く観ない訳でもない。映画に関しては平均的な男だと自分では思ってます。で、大作から単館系まで、これまでそれなりに観てきた結果、この2本がやっぱ圧倒的です。理由なんか無いです。考えようとも思いません。好きだからしょうがないですね。パンクもそうっす。

text by 国広克典(TOWER RECORDS)

FIGHT CLUB

1999年/アメリカ/監督:デヴィッド・フィンチャー/ DVD:FXBNY-14254・¥1,890 (税込) /発売・販売:20世紀 フォックス ホーム エンターテイメント

虚飾の生活を捨てて、本能の赴くままに思想は集団化。そして暴徒化し、しまいには資本主義の中枢を破壊して誰もが平等な理想郷を…。CRASSやCONFLICTが提唱したアナーキズムを想起する映画だと思う。"9.11"のテロが起きる6年も前に、それを思わすエンディング。当時"「メイヘム計画」が実行されたのか!"と、驚愕した記憶が。製作は大メジャーのハリウッド。その辺りの矛盾も含めてパンク的??

text by 前田真吾(ENCROACHED / TOO CIRCLE RECORDS)

THE INDIAN RUNNER

1991年/アメリカ/監督:ショーン・ペン/ DVD:SPG-13502・¥1,480 (税込) /発売・販売:株式会社ソニーピクチャーズエンタテインメント

ブルース・スプリングスティーンの「HIGHWAY PATROLMAN」を参考にストーリーを描いた物語。温厚な警察官の兄ジョーと粗暴なベトナム復員兵の弟フランクの兄弟ドラマで、フランクを演じたブレイク前のビゴー・モンテンセンのワルぶりな演技に注目。チョイ役ですがデニス・ホッパーもバーテンダー役で出演しています。派手な映画ではありませんが、アメリカン・ニューシネマの反体制的な香りのする映画です。

text by 出田正幸(scope)

MAD MAX

1979年/アメリカ/監督:ジョージ・ミラー/ DVD:RFC-11170・¥979 (税込) /発売:株式会社ワーナーエンターテイメントジャパン

選出者1
『MAD MAX 2』の世界観やヴィジュアルがとてもパンクな感じですが、個人的には79年公開の第1作目が好きです。主人公の元警察官マックスが家族や友人を暴走族に殺されて復讐していくバイオレンスムービーなんですが、幼心にドキドキしながら観ていたのを覚えています。その後の僕の憧れる"一匹狼的なダークーヒーロー像"を強烈に心に焼き付けてくれました(笑)。基本的に映画や漫画、もちろん音楽も怒りや悲しみなどの感情が爆発しているものに(ハードコア)パンクを感じます。

text by EIJI (HERESIES)

















SMITHEREENS

ニューウェイブとパンクの狭間で…

とにかくポスターデザインが最高にカッコいいんです。リチャード・ヘルは『BLANK GENERATION』に比べて演技力が格段にアップ。ゲームセンターのシーンでパックマンの機体がチラリと映っており、そんな時代だったんだな〜と80年代ニューウェーブな気分に浸ってしまう作品です。

1982年/アメリカ/監督:スーザン・シーデルマン
DVD:NODM-00004・¥3,990 (税込)
発売・販売:株式会社ニューズベース

ザ・ポーグス コンプリート・オブ・ザ・ポーグス

パンク魂とトラッドの見事な融合

THE POGUESの全盛期、88年ロンドン・タウン&カントリーでのギグを中心に、ジョー・ストラマーらのインタビューを交えて制作された作品。ジョー・ストラマーをボーカルに迎えた『LONDON CALLING』はTHE CLASHとはまた違った雰囲気で、テンションがアガりまくること必死。

1998年/アイルランド
DVD:TMSS-047・¥4,935 (税込)
発売・販売:株式会社トランスフォーマー







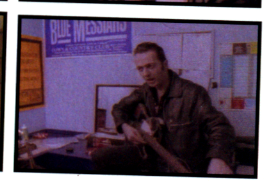




















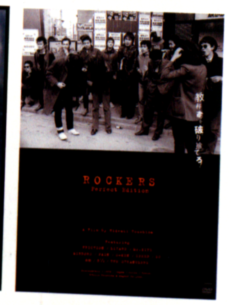
SHANE -THE POGUES:堕ちた天使の詩

12歳で退学させられて正解だった…

インタビュー中、瞳孔をガンガン全開にして「GOD SAVE THE QUEEN」を口ずさむ場面の狂気度がハンパなく印象的な本作。シェインとパンクとの出会いなど興味深い話が連発される。本誌読者的にはNIPS時代の映像が特にツボかも。メンバー間のNIPSに対する認識の違いも面白い。

2001年/アイルランド/監督:サラ・シェアー
DVD:NODD-00042・¥3,990 (税込)
発売・販売:株式会社ニューズベース





ROCKERS [完全版]

日本パンクロック、青の時代の記録

78年、日本で起こった最初のパンク・ムーブメントである東京ロッカーズを克明に記録したドキュメンタリー。当時、最高速であったSSやイギリスのTHE STRANGLERSなどの演奏も観られる。インタビューでの受け答えが時代を感じさせるが、それも見所の1つである。

1979年/日本/監督:津島秀明
DVD:TMSS-143・¥6,825 (税込) TMSS-144・¥3,990 (税込)
発売・販売:株式会社トランスフォーマー



FILM FOR PUNX パンクの映画★パンクな映画

D.O.A.
GREATEST SHITS 1978-1998



カナダのビッキビキにカッコいいハイエナジー・パンクバンドD.O.A.の70年代から98年までの映像を収録。"アクションを起こさない議論は無意味"とばかりに活動を続ける彼らのライブやビデオクリップはシビれる。

(SUDDEN DEATH)

THE CLASH
REVOLUTION ROCK



イギリス、アメリカ、日本など世界各国でのライブ映像の数々が思いっきり熱い! 82年の中野サンプラザでの来日公演の演奏も収録されているぞ。THE CLASHの音楽と同様に、観れば観るほど味が出てくる作品。

(株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント)

FILM OF REAL PUNK DOCUMENTARY

パンクはやっぱりライブ! 滅多に見れない海外のバンドや過去のバンドもガッツリ楽しめ!

EXTREME NOISE TERROR
FROM ONE EXTREME TO ANOTHER



クラストの先駆者E.N.T.が89年、フルハムグレーハウンドで行った絨毯爆弾獰猛ギグの模様を収録。野生を呼び起こす獰猛なツインヴォーカルと凶悪なノイズ、太いリズムが観る者の鼓膜を破裂させる。

(CHERRY RED)

CONFLICT
IN ENGLAND



リード、バーミンガム、ニューキャッスルなどイギリス各地、全7ヶ所でのギグを収録。年代的には84年〜04年で、彼らの遍歴を観て楽しめる。ピリピリとした緊張感が全編を覆ったファン必須の記録映像だ。

(MORTARHATE)

999
FEELIN ALRIGHT WITH THE CREW



84年4月の伝説的なギグを収録。名曲のオンパレードでタイトル通り、"乗組員(観客)にとって問題なし"な名演を体験できる。DVDはボーナス映像で96年に行われた『HOLIDAY IN THE SUN』の映像も収録している。

(CHERRYRED)

THE EX
BUILDING A BROKEN MOUSETRAP



オランダのアナーコパンクTHE EXが04年9月11日、ニューヨークのニィッティングファクトリーで行ったギグを収録。演奏日をイメージさせるシーンのコラージュと熱い演奏シーンとがミックスされて意味深い。

(TOUCH AND GO)

THE CRAMPS
精神病院ライブ-LIVE AT NAPA STATE MENTAL HOSPITAL-



30代後半以前のオールド・パンクスには懐かしいTARGET VIDEOの映像をDVD化。精神病院で繰り広げられる奇跡のステージングに、ただただ唖然。突然、何かに取り憑かれた様にノリ出す患者たちのエナジーがハンパない!

(DEX ENTERTAINMENT)

THE ADICTS
JOKER IN THE PACK



82年と83年、2つのギグを収録。絶頂期の彼らを体験できて、思わず「ヴィ〜ヴァ〜」と叫んでしまうこと必至! 「VIVA LA REVOLUTION」と「JOKER IN THE PACK」のビデオクリップもボーナス映像で収録。

(CHERRYRED)

THE EXPLOITED
PUNK'S NOT DEAD -THE BOX SET



単独でリリースされていた3作品をボックス化。83〜87年に渡り各地で撮影されたギグ風景をまとめたヒストリー・アーカイブ的作品や、91年来日時のクラブチッタでの映像と93年アルゼンチンのブエノスアイレスでのギグなど満載。

(CHERRY RED)

CRASS
CHRIST THE MOVIE



ミック・ダッフィールドによって制作され、CRASSのギグで映されていた3本のフィルムを収録したビデオ。残念ながらDVD化はされていない。CRASSのジャケットやアートワークを思わせるコラージュ映像が圧巻。

(EXITSTENCIL FILMS)

ADOLESCENTS
LIVE AT THE HOUSE OF BLUES



怒りとスピードとメロディックの見事な融合を果たしたオレンジカウンティー伝説のバンドADOLESCENTS。彼らのハウス・オブ・ブルースでのギグを収録した作品。ボーナスでライブCDも付いてます。

(KUNG FU FILMS)

FRAMTID
OVER THE ASHES OF EUROPE 2007



大阪が世界に誇る怒涛のDビート・スカンジ・ハードコアパンクバンドFRAMTIDが07年に行ったヨーロッパツアーの映像を収録。さらにSEEIN RED、FY FAN!など、ツアーで共演したバンドたちの映像も収録している。

(FREEDOM FIGHTER)

THE DAMNED
MACHINE GUN ETIQUETTE 25 TOUR



THE DAMNEDのサードアルバム『MACHINE GUN ETIQUETTE』をタイトルにした25周年記念ツアーの模様を収録した映像集。何と、トータル4時間以上。ライブもベスト的選曲でハズレなし!

(コロムビアミュージックエンタテインメント)

アナーキー
アナーキー



30年以上前に埼玉の不良たちが勢いで結成し、社会一般に対して衝撃を与えた事実! この映画はまだパンクが脅威を誇っていた時代を、現代のパンクスへ伝えるという意味のある歴史的ドキュメンタリーなのだ。

(株式会社キングレコード)

G.G.ALLIN
全身ハードコア



観客への暴力、全裸&脱糞など脅威のパフォーマンスで、世界中に悪名を轟かせた狂気のカルト・パンクスG.G.の壮絶なドキュメンタリー作品。葬儀のシーンでは死顔まで撮影されており、衝撃が走る傑作。

(DEX ENTERTAINMENT)

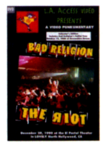
DEAD BOYS
LIVE! AT CBGB 1977



77年のCBGBでのライブを収録。とにかく、身体に貼り付けたハムをステージ上でムシャムシャと食べるスティーヴ・ベイダーの奇行に釘付け。本当にいきなりなのでビックリです。しかし、彼らのカッコよさは普遍!!

(MVD)

BAD RELIGION
THE RIOT



メロディとエナジーが炸裂するBAD RELIGIONの90年12月カリフォルニアのエル・ポータル・シアターで行ったライブを収録。1000人以上のオーディエンスが集まり、中止&暴動騒ぎとなったタイトル通りの一夜を追体験できるぞ。

(MVD)

GOVERNMENT ISSUE
A HARD.C.ORE DAY'S NIGHT



82年、85年、88年にDCハードコアパンクの伝説GOVERNMENT ISSUEが行った3本のギグを収録した作品。レア写真が満載のライナーノートも良い。バンドもオーディエンスだけでなく、視聴者も約3時間燃えっぱなし!

(DR.STRANGE)

DEAD KENNEDYS
DMPO'S ON BROADWAY



アメリカを代表するDEAD KENNEDYSの84年、DMPO'Sで行われたライブを収録。4台のカメラでシュートされた熱気溢れるライブ映像で、ビアフラの独特かつ奇妙なステージアクションも完全フォロー。

(CHERRY RED)

THE BOYS
SICK ON YOU



2009年の来日公演の記憶も新しいTHE BOYSのライブDVD。80年代のイギリスでのライブやYOBS時代のライブ映像だけでなく、01年にドイツで行われた再結成ライブも収録されています。

(CHERRY RED)

LEATHERFACE
BOAT IN THE SMOKE



新作(かなりの傑作!)がリリースされたばかりのLEATHERFACEが04年3月23日にカムデンで行ったギグを中心に、01年のギグやヴォーカリストであるフランキーへのインタビューも収録したゴリゴリな作品。

(PUNKERVISION)

DISCLOSE
WEST COAST CHAINSAW TOUR 2004



現在も世界中で支持され続けるDISCLOSEが04年に行ったアメリカ西海岸ツアーを収録。セミのようなノイズコアに酔いしれ暴れまくるオーディエンスとバンドが渾然一体となっている様はDビート・ノイズ天国!

(男道レコード)

BUZZCOCKS
AUF WIEDERSEHEN



ドイツで行われた81年のギグ17曲に、96年のブラックプールでのライブを1曲収録。解散前の映像の中では最もベストな状態と言える本作。ドイツでもBUZZCOCKSの人気は高く、会場中ポゴダンスの嵐だ!

(CHERRY RED)

FILM FOR PUNX パンクの映画★パンクな映画

仁義の墓場

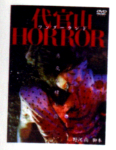
1975年/日本/監督:深作欣二/DVD:DCTD-2156・¥3,150(税込)/発売・販売:東映ビデオ株式会社

女は犯して情婦にするわ、世話になった親分はおろか、自分を庇ってくれた兄弟分すらブチ殺す戦後の混乱期を生きた石川力夫が求めたモノは!? 大阪でのペェを覚えるシーンや骨をかじるシーンなど、トラウマ必至!! "大笑い30年の馬鹿騒ぎ"。観た後には脱力感しか残らない!

text by ミナミ(反権力ZINE)

代官山 HORROR (悪魔の棲む街)

1987年/日本/監督:石井てるよし/DVD:PCBE-51415・¥3,129(税込)/発売・販売:ポニーキャニオン



1987年リリース作品で、ストーリーは割愛。登場する ドクターデッド&スプラッターオールスターズ名義で、なんとGASTUNKのメンバーがそのまま(!!)出演しています。代官山アパートの廃墟に突如現れた、HEARTFUL MELODY TOURのドデカいバナーをバックに名曲「WAR BIRD」の演奏&映像が拝めます! 演奏で呪い殺した少女の臓物を満面な笑顔で喰らうメンバーたちに震える事必至!! 劇中歌として、アルバム『DEAD SONG』から同テイクの黙示録「NIGHT SLIGHT LIGHT」も収録。"最後の扉、開け〜"。

text by 井上晃彰(下北沢KILLERS)

追悼のざわめき

1988年/日本/監督:松井良彦/DVD:ADE0803・¥10,290(税込)/発売・販売:エースデュースエンタテインメント

20歳過ぎ頃、会員になって足繁く通っていた今池シネマテークで観た多くの映画の中でも、"極"な感じが際立っていて、当時の自分にはかなりの衝撃的な内容だった。ブッ飛んだ内容はかなり暴力的であるが、言葉に表せない"いやらしい部分"を刺激しまくる。数年前のデジタルリマスター版は観に行けなかったがDVDで観るのは、この作品に関しては意味が無い。機会があれば映画館の暗がりの中で一度"体験"してみては。

text by ナカムラ(レコードショップアンサー)

爆裂都市

1982年/日本/監督:石井聰亙/DVD:DSTD-2481・¥4,725(税込)/発売・販売:東映株式会社

荒廃した未来都市。過激なパフォーマンスを繰り広げるロックバンドと、それに熱狂する若者たち。それを取り締まろうとする警察。土地開発計画を企てる暴力団。強制労働を強いられる下層民…。入り乱れる思惑。快楽と暴力。パンクとはなんぞやと聞かれて答える術を未だ持たない私ですがパンクな映画を1本挙げろと言われたら迷わずに、この『爆裂都市』を挙げます。スターリン、ルースターズ、ロッカーズ、町田町蔵(INU)。以上の名前にピンときた方はレンタル屋へGO! 個人的には泉谷しげるの怪演を押したいところ。何故か作家の飯田譲治(『NIGHT HEAD』)がチョイ役で出ていたりもします。

text by 蘭子(ロマネスコ)

遥かなる時代の階段を 私立探偵 濱マイクシリーズ第2弾

1995年/日本/監督:林海象/DVD:FLBF-8042・¥2,940(税込)/発売・販売:フォーライフミュージック



大して映画なんて観た事無いのに、いざとなると"コレ!" って決めるのは難しいもんですね。悩んだんですが"映画"という事で、映画館で観た中で印象に残っているものをチョイスしました。内容は横浜が舞台の探偵ものです。主人公の事務所が映画館の2階にある設定なんですが、実際にロケに使われた"日劇"という古い映画館でロードショーを観ました。映画の中にはよく知った風景、さらに映画の中と実際の季節が共に春。映画館を出てからさらに感じるリアリティは興奮しました。その日劇も2007年に取り壊されてしまいました…無念!

text by Masaaki"KOBA"Sweden aka.Captain Rydeen (FADE-IN RECORDS)

破片のきらめき〜心の杖として鏡として

2008年/日本/監督:高橋愼二/配給:心の杖として鏡として制作委員会



心の病を抱え、入院、通院をする人たちが、様々な想いを絵画、詩、音楽、アートなどを通し表現する。この作品たちがとにかく素晴らしい! 精神科どうこうなど、どうでもいい圧倒的な素晴らしさがある。是非とも生で実際見てみたい作品ばかりだ。ちょっと繊細で、社会には溶け込む事が出来ない、社会から「心の病」と言われる人たち。彼らの心は"病"なのだろうか……? ゴッホだってメチャメチャなんだが…(笑)。世の中や社会に認められた中でも、特に優れたモノを産み出すアーティストは少なからず"心の病"だ。彼らの中の1人の詩の言葉から…"芸術とは治ってはイケナイ病気なのだ"。『カッコーの巣の上で』には無いリアルはいかがでしょう。

text by ISHIYA (FORWARD)

ビー・バップ・ハイスクール 高校与太郎哀歌(エレジー)

1998年/日本/監督:那須博之/DVD:DSTD02129・¥4,725(税込)/発売・販売:東映ビデオ株式会社



誰も選ばなそうなのを、と思ってこれにした。ビー・バップの見所数あれど、パート2に当たるこの作品は突出している。主役はヒロシでもトオルでもない。ミスター・ボンタン狩り、城東のテルさんである。ビー・バップ、いや不良映画屈指のキャラ・テルを上回る奴にはまだ出会っていない。彼の話す全てが名ゼリフ。彼がビー・バップ、ヤンキー界に与えた影響は図り知れない。濃すぎるが故に2度と出演する事は無かった。唯一無二の男、テルから目を離す暇は無いのである。

text by 宗(PAINTBOX)

野獣死すべし

1980年/日本/監督:村川透/DVD:KABD-87・¥4,700(税込)/発売・販売:角川エンタテインメント



あの、松田優作主演のハードボイルド・ウルトラヴァイオレンス・サスペンスアクション。幾多の伝説を残した夭逝の俳優が通過した、最強に攻撃的で最悪に不気味なマジカルミステリーツアー。地下カジノで用心棒(RIKIYA!)を銃撃してビビりの余り、拳銃から指が抜けなくなるくだりからクラシック音楽に耽溺しつつ、デリヘルを呼んで何もせずに嬢の自慰をパフェか何か舐めながら眺めて、ナンパして、瞑想して、銀行強盗→逃亡→殺人→フラッシュバック→仲間割れ→殺人→変なポーズで固まるなどなど、世界に対し悪虐の限りを尽くします。「君は今、確実に美しい!」。大藪春彦の伊達邦彦像とは若干どころか大いに隔たりがあるようですが、そんなの関係なく(野獣アフロの加賀丈史も含め)畏敬の念というのは、こんな奴らに抱くものなのだと思いました。とにかく、最もキレキレだった時期の松田優作とクライマックスでのリップバンウィンクルのお話しon電車は真似したくなるよ確実に!

text by サカナ(ZYANOSE)

掲載順はアルファベット順→50音順となっています。

アナーキー

2009年/日本/監督:太田達也/DVD:KIBF-619・¥4,179(税込)/発売・販売:株式会社ソニーピクチャーズエンタテインメント

日本を代表するパンクバンド、アナーキーのドキュメンタリー映画。日本のパンクロックシーンと社会に与えた強烈なインパクトをメンバー自身、当時の関係者、影響を受けた現在進行系で活躍しているミュージシャンたちのインタビューなどで追求し、貴重な映像も収録。当時からリアルに聴いている人、僕みたいにまだ生まれていなかった人にも是非。刺激たっぷりなのでチェックしてほしい作品です!

text by RYOxT (BLASTWORK RECORDS)

ウィークエンドシャッフル

1982年/日本/監督:中村幻児/ビデオ:絶版/発売・販売:ジャパンホームビデオ



昭和ぶっこわれムービー! 原作は筒井康隆で静かな週末の住宅地に生じる奇妙なズレから巻き起こる1日の大混乱を描く。ひょんなことから1人息子を誘拐(息子の狂言なのだが)され、途方に暮れる新妻に秋吉久美子。マヨネーズを買いに出かけ、犬とSEXして抜けなくなり搬送中の救急車に跳ねられる夫に伊武雅刀。息子の誘拐に頭を悩ましているところへ百科事典のセールスマンが訪問! これまたひょんなズレから泥棒に変貌。さらに誤解から強姦魔へと変化する泉谷しげると多彩な顔ぶれ。他にもぶっとんだ設定が満載。衝撃のラストは射殺で首ちょんぱなのだ!

text by 00べ〜(ADIXION)

ガキ帝国

1981年/日本/監督:井筒和幸/DVD:GNBD-1446・¥3,990(税込)/発売・販売:ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント



もし、この『ガキ帝国』と『狂い咲きサンダーロード』がこの世に無かったとしよう。JAPAN-狂撃-SPECIALが産まれることは無かったんとちゃうやろか。内容については面倒臭いから触れんとくけど、興味あるヤツは我がで勝手に探して見なさい。まあ、コレ観たからって狂撃になれるワケちゃいまっせ。元SS/コンチネンタルキッズ、現・騒音寺マネージャーのしのやんも出演してるので探してみよう!

text by 昭和過激(JAPAN-狂撃-SPECIAL)

ガメラ3-邪神(イリス)覚醒-

1999年/日本/監督:金子修介/DVD:DABY-8・¥4,935(税込)/発売元:大映/販売:株式会社ファーストディストリビュージョン



えー、パンクな映画と言う事ですが、俺に話が廻ってきた時には何故か「怪獣映画で」と言う事に。パンクと怪獣。無理です(笑)。と、いう訳でタイトルを一切無視して進めます。さて、怪しい獣と書いて怪獣です。その名の通り、どこで産まれ、どこから現れ、何の目的で街や人を襲うのか(しかも日本ばかり)一切不明の巨大生物です。そこが魅力でもあるんだけど、この平成ガメラ3部作ではあえてそこに明確な理由づけをする事にチャレンジしてます。まず、そこが好き。印象に残るシーンもテンコ盛りです。渋谷での戦いでは、ガメラはギャオスを火炎放射で焼き払います。群衆ごと(笑)。光を背に雲海を飛ぶイリスは神々しささえ醸し出し、そのシーンだけで酎ハイ3杯飲めます。そしてラスト…何回観てもグッときます。とにかく、怪獣をでっかく、カッコ良く撮ってます。あー、この文字数では限界だ(笑)。とにかく見て下さい! ー怪獣映画の復活を願ってー

text by ZIGYAKU (JUDGEMENT)

刑事物語

82年/日本/監督:渡辺祐介/DVD:ASBY-4456・¥3,990(税込)/販売:アミューズソフトエンタテインメント株式会社



毎回、武田鉄矢が演じる片山刑事の拳法はギャグかもしらんが最高のアクションや!! ハンガーを振り回し「ハイー」と言う雄叫びというか、気合いというか、あの掛け声! 痺れます。ラストのテーマ曲、吉田拓朗の「唇をかみしめて」は毎回泣かせます。武田鉄矢バージョンもヤバイのでマニアックな人はぜひ聴いて下さい。全5作、最高傑作やで。

text by キワメミチJUNZØ (JAPAN-狂撃-SPECIAL)

幸福の黄色いハンカチ

1977年/日本/監督:山田洋次/DVD:DA-4627・¥2,800(税込)/発売:松竹ホームビデオ/販売:松竹株式会社



心の師匠・山田洋次監督、男の師匠・高倉健、永遠の恋人・倍賞千恵子と60年代70年代を生きてきた人々には豪華な面子。高倉健の男気をパンクと言わずして、何を言わんや! 無口な健さんが(どの作品でもほぼ無口なんだけど)出所後、元妻の元へ帰るまでの葛藤の数日を描いている。その数日に登場するのは武田鉄矢(金八先生キャラでなく、彼の初期はチンピラ風情でいい)、桃井かおり(決して美人ではないけど味がある)。この3人の様子を淡々と描いて、合間に健さんの過去が回想されて物語は進んでいく。そしてラストは余りに有名なあのシーン。涙が止まりません。山田洋次監督の作品は『男はつらいよ』『キネマの天地』など、どれもこれも好きなんです。"男一匹硬派にいきるぜ!"と自分自身に問いかける(なかなか自分、そうはなれないんですが)。男は黙って高倉健とハードコアパンク!!!!

text by NORI (POGO77 RECORDS)

狂い咲きサンダーロード

1980年/日本/監督:石井聰亙/DVD:TMSS-121・¥4,515(税込)/発売・販売:株式会社トランスフォーマー



80年代、ロック、暴動、衝動、工場、バイク、若者たち…とにかく憧れる要素しかない完璧な映画。出演陣、台詞、美術しかり、劇中の音楽を泉谷しげる、THE MODS、PANTA & HALで構成。まさにパンク・ロック/ニューウェイブで成り立っている。あまりに思い入れが強すぎて、ある時は博多の天神地下街を駆け抜けに行き、ある時は金沢での監督とジンさん(山田辰夫)のトークショウで号泣。自分が狂い咲いてしまった永遠のバイブル。

text by 小泉優(DISK UNION 新宿パンクマーケット)

仁義なき戦い 広島死闘編

1973年/日本/監督:深作欣二/DVD:DCTD-2027・¥3,150(税込)/発売・販売:東映ビデオ株式会社



"WAR WITHOUT HONOR"なんて直訳するとまるでハードコアパンクのタイトルのような、故深作欣二監督による新世代ヤクザ映画(当時)第2弾!! それまでの定番だった昭和ヤクザの仁義と義理などの世界(主に建さん、鶴田浩二)など虚構にしか過ぎねぇーッ、とばかりに昭和20年代から40年代にかけて実際に起こった広島呉戦争〜神戸代理戦争を題材に一大旋風を巻き起こした名作シリーズ!! 村岡組の若衆、山中(北大路欣也)と村岡組長の姪、靖子(梶芽衣子、最高♪)の悲恋と、対立する大友組の大友勝利(千葉真一)の傍若無人ぶりが、よりパンク的な混沌と暴力の世界を際立たせる!! 最後のシーン、山中の壮絶な拳銃自殺で物語は終焉に向かうが、拳銃を口に加え自殺する方法は後のNIRVANAのカートの死に様をも想起させる。それにしても当時、『平凡』や『明星』の表紙を飾り、アイドル的存在だった千葉ちゃんを思い切り汚れ役に起用した深作さんはセンスあるなぁー。

text by 戦-Guy- (ORIGIN OF [M])

5 2010/2/28sun

ECODAMNED

THE PRISONER

OLEDICKFOGGY

SLIGHT SLAPPERS

SPIKE Oi-SKALL MATES

ELECTRIC SUMMER

SCUM BANDITZ

CHEERIO ボンクラ峠 GASOLINE

FOLLOW UP NIGHT at LOFT



FUCK ON THE BEACH

YAS OIL THE WELLCARS Oink

OLEDICKFOGGY

Discharming man S.V.S

200mph

REALITY CRISIS ACROSTIX

★CHIKA CHIKA

JABARA.

6 2010/3/7sun

FILM FOR PUNX

パンクの映画★パンクな映画

Various Artists
PUNK ATTITUDE



プレ・パンクからニューヨーク・パンク、ロンドン・パンク、さらにイギリス、アメリカのハードコパンクシーンからグランジまでを追ったドキュメンタリー。ドン・レッツの視点なので少し偏った内容だが、見応えあり。

(株式会社キングレコード)

Various Artists
PUNK EARLY YEARS



これを観なきゃはじまらないという定番中の定番作品の1つ。SEX PISTOLS、X-RAY SPEX、GENERATION X、SLITS、THE ADVERTS、EDDIE & THE HOT RODSなど最高のメンツがザラついた少し薄暗い映像で迫ってくる。

(MVD)

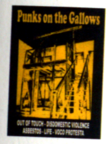
Various Artists
PUNK IN LONDON



77年ロンドン・パンクシーンをドイツ人監督ウォルフガング・ヴュルトが8mmでシュート。両親と共にインタビューに答えるLURKERSやヘイト・ジャーマニー・アティテュードを炸裂させるジャン・ジャック・バーネルまで必見!!

(株式会社キングレコード)

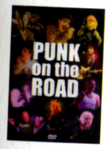
Various Artists
PUNKS ON THE GALLOWS



ASBESTOS、VOCO PROTESTA、OUT OF TOUCH、LIFE、DISDOMESTIC VIOLENCEを各バンド1ステージ丸ごと収録した大ヴォリューム。反骨抵抗炸裂クラストをガッツリと体験する事ができる。

(IN CRUST,WE THRASH / AKTIVA // PROTESTA)

Various Artists
PUNK ON THE ROAD



低クオリティの技術ながら、強い意思と熱意でもって集められた80's UKハードコアパンクの不良的映像の数々は、どんな高価な機材で撮られた映画を凌駕する。21世紀まで唾を吐き続ける崇高なコンピレーションだ!

(CHERRY RED)

Various Artists
PUNX CREATIVITA E RABBIA



ファン感涙の80～84年のイタリアン・パンク／ハードコアパンクシーンを追ったドキュメンタリー。WRETCHEDなど巻き舌が炸裂するガビガビの約2時間濃厚タイム! 50ページのぶ厚いブックレットも嬉しい。

(SHAKE)

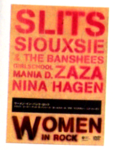
Various Artists
SLOG MOVIE



SIN 34のドラマーでもあるデイヴ・マーキーのプライベート・フィルムで構成され、81～82年のオレンジカウンティーシーンを一気に楽しめる作品。CIRCLE JERKS、T.S.O.L.、FEAR、WASTEDYOUTH、CIRCLEONEなど収録。

(株式会社キングレコード)

Various Artists
WOMEN IN PUNK ROCK



70年代後半から80年代のパンク＆ニューウェイヴ全盛期に活躍した女性アーティストをアーカイブした作品。パンクがロック界の男性至上主義を打ち砕き、価値観を変えた証を観ることができるドキュメンタリー。

(コロムビアミュージックエンタテインメント)

Various Artists
BURNING BRITAIN THE HISTORY OF UK PUNK1980-1984



G.B.H.、DISCHARGE、DESTRUCTORS、CHAOS UK、SKEPTIX、ONE WAY SYSTEM、THE EXPLOITED、THE VARUKERS、ABRASIVE WHEELS、AD NAUSEAM、MAU MAUSなどパンク帝国の国宝級映像で悶絶!

(CHERRY RED)

Various Artists
BURNING SPIRITS ALL JAPAN 2006-2007



FORWARD、COLORED RICE MEN、SLANG、ORIGIN OF [M]、EXTINCT GOVERNMENT、原爆オナニーズ、FRAMTIDなどなど日本中から33バンドを収録。ジャパニーズ・ハードコアパンクのリアルを体験できるぞ!

(BURNING SPIRITS)

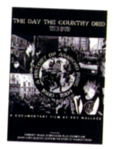
Various Artists
CONFLICT FOR FREEDOM 2009



09年5月に行われたEXTINCT GOVERNMENT主催イベント『CONFLICT FOR FREEDOM』を生々しく映像化! 日本各地の精鋭ハードコアパンクバンドたちによる頂上作戦を、死ぬ程堪能できる濃厚な作品だ。

(SHOCK'80s)

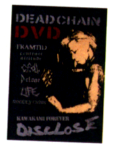
Various Artists
THE DAY THE COUNTRY DIED



リリース当時、アナーコパンクスファンに衝撃を与えたドキュメンタリー。CRASS、CONFLICT、SUBHUMANS、LIBERTY、TOXIC WASTE、CHUMBAWAMBAなど、思わず漏らしそうになる豪華メンツ!

(CHERRY RED)

Various Artists
DEADCHAIN DVD KAWAKAMI FOREVER



名古屋を代表するイベント『DEADCHAIN』で行われたDISCLOSEのヴォーカリスト川上追悼ギグ『KAWAKAMI FOREVER』の模様を完全収録。関わりの深かったバンドたちの熱演やDISCLOSEのレア映像を観ることができる。

(SQH)

Various Artists
D.O.A.



78年1月5日アトランタから78年1月14日サンフランシスコまでSEX PISTOLSのアメリカツアーを追ったドキュメンタリー。ラリラリなシドへのインタビューや、あまりにも狂っているアメリカの観客など見所満載。

(株式会社キングレコード)

Various Artists
Oi! Oi! Oi!



PETER & THE TEST TUBE BABIES、BLITZ、THE BLOOD、THE EXPLOITED、SECTION 5、THE OPPRESSEDなど多くのOi!パンクバンドの演奏シーンとインタビューが楽しめる。労働者階級の叫びを聞け!

(CHERRY RED)

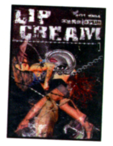
Various Artists
PUNK AS A FUCK



04年11月に新宿LOFTで行われた『POGO 77設立10周年ライブ』の模様を収録している。TOM & THE BOOT BOYS、ORdER、EXTINCT GOVERNMENT、LIFEなどスパイキーキッズ・アー・イノセントな内容。

(POGO 77)

LIP CREAM
1984 不法集会.Plus



日本が世界に誇る至宝LIP CREAM。84年12月3日の『ハードコア不法集会レコ発ギグ』と85年7月の新宿ロフトでのギグをカップリング収録。他にもアーカイブ的に全9タイトルがリリースされており、全パンクス必見である。

(ONI)

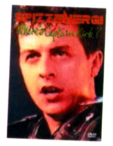
MINOR THREAT
LIVE AT DC SPACE,BUFF HALL,9:30 CLUB



80年にDCスペースでの様子や、82年のニュージャージーのバフホールで行われた5人時代の未発表ギグなどを収録。オーディエンスと揉めるイアンや暴動寸前の燃え上がる映像が満載だ。16ページブックレットも付いている。

(DISCHORD)

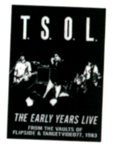
SPIZZENERGI
WHERE'S CAPTAIN KIRK?



コロコロと名前を変える事で知られるSPIZZ。超名曲「WHERE'S CAPTAIN KURK?」をタイトルにしたこのDVDでは、96年のブラックプールで行われたフェスティバルの風景やインタビュー、プロモ映像を収録している。

(CHERRY RED)

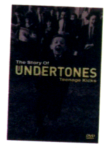
T.S.O.L.
EARLY YEARS LIVE



声なき大衆が政府に抗議するがごとき迫力に満ちたステージングが最高に熱いT.S.O.L.のFLIPSIDEとTARGET VIDEOに残した83年頃の初期映像を収録。ボーナスで2007年のライブも収録されている。

(MVD / TARGET VIDEO 77 / FLIPSIDE)

UNDERTONES
BEST OF UNDERTONES TEENAGE KICKS



アイリッシュ70'sパンクバンドUNDERTONESのインタビュー、ミュージックビデオだけでなく、多くの貴重映像を満載。彼らのサウンド同様、ノリノリなDVDだ。ジャッキー・チェンファンクラブ名誉会員ASHとの共演も収録!

(SANCTUARY TV)

WARHEAD
GET THE FUCK OUT OF MY WAY



京都から産まれた孤高のハードコアパンクバンドWARHEAD。彼らのUKツアー全8ヶ所の激燃映像を収録。疾走感抜群の映像はヴァーチャルに彼らのライブを体感できる。ボーナスでビデオクリップも収録されている。

(LESS THAN TV)

Various Artists
924 GILMAN ST LET'S TALK ABOUT TACT AND TIMING...



世界的にも広く知られるD.I.Y.なスペース、通称・ギルマンのドキュメンタリー。ジェロ・ビアフラやイアン・マッケイ、CITIZEN FISHなど21年の歴史を彩る人物やバンドが豪華! 先頃解散したD.S.B.のライブも収録されている。

(ALTERNATIVE TENTACLES)

Various Artists
BRITISH PUNK INVENTION



80年に制作されたこともあり、パンクバンドだけでなく、ニューウェイヴバンドも収録された本作。SEX PISTOLS、THE CLASH、THE JAM、MADNESS、THE POLICEなど定番中の定番バンドの定番映像をたっぷり楽しめます。

(コロムビアミュージックエンタテインメント)

ロックの本質は〝革命〟、〝狂気〟、〝魂〟

毎回、ジャンルレスで衝撃を与え続けるイベント『FOLLOW UP NIGHT』。その先に見える究極的目標にガソリンの効いた写真で迫る！

text / 下北沢MURDER JUNKIES (DIWPHALANX RECORDS / FOLLOW UP)



SCUM BANDITZ



エコダムド



THE PRISONER

表層的な相違はあれど本質は同じ

DISK UNION、DIWPHALANX RECORDSが制作しているフリーペーパー『FOLLOW UP』（毎月25日発行／DISK UNION店頭や全国のライヴ・ハウスで配布）が主催しているイベント『FOLLOW UP NIGHT』。と言いながら、もはや僕の個人的なイベントみたいになっていますが…（笑）。2008年から不定期に開催して今回で6回目。5月には3回連続開催するので、8月1日には10回目の開催予定です。新宿LOFTのメイン・ステージとバー・ステージでスタート16時からノンストップで22時まで交互に演奏するスタイルでやっています。毎回、出演セレクトの基準をいろんな人に聞かれるのですが、セレクトは単純明快です。主催者の僕が昔から思いれのあるバンド、今、心から震えるバンド、一緒に同じ空気にいたい同志的存在のバンド、そして最終的には単純に呑み友達バンドを集めただけです。世間一般的には一見バラバラなジャンルと思われがちなメンツですが、僕なりにハードコア、パンク、そして狂気を感じるものを自己の基準でセレクトしています。それは表層的な音やルックスや年代、活動しているシーンの場所などに相違はありますが、向かう〝本質〟が一緒、目指している〝地平〟は同じと感じれる事を第一義的に考えて選択しています。例えば昨年2009年ベスト5と断言できる最高傑作のアルバムをリリースしたOLEDICKFOGGY、PAINTBOX、TURTLE ISLAND、THE PRISONER、Discharming man。全て立脚しているシーン、表層的な音は全バンド違いますが、僕の中では同じ〝地平〟を見ているのです。これらのバンドが表現する音世界は人間の〝存在論〟を我々に投げ掛け、まさにノド元にナイフを突きつける作品群だと思います。この5バンド揃い踏みのイベントとかは究極の夢であります。ここに、さらに加えるとしたら、BATTLE OF NINJAMANZですかね。まあ、それも僕個人の錯覚や誤解で、〝そう思っているだけ〟かも知れません。しかし人生なんて〝錯覚〟や〝幻想〟かもしれないので、それでいいと思っています。デカルトの〝我思う故に我有り〟という有名な命題がありますが、この目の前で起きている〝感動〟や〝奮える魂〟は僕にとっては差し替え不可能な〝真実〟であり、〝リアル〟だから、それで良いと考えます。それがどれだけ不特定多数の世間一般の方々に届くかは未踏の領域ですが、ロックの本質は〝革命〟、〝狂気〟、〝魂〟というのを第一義的なテーマに据えてやるしかないかなと錯覚しています。それが最終的にはお客さん、出演者、ライヴハウス、スタッフにそれぞれの視点で伝染し、そこに混沌、狂気、覚醒の磁場が形成され、ジャンルや派閥、世代、価値の境界線が崩れれば最高かなと思います。いつかTURTLE ISLANDの「斑デ踊レ」のような世界を現実世界で体現できる日を夢みて。あ、あといずれTURTLE ISLANDフル・メンバーでバー・スペース・フロア全体を使ったライヴを実現させます！ それにGUITAR WOLFのバー・スペースも見てみたいと思ってます。今後のセレクトにご期待して頂ければ幸いです。



OLEDICKFOGGY



ELECTRIC SUMMER

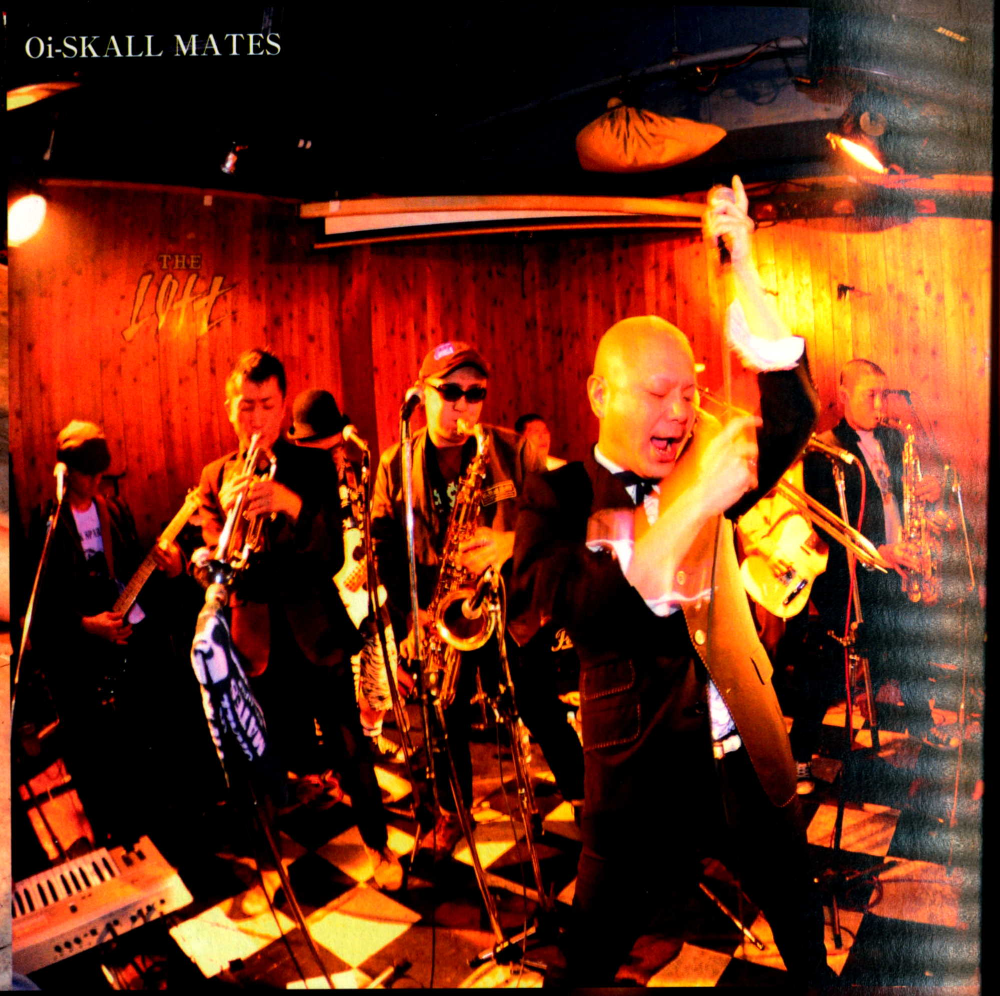


SPIKE

photo / Motoki Matsushima



GAOLINE



Oi-SKALL MATES



ボンクラ峠



SLIGHT SLAPPERS



CHEERIO

photo / Yuki Akase



ACROSTIX



OLEDICKFOGGY



200mph



YAS OIL THE WELLCARS



Discharming man



REALITY CRISIS

photo / Yuki Akase





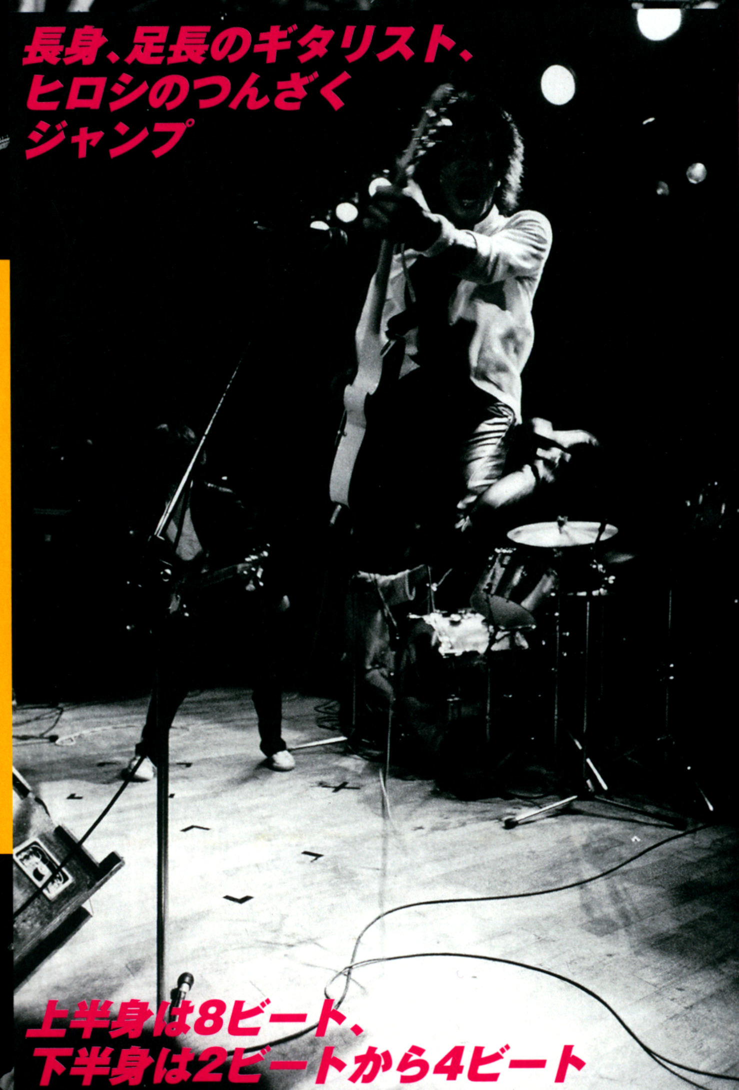



ZIGZAG ヒロシ

京都、伝説のパンクス

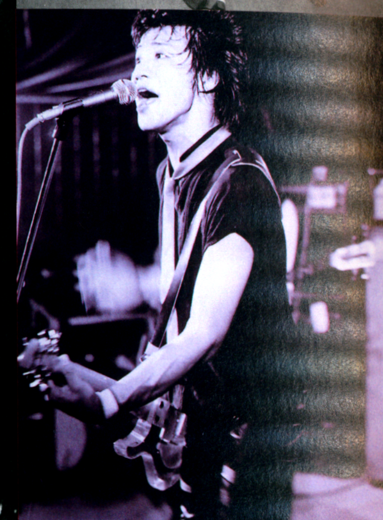
レアフォト発掘!

JAIL HOUSE、21st CENTURY BOYSなどのバンドで活動していたヒロシが80年に結成した伝説のバンドZIGZAG。70年生まれの筆者が気付いた時にはすでに伝説で、唯一のリリースである『MADD POWER』も同級生の家で彼の先輩からダビングしてもらった…曾孫コピーぐらいされた音の悪いカセットテープで聴いたのが最初だった。だから、まともに『MADD POWER』を聴いたのは先日リリースされた再発が最初で、荒くれ不良サウンドに改めて痺れたのであった。今の若いパンクスにも充分に刺激的なZIGZAG。再発を記念して7月30日に新宿ロフトで『BE PUNX』ギグが行われる。LAUGHIN'NOSEやZIGZAGの「イチビリ」をカバーしたTHE ZETTなど共演も豪華メンツで見逃す手はないぜ!（編集部）

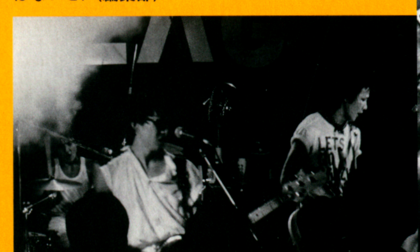


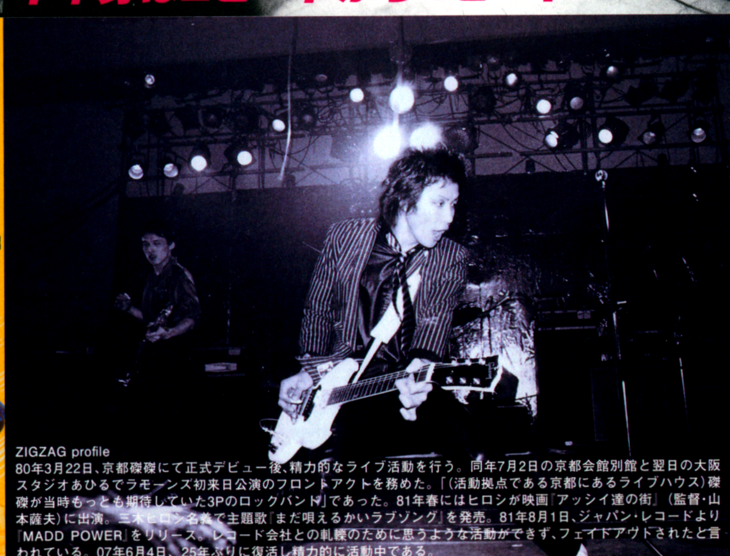
長身、足長のギタリスト、ヒロシのつんざくジャンプ

上半身は8ビート、下半身は2ビートから4ビート







ZIGZAG profile
80年3月22日、京都磔磔にて正式デビュー後、精力的なライブ活動を行う。同年7月2日の京都会館別館と翌日の大阪スタジオあひるでラモーンズ初来日公演のフロントアクトを務めた。「（活動拠点である京都にあるライブハウス）磔磔が当時もっとも期待していた3Pのロックバンド」であった。81年春にはヒロシが映画『アッシイ達の街』（監督・山本薩夫）に出演。三木ヒロシ名義で主題歌『まだ唄えるかいラブゾング』を発売。81年8月1日、ジャパン・レコードより『MADD POWER』をリリース。レコード会社との軋轢のために思うような活動ができず、フェイドアウトされたと言われている。07年6月4日、25年ぶりに復活し精力的に活動中である。





S.V.S

CHIKA CHIKA



JABARA.





FUCK ON THE BEACH



OINK

photo / Motoki Matsushima

FOLLOWUP NIGHT 5 2009.03.07 Bar Stage

WEB http://www.diwphalanx.com/ Twitter http://twitter.com/edgein666
『FOLLOW UP NIGHT VOL.8』 5月29日(土)下北沢SHELTER THE PRISONER ワンマン
『FOLLOW UP NIGHT VOL.9』 5月30日(日)下北沢SHELTER OLEDICKFOGGY / SCUM BANDITZ / OINK / REDNECKS

日本列島シリーズ・ギグの今! FUTURE NOW!!

HERE is STRONG LOCAL GIG

日本各地に様々なバンドが活動しており、多くのバンドが地元で地に足の着いたギグを企画している。そんな日本各地の名物シリーズ・ギグを紹介する新企画第1回目は愛知県の『DEAD CHAIN』と『NOISE OF MIND!』、新潟の『PROTEST AND SURVIVE』、山梨県の「酔拳夜～俺達の排気量GIG」、茨城県の『NEVER SAY NEVER』、三重県「激烈音隊突撃開始ギグ」の6つが登場。今後も引き続き、日本各地のパンクスから投稿を待っているぞ! Think Globally,Act Locally!!

山梨県 ■ 酔拳夜～俺達の排気量GIG～

2006年6月28日スタート
18回目（2010年3月27日現在）

05年に結成された山梨のハードコアパンクバンド・ゼビットC.Cが結成から1年経った翌年06年からシリーズギグとして『酔拳夜～俺達の排気量GIG～』を開始（酔拳夜=スイケンナイトと読む）。山梨では唯一のハードコアパンクの企画だ。毎回県外から3～4バンドを呼び、県内からはゼビットC.Cの他、2バンドが参戦。メンバーのJUN（ベース）が、別でやっているバンドがサイコビリーバンド（『酔拳夜』にも出演）という事もあり、ハードコアパンクとサイコビリーを織り交ぜた内容となっている。お客は決して多いとは言えないが、熱い出演バンド勢で中身の濃いライブ。ハードコアパンク勢の演奏時はダイブあり（ただし、観客が少ないため、床に転がる）、サイコビリー勢の演奏時ではパンチ合戦が繰り広げられ、観客たちの反応がそれぞれ違う所がまた面白い。“別にジャンルが違おうが、真剣にやってる奴はスゲーカッコイイ!!”というメンバーの考えの元、開催されており、確かにハードコアパンクとサイコビリーというジャンルは違うが、毎回カッコイイ面子が勢揃いだ。山梨はハードコアパンク／パンクバンドが極端に少ない。観に来るお客も少ない。そんな状況であるが、地元をもっともっと盛り上げていくためにも、これからも企画は続けていく。より多くの人たちに、とにかく一度足を運んでいただきたい。見て絶対に損はしない内容だと思う。言葉では上手く表せないので、この衝動を直に感じてほしい。実際に見て、聴いて、感じて個人個人が何を思うか。きっと熱いものが伝わると思う。 ＜text 森澤由香＞

＜これまでの主な出演バンド＞
WITHOUT SYSTEM / CROSSFACE / バギングライフ / 902 / 8000 / 牙 / 九狼吽 / MAD GUILLOTINES
DEADLY DRIVE / THE Qo'noS and more

next gig!…詳細はHPをチェック http://ip.tosp.co.jp/i.asp?I=suikennight





茨城県 ■ NEVER SAY NEVER

2002年2月2日スタート
47回目（2010年4月4日現在）

波山企画『NEVER SAY NEVER（以下、NSN）』は2か月に1度、奇数月第1土曜日に茨城県つくば市にあるライブハウスPARKDINERで開催しています。茨城に越して来た私が「見たいライブ、遊びに行きたいライブが無い!」っという事ではじめたのが私のバンド波山（HAZAN）であり、この企画『NSN』です! Oi!～スキンズ系を中心にパンク、ハードコアからラスティック、サイコビリーまでジャンルにこだわらず、見たいバンドや一緒に酒を飲みたいバンドを茨城に呼び、地元のバンドと共にもてなす! 地方にしか出来ない地方ならではの企画を目指しています。広い駐車場を有するPARKDINERでは夏場はライブ前にBBQをやったりとリハ前から打ち上げまで終始呑みっぱなし! 宴会の様なライブイベントとして多くの仲間たちと共に毎回酔っ払いながらも楽しい時を過ごしています（笑）。PARKDINERの立地条件や茨城のパンクシーンの現状からか、大きなバンドの出ないライブには正直なところ、満足の行く集客は出来ないかも知れませんが、そこに集まる我が仲間たちの熱さといったら東京や大阪、他の大都市にも負けない頼もしいハジケっぷりで、時には“フロアよりもステージの方が人が多いんじゃないか?”と疑うような24時間テレビのエンディングを思わせる光景も見る事が出来ます（笑）。是非、一度その目で確かめて下さい! また国内外のツアーバンドのサポート受け入れも積極的にやっておりますので“ツアーに茨城を!”と思っていただけるなら、是非とも一声かけて下さい! ＜text カガミ（波山）＞

＜これまでの主な出演バンド＞
THE CASUALTIES / KLASSE KRIMINALE / RADIOTS / CHERRY COKE$ / FC FIVE / LAST TARGET / NEWDAWN
THE HAWKS / 仁籟 / 真摯 and more

next gig!…7月3日（土）、9月4日（土）、11月6日（土）それぞれ茨城PARKDINER

三重県 ■ 激烈音隊突撃開始ギグ

2003年3月1日スタート
81回目（2010年5月1日現在）

パンクシーンが無かった四日市にパンクショップVORTEXが01年10月にオープン。2002年3月からVORTEXと僕による企画『激烈音隊突撃開始ギグ』ははじまった。その頃、四日市にパンクバンドはなく、県外のバンド中心だったがACROSTIXを結成し、企画に加わり活動を広げるにつれ、不定期ながら企画を継続し、様々なバンドを四日市に招き、ほとんど素通りだった国内外のツアーバンドが四日市に来るようになってきた。10年1月の企画（NIGHTMARE、ORdER、FEROCIOUS X、BUILD MORE SPEED、T.N.A、ACROSTIX）で50回を迎え、次回の6月9日（DOOMSDAY HOUR、WARHEAD、鉄アレイ、T.N.A、END OF SEEDS、ACROSTIX）で52回目となる。この初夏にBLOOD SUCKER RECORDSよりリリースされるACROSTIXのアルバムのレコ発として四日市CLUB CHAOSにて3DAYSを開催します。これからもツアーサポートを中心に地元にこだわって企画を続けて行くので是非、足を運んで下さい! ＜text ACROSTIX＞

next gig!…7月2日（金）四日市CLUB CHAOS
FRAMTID（大阪）、ALLIANCE（東京）、DISGUST（愛知）、CONTRAST ATTITUDE、ACROSTIX DJ:SO（KAOTIK-HERO）
7月3日（土）四日市CLUB CHAOS
MUSTANG（函館）、THE LITTLE MIRRORS（静岡）、FOLKEIIS（愛知）、T.N.A、ACROSTIX DJ:BAN&ARISA（VORTEX）
7月4日（日）四日市CLUB CHAOS
CRUDE（函館）、WARHEAD（京都）、NICE VIEW（愛知）、END OF SEEDS、ACROSTIX
DJ:SIGAchang、MINAMI&TAKAYAMA（IT LOOKS FORWARD TO A LIFE）



愛知県 ■ DEAD CHAIN

2003年5月3日スタート
81回目（2010年5月1日現在）

『DEAD CHAIN』ギグがはじまったのは、現在を遡る事7年、03年の5月。SHINTARAW（REALITY CRISIS／ギター）と、SOGA（ROTARY BEGINNERS／ベース・ヴォーカル）の密談から始まる。その根底にあったのは、今も続く『ALIENSLAP from NAGOYA』（※EIGHTMENが主宰する名古屋最古参ビリー系シリーズ・ギグ）の存在。そこには確実に彼らの居場所があった。それに対する言葉は、“EVERY MONTH 1st SATURDAY NIGHT FEVER!”。名古屋の第1土曜は、俺たちパンクスの夜! 社会の鼻つまみ者ハードコアパンクスの居場所を創るべく始動する。当初はREALITY CRISIS、ROTARY BEGINNERS、ORdER、そして今は無きTOMORROWの4バンドで回す合同企画としてスタートしたが、現在では“DEAD CHAIN=死鎖”の名が示す通り、死ぬまでその鎖で繋がる名古屋パンクス全体の合同企画となっている。そこに至る経緯は、名古屋CITYCORE特攻隊長、九狼吽が2006年5月、『DEAD CHAIN』の名の下、自らの企画『DEADLY DRIVE』を持ち込んだ事に端を発する。そのライヴは決して侵略ではなく、迎合でもなかった。名古屋企画という大きな枠の中に、九狼吽そして『DEADLY DRIVE』を魅せつけた狂宴の場となった。その後、様々なパンクバンドを巻き込み、各バンドの主宰するギグを巻き込んで、現在の『DEAD CHAIN』＝『NAGOYA CITY HARDCORE』として成立している。ライヴ自体は正にカオス。常連もいれば、初めての客もいる。既知のバンドも、未知のバンドも。でも、それがパンクの鎖で繋がっている事は、間違いの無い事実。名古屋パンクスの居場所であり、バンドが自らの責任を背負う場所。酔い潰れ、混沌に身を任すも良し、緊迫した空気の中で臨場感を楽しむも良し、SATURDAY NIGHT FEVERで熱く燃える、それが『DEAD CHAIN』。第1土曜の夜、俺はまた飲みに行く。 ＜text / Shutoh（E.A.S.T. PEACE）＞

＜これまでの主な出演バンド＞
REALITY CRISIS / ROTARY BEGINNERS / ORdER / TOMORROW /九狼吽 / -REJECT- / D-clone / DISGUST
ZILEMMA / YAS OIL THE WELLCARS / STRIKE OUT / TURTLE ISLAND / EXTERMINATE and more



next gig!…HUCK FINNで毎月第1土曜日開催



next gig!…6月6日 HUCK FINN
AVFALL（東京）、ROUGH STUFF（東京）、GORGORNS、SHOCK TROOPS
ATTACK SS、MODE、-REJECT-
9月11日 TINY 7、11月27日 TINY 7

愛知県 ■ NOISE OF MIND!

1998年
27回目（2010年5月1日現在）

『NOISE OF MIND!!』がはじまったのは、かれこれ12年くらい前。当時、結成したばっかだった-REJECT-は、仲良くしてもらっとったKAGEの主催するギグや、牙、THE BOPSが主催するギグによく出さしてもらっとったんだけど、“いつも呼んでもらっとるばっかじゃなくて、こっちからも呼ばないかんでしょ?”ってのと“自分たちでやりたい時に、やりたいよーにやろまい!”ってのといろんな思いがあってはじめた。もちろん、その際にはお世話になった人もいっぱいおって、特にKAGEにはとってもお世話になりました。感謝です! そーゆー経緯もあって、ギグに出てもらうバンドのジャンルにこだわりはなかった。お世話になったバンド、メンバーの好きなバンド、県外で仲良くなったバンド、ギターの弾き語り、ただの友だち、ただの酔っ払い、ただのバカ…そんなラフでアットホーム（?!）な雰囲気で年に3～4本。今年の11月で“祝・30回”を迎える。『NOISE OF MIND!! VOL.2』コンピレーションCDが出た時にゃ、東京ZONE-Bで『発売記念NOISE OF MIND!!』も企画した。最近のギグは、10年2月20日のHUCK FINN。出演バンドはHAIRIO、DARGE、九狼吽、STRIKE OUT、LAST SENTENCE（大阪）、THE SICK（津山）、-REJECT-。髪の毛立てた奴、短パン履いた奴、酔っ払い、外人、ち○こ、ま○こもみんなが熱く入り混じって最高のギグだった。けが人が出て救急車で運ばれるほど盛り上がった（ちなみに、2日間入院して無事退院しました）。しかも! THE SICKのボーカル・こーしは、河村たかし（名古屋市長）そっくりだった…。これからも年に3～4本くらいのペースでやっていくつもり。 ＜text KAGO（-REJECT-）＞

＜これまでの主な出演バンド＞
A.S.K / THE VICTIMS / STRENGTH / VENUUX / THE SUBVERTS / GROW / SUNYA / REALTY CRISIS
THE DICK SPIKIE / RADICAL UP / CHAOS / TOM & BOOT BOYS / HAT TRICKERS and more

新潟県 ■ PROTEST AND SURVIVE

1993年スタート

当初は好きなバンドや仲良くなったバンドを地元で見てみたいのと、自分たちが楽しみたいっていうのが始まりです。なので、個人的にライブを見るのにちょうどいい、4バンド位でやることが多いです。最近ではツアーバンドのサポートがほとんどになっているので、別の形で“面白いことが出来ればな”と考えています。
＜text アサリ（AGE）＞

＜これまでの主な出演バンド＞
ACROSTIX / ANODE / DISCLOSE / FINAL BOMBS / GAUZE / GLOOM / IDORA / S.D.S. / VIVISICK and more





当コーナーへ自身のシリーズ・ギグ紹介希望のバンド・企画者はMOBSPROOF編集部へメールにてご連絡ください。折り返し詳細をお送り致します。

NOISECORE SYMPOSIUM

恐怖！ノイズコア復興の宴！
公害発狂雑音狂乱放出者たち

ロブロブロブビンビン！
おしゃれな若者たちが集う下北に、
どうしようもなくノイズコアにヤラれた
パンクスが集結。最早、これはノイズ・テロだ！


AZUSA (STAGNATION / C)




SYUN (DISCLAPTIES / C)


MICCYAN (ex SIEG-HELL)


AWAYA (HAZARD)


NOZAKI (ex COLLAPSE SOCIETY / STAGNATION)

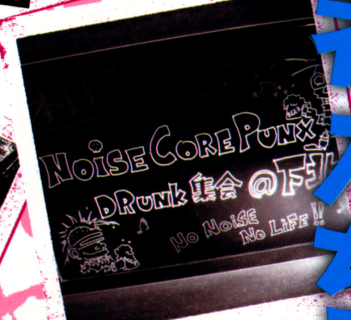

PASSY (ex CONFUSE / C)




SAWJIRO (ABRAHAM CROSS)











ハードコアっていうたら無茶苦茶やらんといかんとよって…

DISORDER、CHAOS U.K.、CHAOTIC DISCHORDなど、毒電波に乗って世界中に広がっているノイズコア。過去から現在に至るまで日本でも多くのノイズコアが産まれた。その中でも80年代初頭に登場したGAI、CONFUSE、SEIG-HELL、白(KURO)など九州のバンドたちは現在でも世界各国のパンクスたちに支持され続けている。今回、CONFUSE、SEIG-HELLというノイズコア・マスターともいえるバンドの元メンバーに現在、精力的に活動中のSTAGNATIONを迎え、これからのノイズコアについて徹底座談会を行う事になった…のだが…!

まずは九州ノイズコアの話からいいですか? ハードコアを知ったきっかけというのは?

みっちゃん(以下み)：知ったっていうより、か聴いとったよね、耳に。ロックンロールとかが出てきて、時代的に。

パッシー(以下パ)：DISCHARGEと

それはいつ頃ですか?

パ：うーん、中2かな。

音源は手に入りやすかったんですか?

み：ピストルズとか友達とかでレコード屋に行って。最初はピストルズの前にPIL(PUBLIC IMAGE LIMITED)ってあったやん? PILを中学2年ぐらいから聴いて、それから勝手にパンクを聴いてた。

周りにパンクを聴いている人は多かったですか?

パ：昔学でバンドがおって、そこのヴォーカルがみっちゃんの同級生で、一緒に聴いてたよね。

み：あそこはお父ちゃんがすごかったね。マスコミ関係の人でパンクのレコードを持ってるわけ。聴いたことがないような。そこでピストルズのシングルとかも持っとったけん。

パ：あとはアナーキーとか。タイムリーな感じで。

み：スターリンとか。

パ：80年代になって、なんかハードコアパンクっちゅうもんがあるらしいばい"って。DISCHARGEをはじめて聴いて"なんやコレ! 全部同じに聴こえる"って。怖いよね。中2にとっては。

その頃にバンドは?

パ：その前…中2の終わり頃から友達とやっとって。ヘヴィーメタル好きで、マイケル・シェンカーになりたくて(笑)。でも、なぜかパンクの方へ。簡単なのからやってこうかって。上の世代がヤンキーばっかりだったんで、自然とアナーキーとか。そしたらだんだんと…人生間違っちゃって。

み：まっしぐらで(笑)。

アズサ(以下ア)：でもピストルズとかをやっていて、あんなギターの音になっていったの?

み：海外のバンドみたいにしようとしても、どうも音がおかしいぞと。高音をバーっと上げても違ってて。そうしているうちにイコライザーとか出てきて。あっ! そういうのはマッド(※1)が早かったよね。みんなで使って。

エフェクターは何を使っていたんですか?

み：エフェクターはディストーションとイコライザー。その2つだけ。

あわや(以下あ)：他のバンドと対抗してウチらの方が変な音を出すぞって競い合ったとか?

み：あっ、それはあるね。でもマッドが飛び抜けてて、何か動物の鳴き声を逆回転させてノイズを作ったり。

パ：マッドの兄ちゃんがテクノ好きで、今でいうオタク的な音作りをしたりして。で、弟のマッドがその影響を受けてて。当時、マッドの家にはオープンリールがあって、多重録音が出来てね。レコーディングでマッドスタジオっていうのはマッドの部屋やからね(笑)。

パ：ディス(※2)とマッドは幼なじみで、ガキの頃から近所に住んでたんだよ。友達の家でバックだけ録った後、マッドの部屋のベッドの上で布団を被ってヴォーカルを録るんだけど、布団を被ってもうるさいけん。

み：近所迷惑やったね。

一同：爆笑

パ：で、終わったらラジカセのスイッチをガチャって。GAIやSIEG-HELLもカセットで録りよったね。それを売って。

み：練習も録ってね。

パ：当時は16~17歳だし、金もなかったしね。

レコーディングなどで先輩たちに色々教えてもらったりは?

み：2つ上の先輩たちもバンドやりよったけど、全然違う音やったしね。

パ：博多っていったら、めんたいビート(※3)が多かったしね。パンクというよりニューウェイブ的な。

み：違うって意識はなかったけど…でも、少し怖かったね。ビートは(笑)。

パ：不良が多かったしね。

み：レコード屋でガンガン、アレしよっちゃしね～(笑)。

み：前から歩いてくるのが見えたら右にキュッて曲がったりね。ヤバイでって。

ライブはどこで?

パ：常にレンタルホールやったね。

み：すぐにダメになってね(笑)。

パ：昔からTHE MODSとかがやってた所は1回で出入り禁止。

暴れ過ぎで(笑)?

パ：昔で田舎やし、情報は雑誌で読んだものぐらいで…"ハードコアっていうたら無茶苦茶やらんといかんとよ"って(笑)。スターリンが無茶苦茶やりようのを勘違いして。

あ：今にしてやっちゃったな～ってのは?

パ：あるバンドを潰しに行ったこと。

一同：エ～～～ッ!

み：仲間の1人が襲撃に行って消化器を振り回したら、滑って自分で被って自滅して(笑)。で、2回目に行ったら、やっぱ彼らは俺らより年上でね。帰り際も「お前らかっこよかったで」って。

パ：俺らガキやったから、あっけにとられてね。

み：そのバンドの車を眺めてね。

み：対応が大人やったね。

パ：でも、向こうもみんな木刀持って来とったけどね。俺らも黒い警棒とか持って行とったけど、バカだから(笑)。で、行こうかなって思ったら向こうも真っ黒に塗った木刀を持って来ていて。確か山善(※4)の企画だったかな。

み：そうやね。

パ：山善が「お前ら止めろ」って止めに入って話し合いがはじまった。

あ：あからさまに対立したりは無かった?

パ：うん、無かった。当時のノリで。

ア：一応、先輩だったんでしょ?

み：そうやけど、地域が違ったからね。

パ：そんな事があったから、次にウチの方へ来るときはバンド名を変えてたもんね。でも、分かるやんね。

そしたらみんなでワーッと?

パ：うん(アッサリと)。みんな、暇やったけんね。

バンドの話に戻って…バンドのメンバアーは同級生同士とか?

み：SIEG-HELLは元々、全部バラバラ。不良グループがいくつかあったのね。ウチらがライブしている時に潰しに来たりしてね。

パ：玉ねぎ投げられたり(笑)。

み：滅茶苦茶だったね。で、それが敵対してるのに何故かバンドを組んで。

パ：後にSWANKYSのベースになるTVが元々SIEG-HELLのベースで、その同級生がヴォーカルだったね。CONFUSEは…俺は後から入ったんだけど、元々のメンバーたちは同級生。CONFUSEは博多でなくて、少し外れた所で。たまたまディスが博多に行って色々と知り合ったらしくて。当時、ライブのチケットって街中でパンクっぽい奴がいたら声をかけて売ったりしてね。300円ぐらいやったかな。高くて500円ぐらいで。で、ディスが博多へ行った時にSWANKYSのメンバーが「パンクな奴がいるぞ」って声をかけて来て、CONFUSEのみんなで観に行って…。その頃はまだSWANKYSとも仲良くなくって、「あいつら生意気やね～」とか言うとったけど、だんだんと「いや、アイツら良い奴らやぞ」って風になって(笑)…仲良くなった。

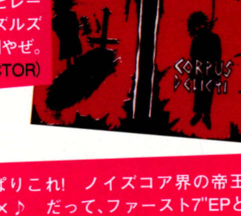
NOISECORE DISC GUIDE

CHAOS U.K. - CHAOS U.K.



針を落とし、初っ端のノイズで失禁。そしてタムの連打で脱糞。カオスが歌いだし、曲がはじまった時の微妙なモタリ具合からの加速っぷりで死亡。1曲目からこれだけ楽しめる至極の逸品。蝉の鳴き声。何故かうちに4枚あります(笑)。 02 (DEATH DUST EXTRACTOR)

U.B.R. - ORGANIZIRAN KAOS



結構、最近に出た編集盤。ブートなんか? 取りあえず名前がシブい。"理由なき反抗"だそうや。んで、CRUST WARからも出ていた『KA'E ALTERNATIVA』コンピレーションの音源が即死決定。ズルズルのポンコツで殺傷能力全開やぜ。 02 (DEATH DUST EXTRACTOR)

PUBLIC IMAGE LIMITED - METAL BOX



近年すこぶるヘビーローテーションしたアルバムNO.1がこいつです! メタリックで突き刺さる感じのノイズギターが癖になるんです。行き当たりばったりの展開も馬鹿にできません(ダウナー系)。 jo2 (EXITHIPPIES)

CONFUSE - CONTEMPTY FOR THE AUTHORITY AND TAKE OFF THE LIE



今でもヘビロテ!! やっぱりこれ! ノイズコア界の帝王♪ かなり影響受けた作品♪×♪ だって、ファースト7"EPと自殺レーベルのオムニバスの3曲入りだよ!! センス抜群のノイズギター(蝉)。スペーシーさもあるんだ～～～よ! トータルで考えるとホントに抜群の勢い! バランス!! そこ、それ、大事。バランスね! このCDはノイズコア初心者にもオススメー! まだ、聴きやすい中に、見れるものがたくさんある作品♪ 感じて欲しいノイズコアを!! AZUSA (STAGNATION / C)

DISORDER - PERDITION



まず1曲目「STAGNATION」! ジワジワと曲が始まる感じが堪らなく良い。ノイズは勿論、ドラムのバタバタ感も最高! 大好きな部分としては「SUICIDE CHILDREN」の最初のギターの入りの音! ギュワ～! 美味しい物を耳から食べた様な感覚で気持ち良い(笑)! DISORDER万歳! シュン (SORTCONTROL / C)

※1 マッド…CONFUSEのギタリスト ※2 ディス…CONFUSEのヴォーカリスト
※3 めんたいビート…サンハウス、ザ・ロッカーズなど九州のロックバンドを指すカテゴリーの1種
※4 山善…博多の伝説的ミュージシャン・山部善次郎の愛称

パ：スウィンドル(※5)の上映会があって。

み：喫茶店みたいな所で。

パ：当時、ビデオデッキを持ってる家も少なくて、上映会で観るしかなくってね。そしたら、「あいつらおるぞ」みたいな感じで。CONFUSEとSWANKYSのグループで別れて座ってね。そうそう、『UK/DK』を手に入れた時、エアロ・スミスのライブがちょうどあったんだけど、どうしても『UK/DK』を観たくって、お金持ちのビデオデッキを持ってる友達の家へ行ったもんね。エアロ・スミスはタダで観ることが出来たけど、やっぱりDISORDERが観たい!って。

み：衝撃やったね。

パ：その時、ハードコアの映像を観るのがはじめてで…ワッティのアレ(オープニングでの動きを真似する)が。

み：もう、すぐだったね! みんな、真似してね。モヘアも着て。いや～、すごかったね。

パ：そうそう、「DISORDERはやっぱり石鹸か～」って。その頃、俺たちは髪を立てるのに洗濯ノリ使ってて、「DISORDERはまだ石鹸か～ッ」て(笑)。「イギリスには洗濯ノリないのかな～」「着物がないけんな～」とか言って。

一同：爆笑

パ：洗濯ノリが一番やったね。スプレーを知らんかったしね。スプレーってのがあるらしいばいって。

み：そうやったね～。触りすぎると白い粉が出てきて、雨が降ったら最悪で! 俺は天パやからさ、クネ～ってなってさ。

ア：ジャクソン的な(笑)?

聴く音楽は変っていきましたか?

パ：当時、ゼルダとか好きで(笑)。あの辺のニューウェイブの音も好きやったもんね。ヒカシューとか。

どんどん音が極端になっていく一方で聴いていたのはニューウェイブだったんですか。

ア：『STUPID LIFE』とか極端過ぎて。

パ：でも、あの頃は俺、抜けっとったもんね。実はあのレコードの別ヴァージョンの音源を持っとっとよ。

ア：うわっ! またそんなレア的な発言を!!

パ：「パッシー、次にこんなのをリリースするとよ」ってテープをもらって。

メンバー間の仲っていうのは?

パ：ライブの前にディスの家にみんなで泊まって、お互いモヒカンに刈り合ってね。あと、最初のレコードは自分らで金を稼いで作ったんだけど…土方して。で、その間ずっとディスの実家に合宿してたのね。そしたらディスのお母ちゃんが「レコーディングはいつするとね?」って聞いてきて「この日がよか。この日が大安やかけん、大安に録ったらレコード売れるから」って。

ア：本当にそうだよ! 今でも売れてんだから。

何か微笑ましいですね。

み：どのバンドも親は公認っていうか、お互い負けないようにって勝負させて。

大らかな時代ですね(笑)。近所にパンクスは多かったんですか?

み：モヒカンはよぉけおったね。学校に行ってる人は、下ろして上手く2ブロックみたいに見せて(笑)。

ライブへ来る人はどんな感じでした?

み：街中で徹底的に声をかけて。ちょっとでもタータンチェックが見えたら、パンク知らない奴でも声をかけて「今度さー、ライブがあるんだけどさ。見に来ない?」ってカッコつけてね(笑)。だいたい女、引っ掛けるのもソレやもんね。

パ：ガハハハハハ!

み：チケットも結構コピーしてね。「ハイ～500円もらった～」ってね。

パ：300円とか500円やから、脅すとまではいわないけど、みんなビビって払うというか(笑)。

あ：チケットを買ったけど来なかった人も結構いる?

み：でもね、毎回200人以上は来てたね。

一同：オーッ!

み：いつもやってた所でもライブが出来んようになって…機材をいつも壊してお金を払わないわけですよ(笑)。そのくせバックレることもせず。で、MIND THE BOLLOCKSって所が出来て…地下牢獄みたいな全てフラットの所で。そこでずっとやってて。まあ、儲けとかは考えてなかったね～。

後進のバンドというのは?

み：SIEG-HELLが止まって、華が止まって…そのあとはTVがSWNKYSに入ったりって人事異動があったけど。新しいバンドはあまり出なかったね。

パ：他の地方には出だしたんだけどね。

当時のビデオや写真は持ってますか?

み：当時の写真はね、3枚ぐらいあるかもね。ビデオはどうかな～。

パ：ビデオは1本だけね。でも、GESSのヴォーカルが「こんなの人に見せれん」って高原の上から放り投げたやん(笑)。ダビングした奴がおるかも知れんけど。

曲はどうやって?

み：俺ともう1人で持ち寄って、練習でハウらせるのを考えたり。

パ：CONFUSEもSIEG-HELLよりカッコいいのをって。

み：とにかく速く速く…ってなって。

あ：当時、ノイズコアって括りで焦点が当たってたのって、九州だけじゃないですか?

み：いや、ノイズコアっていう風に考えてやってなかったのよ。ハードコアパンクって考えてたから。後からノイズコアって名前が与えられたて。

パ：俺らがノイズパンクで、GAIがヴァイオレンスパンクって。当時分かんなかったのがハードパンクってので。ハードロックみたいなパンクなのかなって(笑)。なんか、九州の人間って友達に負けてられんってのがあって。"こっちのが酷いわ"って競って。

み：ほんと高校生のガキで。勢いだけ(笑)。

パ：東京へ来てから仲良くなった人に「当時の九州って凄かったんでしょ?」って言われるけど、全然暴力なんかなかったもんね。

ア：でも、消化器とか(笑)。

パ：いや、弱いから近ずかずに消化器で(笑)。

み：そっちの方が見た目、派手だしね。物を投げたり。

その時の反応は?

パ：……やっぱし、ひくよね……。

一同：爆笑

パ：一部だけで盛り上がってね。

み：心の中では"ヤッタ!"って思うんですけど(笑)。たまたま見に来た人は耳を塞いでワーッてなってるし。PAもあまりやった事のない所だと音が小さいから、アンプのツマミを全部10にして…10が一番良く出るっちゃね～(笑)。

パ：永ちゃんもキャロルの時、全部10やったとよ。地元のバンドがキャロルと対バンして、キャロルの後にやろうとしたらベースのアンプが全部10になってて。で、"やっぱ10だ!"ってなって。

み：生音が普通だったから。ほとんどの場所でPAは無かったもんね。

ソ：PAを募集したって聞いたけど。

パ：『DOLL』の九州パンクの特集でライブの後、楽屋でインタビューされて「PAが納得いかん」って言ったら、そういう事を書かれてね。

ソ：なるほど! PAがいたから、ああいう音を作れたのかなって、ちょっと思ったけど違うんだ。

パ：でも、セカンドシングルのレコーディングで、ルースターズの大江とかが使ってたスタジオでやってみよっかってなって。そしたら、そこのPAの人が興味を持ってくれて、「こんなの聴いたことがない」って。そこからタダでスタジオを使わせてくれたな。ライブでもPAをしてくれて。そういうのはあったけどね。あとレコーディングだと、聴いても分かりにくいかも知れないけど、ドラムもハイハットだけ録って、その後にシンバルだけ録ってとかして…そういうのはマッドが考えてたよね。

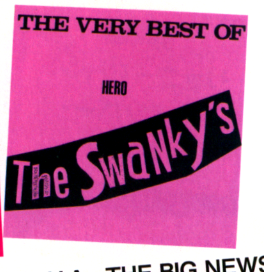
細かく音の構成を考えてあの音が出来ていたんですね。今のバンドはどう思います?

み：とにかく上手いよね。俺らのなんか聴かせられないですけどね。ホント。

始終、爆笑の絶えない対談は延々と続き、続々と九州パンクシーンのレアな話が繰り出されたのであった……。ノイズコアの未来については……こんなに素晴らしい先輩たちが作ってきたのなら、絶える事は無いだろうと確信した夜であった。輝けるノイズコアの未来のために石鹸…いや、洗濯ノリで髪を立ててノイズィ～な電波を受け取ってくれ!

NOISECORE DISC GUIDE

THE SWANKYS - THE VERY BEST OF HERO



このバンド嫌いって人、いるんですかね? とにかくレコードが擦り切れるほど聴きまくったレコードです。まずジャケですね。完全に皮肉(笑)。たまりません。これをやるの、当時は凄いことだったんじゃないかな? レコードに針を落とした瞬間のジャジャジャー、一瞬静かになってノイズ、ノイズ。ジャーじゃなくてビシャー。ほんと綺麗なノイズ。間違いなくノイズコアですよね。んな曲もありつつ「ドカタソング」(超名曲)。キャチーな曲もあります。ピストルズとノイズコア。そんな両極端なスワンキーズを堪能できる究極の1枚ですね。 いわた(ザ・ノーフューチャーズ)

V.A - THE BIG NEWS ARE THAT PUNKS



ノイズコア一色ではないが、何も知らない自分がこの音源を聴いた時、やたらに短く陰湿でカラフルだなと感じました。今でも個人的ににこのイメージを連想させる音が最も好きです。当初なぜか勝手にSEX PISTOLSだと思い込んでいたのも思い入れが深い要因の1つ(笑)。 SHINGO (PEOPLE)

NAPALM DEATH - SCUM



とにかく当時こいつにはノックアウトされました。音楽とはこーでなくちゃダメとか、屁理屈がバカバカしくなった。ここではあえて紹介しませんがE.N.T.も烈りですね。あと1曲が異常に短かったので鳥肌たちました。人力マシンビート+喚き声+α=ノイズ。 jo2 (EXITHIPPIES)

GLOOM - RECOMENDATION OF PARDITION



"破壊のススメ"と題されたGLOOMの12"。ノイズコアって言ってもギターの音がノイズ!!って事じゃなくてトータルとして雑音!!! せやけどジャンルなんか関係無く、ブッ飛ばしてくれりゃ何でもいいぜーーーーー!!!! トヨカツ (ZYANOSE)

EINSTURZENDE NEUBAUTEN - 嘘の館



ノイズコアと言うのはあれかもしれないけどオススメー! ドイツのノイバウテン! "崩壊する新建築"と言う名前を冠してるだけあって、音楽の独創性は圧巻だぁ! 冒頭の『PROLOG』、激ノイズの雨アラレ、ギグャーカンカンビジャァー。そこから『FERURIO』と流れ込みノイバウテンワールド全開!! ヴォーカル・ブリクサのドイツ語歌詞の歌い回しには鳥肌がたちます! ヴォーカルってものを色々考えさせられました!! AZUSA (STAGNATION / C)

※5 スウィンドル…映画『THE GREAT ROCK'N'ROLL SWINDLE』

取材場所 酒菜 金兵 / 東京都世田谷区代沢5-36-12-1FB TEL03-3424-4333

ハードコアっていうたら無茶苦茶やらんといかんとよって…

DISORDER、CHAOS U.K.、CHAOTIC DISCHORDなど、毒電波に乗っかって世界中に広がっているノイズコア。過去から現在に至るまで日本でも多くのノイズコアバンドが産まれた。その中でも80年代初頭に登場したGAI、CONFUSE、SEIG-HELL、白(KURO)など九州のバンドたちは現在でも世界各国のパンクスたちに支持され続けている。今回、CONFUSE、SEIG-HELLというノイズコア・マスターともいえるバンドの元メンバーに現在、精力的に活動中のSTAGNATIONらを迎え、これからのノイズコアについて徹底座談会を行う事になった…のだが…!

まずは九州ノイズコアの話からいいですか? パンクやハードコアを知ったきっかけというのは?

みっちゃん(以下み):知ったっていうより、入ってきよったんよね、耳に。ロックンロールとか聴いとったら。

パッシー(以下パ):DISCHARGEとかが出てきて、時代的に。

それはいつぐらいですか?

パ:う〜ん、中2かな。

音源は手に入りやすかったんですか?

み:ピストルズとかを貸しレコード屋に行って。最初はピストルズの前にPIL(PUBLIC IMAGE LIMITED)ってあったやん? PILを中学2年の終わりくらいかで聴いて、それから『勝手にしやがれ』を聴いた。

周りにパンクを聴いている人は多かったですか?

み:おらんかったね。

パ:昔、華ってバンドがおって、そこのヴォーカルがみっちゃんの同級生で、一緒に聴いてたよね。

み:あそこはお父ちゃんがすごかったね。マスコミ関係の人でパンクのレコードを持ってるわけ。聴いたことがないような。そこでピストルズのシングルとかも持っとったけん。

パ:あとはアナーキーとかね。タイムリーな感じで。

み:スターリンとか。

パ:80年代になって、"なんかハードコアパンクっちゅうもんがあるらしいばい"って。DISCHARGEをはじめて聴いて"なんやコレ! 全部同じに聴こえる"って。怖いよね。中2にとっては。

その頃にバンドは?

パ:その前…中2の終わり頃から友達とやってて。ヘヴィーメタル好きで、マイケル・シェンカーになりたくて(笑)。でも、なぜかパンクの方へ。簡単なのからやってこうかって。上の世代がヤンキーばっかりだったんで、自然とアナーキーとか。そしたらだんだんと…人生間違っちゃって。

み:まっしぐらで(笑)。

アズサ(以下ア):でもピストルズとかをやっていて、あんなギターの音になっていったの?

み:海外のバンドみたいにしようとしても、どうも音がおかしいぞと。高音をバーっと上げても違ってて。そうしているうちにイコライザーとか出てきて。あっ! そういうのはマッド(※1)が早かったよね。みんなで使って。

エフェクターは何を使っていたんですか?

み:エフェクターはディストーションとイコライザー。その2つだけ。

あわや(以下あ):他のバンドと対抗してウチらの方が変な音を出すぞって競い合ったとか?

み:あっ、それはあるね。でもマッドが飛び抜けてて、何か動物の鳴き声を逆回転させてノイズを作ったり。

パ:マッドの兄ちゃんがテクノ好きで、今でいうオタク的な音作りをしたりして。で、弟のマッドがその影響を受けてて。当時、マッドの家にはオープンリールがあって、多重録音が出来てね。レコーディングでマッドスタジオっていうのはマッドの部屋やからね(笑)。

パ:ディス(※2)とマッドは幼なじみで、ガキの頃から近所に住んでたんだよ。友達の家でバックだけ録った後、マッドの部屋のベッドの上で布団を被ってヴォーカルを録るんだけど、布団を被ってもうるさいけん。

み:近所迷惑やったね。

一同:爆笑

パ:で、終わったらラジカセのスイッチをガチャって。GAIやSIEG-HELLもカセットで録りよったね。それを売って。

み:練習も録ってね。

パ:当時は16〜17歳だし、金もなかったしね。

レコーディングなどで先輩たちに色々教えてもらったりは?

み:2つ上の先輩たちもバンドやりよったけど、全然違う音やったしね。

パ:博多っていったら、めんたいビート(※3)が多かったしね。パンクというよりニューウェイブ的な。

み:違うって意識はなかったけど…でも、少し怖かったね。ビートは(笑)。

パ:不良が多かったしね。

み:レコード屋でガンガン、アレしよっちゃしね〜(笑)。

み:前から歩いてくるのが見えたら右にキュッて曲がったりね。ヤバイでって。

ライブはどこで?

パ:常にレンタルホールやったね。

み:すぐにダメになってね(笑)。

パ:昔からTHE MODSとかがやってた所は1回で出入り禁止。

暴れ過ぎで(笑)?

パ:昔で田舎やし、情報は雑誌で読んだものぐらいで…"ハードコアっていうたら無茶苦茶やらんといかんとよ"って(笑)。スターリンが無茶苦茶やりようのを勘違いして。

あ:今にしてやっちゃったな〜ってのは?

パ:あるバンドを潰しに行ったこと。

一同:エ〜〜〜〜ッ!

み:仲間の1人が襲撃に行って消化器を振り回したら、滑って自分で被って自滅して(笑)。で、2回目に行ったら、やっぱ彼らは俺らより年上でね。帰り際も「お前らかっこよかったで」って。

パ:俺らガキやったから、あっけにとられてね。そのバンドの車を眺めてね。

み:対応が大人やったね。

パ:でも、向こうもみんな木刀持って来とったけどね。俺らも黒い警棒とか持って行とったけど、バカだから(笑)。で、行こうかなって思ったら向こうも真っ黒に塗った木刀を持って来ていて。確か山善(※4)の企画だったかな。

み:そうやね。

パ:山善が「お前ら止めろ」って止めに入って話し合いがはじまった。

あ:あからさまに対立したりは無かった?

パ:うん、無かった。当時のノリで。

ア:一応、先輩だったんでしょ?

み:そうやけど、地域が違ったからね。

パ:そんな事があったから、次にウチの方へ来るときはバンド名を変えてたもんね。でも、分かるやんね。

そしたらみんなでワーッと?

パ:うん(アッサリと)。みんな、暇やったけんね。

バンドの話に戻って…バンドのメンバァーは同級生同士とか?

み:SIEG-HELLは元々、全部バラバラ。不良グループがいくつかあったのね。ウチらがライブしている時に潰しに来たりしてね。

パ:玉ねぎ投げられたり(笑)。

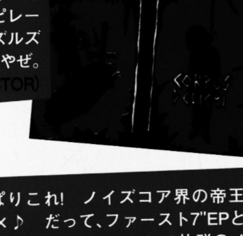
み:滅茶苦茶だったね。で、それが敵対してるのに何故かバンドを組んで。

パ:後にSWANKYSのベースになるTVが元々SIEG-HELLのベースで、その同級生がヴォーカルだったね。CONFUSEは…俺は後から入ったんだけど、元々のメンバーたちは同級生。CONFUSEは博多でなくて、少し外れた所で。たまたまディスが博多に行って色々と知り合ったらしくて。当時、ライブのチケットって街中でパンクっぽい奴がいたら声をかけて売ったりしてね。300円ぐらいやったかな。高くて500円ぐらいで。で、ディスが博多へ行った時にSWANKYSのメンバーが「パンクな奴がいるぞ」って声をかけて来て、CONFUSEのみんなで観に行って…。その頃はまだSWANKYSとも仲良くなくって、「あいつら生意気やね〜」とか言うとったけど、だんだんと「いや、アイツら良い奴らやぞ」って風になって(笑)…仲良くなった。

※1 マッド…CONFUSEのギタリスト ※2 ディス…CONFUSEのヴォーカリスト
※3 めんたいビート…サンハウス、ザ・ロッカーズなど九州のロックバンドを指すカテゴリーの1種
※4 山善…博多の伝説的ミュージシャン・山部善次郎の愛称

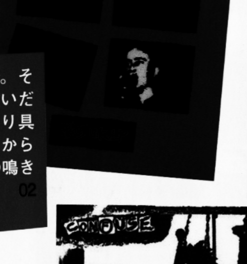
NOISECORE DISC GUIDE

U.B.R. - ORGANIZIRAN KAOS



結構、最近に出た編集盤。ブートなんか? 取りあえず名前がシブい。"理由なき反抗"だそうや。んで、CRUST WARからも出ていた『KA'E ALTERNATIVA』コンピレーションの音源が即死決定。ズルズルのポンコツで殺傷能力全開やぜ。 02 (DEATH DUST EXTRACTOR)

CHAOS U.K. - CHAOS U.K.



針を落とし、初っ端のノイズで失禁。そしてタムの連打で脱糞。カオスが歌いだし、曲がはじまった時の微妙なモタり具合からの加速っぷりで死亡。1曲目からこれだけ楽しめる至極の逸品。蝉の鳴き声。何故かうちに4枚あります(笑)。 02 (DEATH DUST EXTRACTOR)

CONFUSE - CONTEMPTY FOR THE AUTHORITY AND TAKE OFF THE LIE



今でもヘビロテ!! やっぱりこれ! ノイズコア界の帝王♪ かなり影響受けた作品♪×♪ だって、ファースト7"EPと自殺レーベルのオムニバスの3曲入りだよ!! センス抜群のノイズギター(蝉)。スペーシーさもあるんだ〜〜〜よ! トータルで考えるとホントに抜群の勢い! バランス!! そこ、それ、大事。バランスね! このCDはノイズコア初心者にもオススメー! まだ、聴きやすい中に、見れるものがたくさんある作品♪ 感じて欲しいノイズコアを!! AZUSA (STAGNATION / C)

PUBLIC IMAGE LIMITED - METAL BOX



近年すこぶるヘビーローテーションしたアルバムNO.1がこいつです! メタリックで突き刺さる感じのノイズギターが癖になるんです。行き当たりばったりの展開も馬鹿にできません(ダウナー系)。 jo2 (EXITHIPPIES)

DISORDER - PERDITION



まず1曲目「STAGNATION」! ジワジワと曲が始まる感じが堪らなく良い。ノイズは勿論、ドラムのバタバタ感も最高! 大好きな部分としては「SUICIDE CHILDREN」の最初のギターの入りの音! ギュワ〜! 美味しい物を耳から食べた様な感覚で気持ち良い(笑)! DISORDER万歳! シュン (SORTCONTROL / C)

パ:スウィンドル(※5)の上映会があって。

み:喫茶店みたいな所で。

パ:当時、ビデオデッキを持ってる家も少なくて、上映会で観るしかなくってね。そしたら、「あいつらおるぞ」みたいな感じで。CONFUSEとSWANKYSのグループで別れて座ってね。そうそう、『UK/DK』を手に入れた時、エアロ・スミスのライブがちょうどあったんだけど、どうしても『UK/DK』を観たくって、お金持ちのビデオデッキを持ってる友達の家へ行ったもんね。エアロ・スミスはタダで観ることが出来たけど、やっぱりDISORDERが観たい!って。

み:衝撃やったね。

パ:その時、ハードコアの映像を観るのがはじめてで…ワッティのアレ(オープニングでの動きを真似する)が。

み:もう、すぐだったね! みんな、真似してね。モヘアも着て。いや〜、すごかったね。

パ:そうそう、「DISORDERはやっぱり石鹸か〜」って。その頃、俺たちは髪を立てるのに洗濯ノリ使ってて、「DISORDERはまだ石鹸か〜ッ」て(笑)。「イギリスには洗濯ノリないのかな〜」「着物がないけんな〜」とか言って。

一同:爆笑

パ:洗濯ノリが一番やったね。スプレーを知らんかったしね。スプレーってのがあるらしいばいって。

み:そうやったね〜。触りすぎると白い粉が出てきて、雨が降ったら最悪で! 俺は天パやからさ、クネ〜ってなってさ。

ア:ジャクソン的な(笑)?

聴く音楽は変っていきましたか?

パ:当時、ゼルダとか好きで(笑)。あの辺のニューウェイブの音も好きやったもんね。ヒカシューとか。

どんどん音が極端になっていく一方で聴いていたのはニューウェイブだったんですか。

ア:『STUPID LIFE』とか極端過ぎて。

パ:でも、あの頃は俺、抜けっとたもんね。実はあのレコードの別ヴァージョンの音源を持っとっとよ。

ア:うわっ! またそんなレア的な発言を!!

パ:「パッシー、次にこんなのをリリースするとよ」ってテープをもらって。

メンバー間の仲っていうのは?

パ:ライブの前にディスの家にみんなで泊まって、お互いモヒカンに刈り合ってね。あと、最初のレコードは自分らで金を稼いで作ったんだけど…土方して。で、その間ずっとディスの実家に合宿してたのね。そしたらディスのお母ちゃんが「レコーディングはいつするとね?」って聞いてきて「この日がよか。この日が大安やかけん、大安に録ったらレコード売れるから」って。

ア:本当にそうだよ! 今でも売れてんだから。

何か微笑ましいですね。

み:どのバンドも親は公認っていうか、お互い負けないようにって勝負させて。

大らかな時代ですね(笑)。近所にパンクスは多かったんですか?

み:モヒカンはよぉけおったね。学校に行ってる人は、下ろして上手く2ブロックみたいに見せて(笑)。

ライブへ来る人はどんな感じでした?

み:街中で徹底的に声をかけて。ちょっとでもタータンチェックが見えたら、パンク知らない奴でも声をかけて「今度さー、ライブがあるんだけどさ。見に来ない?」ってカッコつけてね(笑)。だいたい女、引っ掛けるのもソレやもんね。

パ:ガハハハハハ!

み:チケットも結構コピーしてね。「ハイ〜500円もらった〜」ってね。

パ:300円とか500円やから、脅すとまではいわないけど、みんなビビって払うというか(笑)。

あ:チケットを買ったけど来なかった人も結構いる?

み:でもね、毎回200人以上は来てたね。

一同:オーッ!

み:いつもやってた所でもライブが出来んようになって…機材をいつも壊してお金を払わないわけですよ(笑)。そのくせバックレることもせず。で、MIND THE BOLLOCKSって所が出来て…地下牢獄みたいな全てフラットの所で。そこでずっとやってて。まあ、儲けとかは考えてなかったね〜。

後進のバンドというのは?

み:SIEG-HELLが止まって、華が止まって…そのあとはTVがSWNKYSに入ったりって人事異動があったけど。新しいバンドはあまり出なかったね。

パ:他の地方には出だしたんだけどね。

当時のビデオや写真は持ってますか?

み:当時の写真はね、3枚ぐらいあるかもね。ビデオはどうかな〜。

パ:ビデオは1本だけね。でも、GESSのヴォーカルが「こんなの人に見せれん」って高原の上から放り投げたやん(笑)。ダビングした奴がおるかも知れんけど。

曲はどうやって?

み:俺ともう1人で持ち寄って、練習でハウらせるのを考えたり。

パ:CONFUSEもSIEG-HELLよりカッコいいのをって。

み:とにかく速く速く…ってなって。

あ:当時、ノイズコアって括りで焦点が当たってたのって、九州だけじゃないですか?

み:いや、ノイズコアっていう風に考えてやってなかったのよ。ハードコアパンクって考えてたから。後からノイズコアって名前が与えられたて。

パ:俺らがノイズパンクで、GAIがヴァイオレンスパンクって。当時分かんなかったのがハードパンクってので。ハードロックみたいなパンクなのかなって(笑)。なんか、九州の人間って友達に負けてられんってのがあって。"こっちのが酷いわ"って競って。

み:ほんと高校生のガキで。勢いだけ(笑)。

パ:東京へ来てから仲良くなった人に「当時の九州って凄かったんでしょ?」って言われるけど、全然暴力なんかなかったもんね。

ア:でも、消化器とか(笑)。

パ:いや、弱いから近ずかずに消化器で(笑)。

み:そっちの方が見た目、派手だしね。物を投げたり。

その時の反応は?

パ:……やっぱし、ひくよね……。

一同:爆笑

パ:一部だけで盛り上がってね。

み:心の中では"ヤッタ!"って思うんですけど(笑)。たまたま見に来た人は耳を塞いでワーッてなってるし。PAもあまりやった事のない所だと音が小さいから、アンプのツマミを全部10にして…10が一番良く出るっちゃね〜(笑)。

パ:永ちゃんもキャロルの時、全部10やったとよ。地元のバンドがキャロルと対バンして、キャロルの後にやろうとしたらベースのアンプが全部10になってて。で、"やっぱ10だ!"ってなって。

み:生音が普通だったから。ほとんどの場所でPAは無かったもんね。

ソ:PAを募集したって聞いたけど。

パ:『DOLL』の九州パンクの特集でライブの後、楽屋でインタビューされて「PAが納得いかん」って言ったら、そういう事を書かれてね。

ソ:なるほど! PAがいたから、ああいう音を作れたのかなって、ちょっと思ったけど違うんだ。

パ:でも、セカンドシングルのレコーディングで、ルースターズの大江とかが使ってたスタジオでやってみよっかってなって。そしたら、そこのPAの人が興味を持ってくれて、「こんなの聴いたことがない」って。そこからタダでスタジオを使わせてくれたな。ライブでもPAをしてくれて。そういうのはあったけどね。あとレコーディングだと、聴いても分かりにくいかも知れないけど、ドラムもハイハットだけ録って、その後にシンバルだけ録ってとかして…そういうのはマッドが考えてたよね。

細かく音の構成を考えてあの音が出来ていたんですね。今のバンドはどう思います?

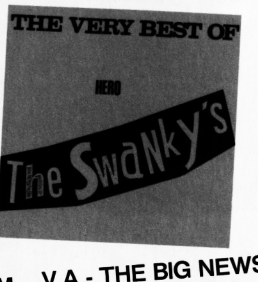
み:とにかく上手いよね。俺らのなんか聴かせられないですけどね。ホント。

始終、爆笑の絶えない対談は延々と続き、続々と九州パンクシーンのレアな話が繰り出されたのであった…。ノイズコアの未来については……こんなに素晴らしい先輩たちが作ってきたのなら、絶える事は無いだろうと確信した夜であった。輝けるノイズコアの未来のために石鹸…いや、洗濯ノリで髪を立ててノイズィ〜な電波を受け取ってくれ!

※5 スウィンドル…映画「THE GREAT ROCK'N'ROLL SWINDLE」
取材場所 酒菜 金兵／東京都世田谷区代沢5-36-12-1FB TEL03-3424-4333

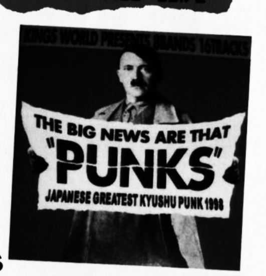
NOISECORE DISC GUIDE

THE SWANKYS - THE VERY BEST OF HERO



このバンド嫌いって人、いるんですかね? とにかくレコードが擦り切れるほど聴きまくったレコードです。まずジャケですね。完全に皮肉(笑)。たまりません。これをやるの、当時は凄いことだったんじゃないかな? レコードに針を落とした瞬間のジャジャジャー、一瞬静かになってノイズ、ノイズ。ジャーじゃなくてピシャー。ほんと綺麗なノイズ。間違いなくノイズコアですよ。そんな曲もありつつ「ドカタソング」(超名曲)。キャチーな曲もあります。ピストルズとノイズコア。そんな両極端なスワンキーズを堪能できる究極の1枚ですね。 いわた(ザ・ノーフューチャーズ)

V.A - THE BIG NEWS ARE THAT PUNKS



ノイズコア一色ではないが、何も知らない自分がこの音源を聴いた時、やたらに短く陰湿でカラフルだなと感じました。今でも個人的にこのイメージを連想させる音が最も好きです。当初なぜか勝手にSEX PISTOLSだと思い込んでいたのも思い入れが深い要因の1つ(笑)。 SHINGO (PEOPLE)

NAPALM DEATH - SCUM



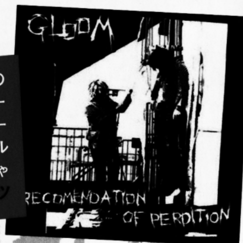
とにかく当時こいつにはノックアウトされました。音楽とはこーでなくちゃダメとか、屁理屈がバカバカしくなった。ここではあえて紹介しませんがE.N.T.も然りですね。あと1曲が異常に短いってのにも鳥肌たちました。人力マシンビート+喚き声+α=ノイズ。 jo2 (EXITHIPPIES)

EINSTURZENDE NEUBAUTEN - 嘘の館



ノイズコアと言うのはあれかもしれないけどオススメー! ドイツのノイバウンテン! "崩壊する新建築"と言う名前を冠してるだけあって、音楽の独創性は圧巻だぁ! 冒頭の「PROLOG」、激ノイズの雨アラレ、ギグャーカンカンビジャァー。そこから「FERURIO」と流れ込みノイバウンテンワールド全開!! ヴォーカル・ブリクサのドイツ語歌詞の歌い回しには鳥肌がたちます! ヴォーカルってものを色々考えさせられました!! AZUSA (STAGNATION / C)

GLOOM - RECOMENDATION OF PARDITION



"破壊のススメ"と題されたGLOOMの12"。ノイズコアって言ってもギターの音がノイズ! って事じゃなくってトータルとして雑音!!! せやけどジャンルなんか関係無く、ブッ飛ばしてくれりゃ何でもいいぜーーーーー!!!! トヨカツ (ZYANOSE)

4 way split

YOUTH PUNKSの狼煙はブチ上げられた



日本中が騒然とした非常識なほどにパンクな『THE ACTION』のリリースとツアー！ 今後の日本パンクシーンを担うのは奴らだ!!

photo / Toshiyuki H

FOLKEIIS / INTRUDERS -REJECT- / SKIZOPHRENIA

666/GIGOLO13

SWEET GENE THE GIGOLOCKの革ジャン IS MY LIFE

第2回 ジョニー（ジャン）・リメンバー・ミー？



SWEET GENE THE GIGOLOCK

シドジャン（鋲の打ち方は違うぜ!）でジョニジャンカラーという、ある意味究極な1着を着て至福のVサイン炸裂、筆者"スウィート・ゲン・ザ・ジゴロック"。

「革ジャン Is My Life」と言いつつ、具体的には革ジャンの事を全く書いていなかった連載第1回。インターネットなんて夢のツールが無かった時代、いかに本が大事だったか、それを言いたくて…夏ってこと! 田舎者特有の情熱（©POOLY）を失うことなく、今回もイキまくりまっせ〜!

で、いよいよ革ジャンの話。革ジャン、言うまでもなく、そもそもはバイクウェアー。そう、やっぱりその魅力は、バイクに乗る上での機能性! 風の侵入を防ぎ、転倒時の衝撃から身を守る、そのタフな…いや違う! やっぱり、"○○が着ている写真を見て"という、言うならば"ヒーローウェアー"としての革ジャンに惹かれるのである（少なくとも僕はね）!

そして、そのヒーローの代表格がシド（もちろんヴィシャス。バレットでもなければ、獅童でもない）! そう、今回は"シド・ジャン"をフィーチャーし…と、見せかけて、シドにとってもヒーローだったあのお方、そうジョニーをフィーチャー（もちろんサンダース。ロットン、ラモーン、大倉も良いけれど、今回はサンダース。当然、豆腐屋でもない）! ジョニーの革ジャン（以下ジョニジャン）と言えば、も〜これっきゃない! 黒×白のアレっすよ。マニアックなカラーリングが、何ともジョニーのカルト・ヒーロー度をアップさせている。

さぁ、666が過去に手掛けたジョニジャン復刻品の数々を一気に公開だ! 1度発売したらそれっきり、そんなことはございません! 復刻品と言うからには、新たな発見があれば、それを落とし込むべくリニューアル。ローライズのパンツが主流となれば、ボトムとのバランスを考慮し、着丈を調整し〜のでリニューアル。はたから見れば、"何が違うの? 何が変わったの?"ってな微妙な変化かも知れない。しかし、我々"革ジャニスト"にとって、それが一番大事（©埼玉のサザン）なのである。

同じじゃないんだ! 全部違うんだ!! 良く見てけれ〜!!!

ジョニジャンがここまでページを占拠したことが、やまだかつてあっただろうか? いや無い!



色んな意味でヤバ過ぎるジョニー。この革ジャンに、バイカーキャップの組み合わせは、スンバラC!

ボーダーTの組み合わせも、これまた最高なのでR。ちなみにこの時シドがしている南京錠は、R印のあれではないのでR。



FMC-06
1998年秋発売
記念すべき、ジョニジャン第1弾! 当時のシド・モデル（FMC-05）に、白を配しただけと思う無かれ。ポケットのフラップ形状など、当時確認出来ていた限りの仕様変更実施。シド着用時の雰囲気を再現したくて、袖丈を短く修理済み! 右襟にはディー・ディーと同じバッジ、左胸にはスティーヴ風Geneで、ジョニジャンにディー・ディー＆シド・テイストを落とし込んだ。

FMC-06 カスタム
ジョニー着用分を意識した、スタッズによるカスタム品。今見ると、カスタムTOO MUCH＆正直ダサい（苦笑）。数年、行方不明になっていたが、666渋谷店の閉店撤去作業時、奥〜の方から発掘! 雑誌『Ollie』に"華麗なるビョー（鋲）ディネイト"と紹介されたことも（笑）。

MMJM-3
2002年秋発売
"アームホール後ろのアクションプリーツが無い"、"キドニーパッド部が白"、"裏地が黒ではなく赤"といった、新事実が判明した事もあり、大々的にリニューアル! ここからMYWAYMANブランドでのリリースに。バッド・ニュース・アレンも真っ青な、黒光り具合がC-V（シブい）!

MMJM-3
2004年秋発売
"キドニーパッド部の面積がもっと狭い"ことが判明＆"キドニーパッドの中の板と、3つのスタッズ排除"など、品番はそのままにリニューアル! 何となくワンスター仕様にはせず、サラッと着てます。黒白2トーンの時点で、サラッとしていませんが（苦笑）。

MMJM-3S
2005年秋発売
上質な牛革"スティアハイド"を使用＆ワンスターを標準装備し、ジョニーの15周忌に発売された限定品。完全復刻という意味では、このモデルにて終着駅に到着! ちなみに、古着市場において、この手の2トーン革ジャンは珍重され、コンディションとサイズが良ければウン十万は当たり前! 店によっては非売品であったり、¥ASKなんてことも。

LJM-10J
2009年秋発売
人気モデル"LJM-10"に、ジョニジャンのカラーリングを落とし込んだ、言うならば"現代版ジョニジャン"が登場。白レザーが真っ白ではなく、オフホワイトを使用しているため、のっけからヴィンテージの雰囲気炸裂! このモデルのみ、現在入手可! 今からでも遅くはない、999…いや、666に電話しろ!

新顔さんいらっしゃ〜い

夏を待てない! そんな、THE（ジ）おニャン子ジェネな諸君に贈る、Summer Of 2010の新商品。モー娘、AKB世代のあなたも是非!



■ZIP T-SHIRT TYPE-A (SOT015)
¥6,090（税込）
キタ、キタ、キタ〜!!! ジップを開ければ、そこに広がる小宇宙。君も体験してみないか? デカジップ使用のタイプBもあるで〜!

■OCELOT PRINT SHIRT (SOS065)
¥12,390（税込）
ポール師匠（クックね）が着ていた、あの柄を復刻! 気分は一気にアニマルモード突入! 草食系なんて言わせないぜ! ガルルゥ〜!!!

■NO FUTURE SHIRT (SOS064)
¥13,440（税込）
商品名はNO FUTUREだが、ご安心を! むしろこれを着れば、明るい未来が待っている。そう信じようじゃないか!

着ちゃっていいとも!



現行ジョニジャン「LJM-10J」を着こなすTATSUYA（左）＆HIDE（右）from 666原宿。もちろん、両方私物。どんな着こなしにもマッチすることを実証! 良いぞ良いぞ!! もっとやれ〜（って、何を?）!!!

「最新情報はコチラから」666 WEB（ゲンザのコラムコーナーもあるよ）http://www.666jp.com GIGOLO13 WEB on MY SPACE http://www.myspace.com/gigolo13love
GIGOLO13ランデヴー⇒ 5月15日（土）東京 幡ヶ谷HEAVY SICK、6月5日（土）東京 新宿CLUB DOCTOR ゲンザDJ⇒ 7月31日（土）東京 新宿CLUB WIRE『HANKY PANKY』

THE ACTION

メンバーが現れると不穏な空気が流れ、漆黒を切り裂くようなカミソリギターと低音がボコボコに効いたベース音、それを加速させるドラムが鳴り響き凶暴なヴォーカルがオーディエンスを煽る。NATOコードネーム“フィニッシュベッド”を思わせる迎撃戦闘ギグはオーディエンスを興奮の渦に巻き込んだ! メンバーは「『THE ACTION』の音源同様、熱を込めたライブ」であったと感想を語った。「流れでやるんじゃなくて、1つ1つを大切にしたい」…その言葉も納得のギグであった。

FOLKEIIS
laulu TOMOKI / kitara TETHUSHI / rummut KO-JI / bassso KYUUTA



VIHAA TUHOTA


the Action tour 2010!!
TSUYAMA-SHOCKING SHOW XII

A skizophrenia
B -REJECT- (nagoya)
C Folkeiis (nagoya)
D Intruders (tokyo)
E death dust Extractor
F the Sick

open 18:00
start 18:30
ticket 1800yen (under 18 500yen)

kontakt
s.k.3@hotmail.co.jp

4/17 at TSUYAMA K2



← THE ACTION TOUR FLYER at TSUYAMA





















THE ACTION

相次ぐ凶悪犯罪、長期景気低迷など混沌とし、疲弊した社会へオルタナティブ・アタックを繰り出す侵入者たち…INTRUDERS!　3ピースながら硬質で性急な80年産大英帝国ゆずりのハードコアをブチ撒ける。そのスピード感はメンバーが「1年ほどかけた準備期間も忘れるほど、ツアーはあっという間に過ぎた」と語るのに匹敵する。ギグ終後に彼らが本誌に語った「これからのパンクシーンは俺たちが創る!」という発言のとおり、気合いの漲った熱いギグであった。

INTRUDERS
bass TETSUYA / vocal & guitar KENTA / drums AKIRA



心ノナイフモ
腐レバ
朝日ハ
一生昇ラナイ





← THE ACTION TOUR FLYER at OSAKA



THE AZTION

ツインギター、ベース、ドラムが鳴り響く中、ヴォーカルが宙を舞い登場。“掴みはOK”とばかりにオーディエンスを煽り進行していくギグ。「見てる人の目がテンになると嬉しいよね」「エクスタシーを感じる」…“場内にある全ての物は俺のもの”とばかりにテーブルを振り回し、ビールケースを即席ステージに変身させ、次々と彼らの発言が現実化していく。エンターテイメントとハードコアパンクが完全に融合した瞬間だ。「地元で盛り上がるのが一番難しい」「だからコレがきっかけで盛り上がってくれれば」…ギグで見せた実現力で、その発言が現実化するのも、そう遠くないであろう。

-REJECT-
voice KAGO / guitar KOICHIRO / guitar HARUKA / bass MUKO / drums YASU



KEEP OUR STYLE OUR WAY





← THE ACTION TOUR FLYER at NAGOYA

































THE ACTION

不敵なステージングと真摯な姿勢が化学反応を起こし、多くのパンクスを魅了するSKIZOPHRENIAのギグ。「大げさな感じになってるけど、僕ら自身は凄いことをしとる意識は無い」「聴いて、見て、自分なりに何かアクションを起こしてくれればいい」「他人まかせじゃダメ」「僕はいつも自分の100%以上の力を出しているので、それを続けてきたい」と本誌に語ってくれたSKIZOPHRENIAのメンバーたち。自然だけど特別…そんな彼らのギグは瞬間の煌めきが詰まっていた!

SKIZOPHRENIA
vocal YU / bass YOSHIO / guitar ISO / drums USHIRODA



DELETE THE STEREOTYPE





← THE ACTION TOUR FLYER at TOKYO

















今回のリリース＆ツアーで世間を騒がせた先導者と共謀者たちの証言！

誰でも出来るんだよ!!



扇動者 浩一朗 <-REJECT->

価値観は自分自身で決るんだ！ 物事を考える自分専用オリジナルものさしを作るんだ！ 誰に何言われようが好きなことをやるだけだ！ セックス、下手でもいいだろ？ ルックス、変でもいいだろ？ ヴィックス、ナメテリゃいいだろ？ ソックス、穴があいてるYOってことです。今、そんな気持ちです。いきなり熱い感じで、浩一朗です。浩一郎じゃないです。俺が『THE ACTION!!』を企んだきっかけは、なんといっても俺がパンクの音源として初めて買った『SABOTAGE 2001』ってオムニバスだった。

俺の地元、瀬戸市（焼き物で有名）から電車に揺られて、光太郎（ex D-CLONE）と2人で名古屋のレコード屋answerへ初めて行った時、ライブに行ったことのあったORdER、REALITY CRISISなどしか知識がないまま2時間近く店を物色し、『SABOTAGE 2001』を発見した時、"これだ！"と思わずジャケ買いしたのをはっきり覚えてる。もし、バンドやり始めたらこんな作りたいわーなんて高校の授業中にチャンスをうかがってた。

-REJECT-に入る前から色々な土地へライブを見に行くようになって、普通に生きていたら考えられないほどのスピードで友達が増えていった（パンクの良いところ）！ ジャンルとかどうでもいいけど…俺はいわゆる80年代のUKパンクというのが好きでして、一生懸命聴いているのですが大好きって人が全国で圧倒的に少かった。激しくインパクト大のクラストに押されがちなアンダーグラウンド・パンクシーン。方や死に絶えた俺の好きなパンク…そんなのはイヤだ！ 誰も盛り上げる気がないなら俺がやってやる！ "Fight For Existence!!"てな感じで、全国の友達を呼びかけて集まったんです。バンドやレーベル、協力者の人たちの選出は、ただ俺が個人的に"行動"を起こしてるなって思う、愛して止まない人たちです。狙い通り、レコードの曲質、音質、デザイン、4者4様、個性いっぱいカラフルになって良かった。

最後に言いたいこと。何か"行動"すれば、何かが必ず起こるってのをパンクから教わった。俺みたいな権力もなく、喧嘩はからっきしだよ3級品。頭も悪い半端モンでも、"ここまで出来るんだよ、だから誰でも出来るんだよ!!"ってことが次世代に伝われば嬉しいです。俺の場合の"行動"はバンド。今回たまたまそれをレコードという形にした！ でもバンド以外でもいい、1度考えてみて下さい。そこから、それぞれで何か見つけて、自分なりの"行動"を起こしてみてください。The Action Mind In The Future To Change Your Life!! **"THE ACTION!!"精神が将来のお前の人生を変えてくれるから!!**

共謀者 平山大裕 <人間堂>

やりたいことの着火点になればいいな

4バンドのみんなとSOくん。みんな、いつも口では冗談を言いつつも、胸には熱い想いがギッシリな面々。やりたいこと、ガッツリ本気でやってる面々。すごい尊敬している、心から大好きな人ばっかり。そんな最高の仲間とやりたいことをやるということは、ほんまに夢のようでした。

初めてマスターを聴いたとき、中学生のころ初めてパンクのライヴに行った日の晩に、布団の中で感じたどうしようもない"疼き"が再燃しました。「うお〜っ！ バンドしてぇ〜!!」って（笑）。皆さんはどうでしたでしょうか？

個人的な想いですけど、『THE ACTION』の音源、そしてツアーでのライヴ、このボクらのアクションが聴いてくれた、観てくれた、感じてくれた全ての人のやりたいことへの着火点になればいいなと思っています。

理屈っぽいのとかは抜きにして、やりたいことを、楽しいなと思うことを本気でやったら楽しいんです。自分自身に1ミリも間違ってないことをしたら、不安もない。そして、最高の仲間がいれば、怖いものなしです。今回の『THE ACTION』はまさに今書いた通りでした。失敗を恐れて行動に出れない人がいるかもしれないですけど、失敗がない行動もあるもんです。自分がやりたいことを真摯にやっていれば、いつかどこかで同じ匂いのする人に出会えるもんですね。狭い日本、会わない方がおかしいような、偶然でも必然でもなく、当然のことのようにも思えます。

ボクはこの『THE ACTION』のおかげで、新たな仲間がたくさんできました。その新たな仲間とも新たにやりたいことをやろうと思っています。みんなあったかい人ばかりです。メンバーのみんな、SOくん、ボクはほんまに、楽しかったです。どうもありがとう。これからもよろしくどうぞ。この場を借りて……と、感謝の意を伝えたい人を書き出したらキリがない……。スペシャルサンクスで、松原さん、高山さん、マサキくん、本当にありがとうございました。ほんとうに心強かったです。浩一朗、お疲れさま、ほんでありがとう!!

今、これ書いてるのは3月なので、リリースもツアーもまだまだ先の話だから、どうなってるかわかりませんが、ボクら間違ってなかったでしょう？ 未来は黙っていても来るもんですが、ボクら本気で掴みに行きましたから!! SOくん、ちょっとエエやつ俺にも言わして〜!! **"The Action Mind For Makin' Punk Future In Our Hands!"**

誤字・脱字・誤植が横行し、すったもんだを2周3周と繰り返した『THE ACTIONツアー』関連の作業も一段落と落ち着いたところで、漸く腰を据えて原稿を書こうと思ったら締め切り当日の午前2時！ まったくもって、前々からの入念な打合せもどこ吹く風の慌て様はやはりパンクたる由縁なのでしょうか？ 自分が如何に忙しくしようとも、そこに関わる人間にとって自分は1人しかいないわけで、常に気を張り真摯に向き合わねばいけないと常々思っています。例えば、数百部あるファンジンをホッチキスで留める作業も、読み購入して下さる方には大事な1部なわけで、1部たりとも蔑ろにしてはいけないという感じです。「大変でしょ？」と言われれば、「大変です！」と答えます。しかし、それ以上の数千倍のやり甲斐と喜びがあるから死ぬまでやります。いや、墓場から這い上がってでもやる価値があると思っています。

僕自身、最近は"Makin' Punk Future"という言葉をよく使わせていただいているのですが、正しく誰でもなく自分自身・貴方自身でパンクの未来を創り、切り拓いて行ける環境が今あると思っています。ハードコアパンクという破壊的であり、創造性溢れる音楽が単に音楽の1ジャンルになる姿はあまりにも寂しく、垂れ流しされる音楽産業に刃を突きつける最後の砦であると確信しています。それは多数に勝る個人1人1人の確固たる意思と魂により、食い止める事が出来る切り札であると。それが牙を捥がれたロック気取りの凡人を葬るパンクスとしての誇りであるから。自分自身を度量の広い人間だとは思わないし、あくまでもオーバーグラウンドへの敵意は常に持っています。先人たちから受け継ぎ、育まれたやり方、方法論を消化し自分なりの吐き出し方でしか表現は出来ない。しかしながら、そうした考えを持つ人間が1人、2人…。また逆に反旗を翻す方法で、多くの人間が"何か"を表現する立場にあれば、このどうしようもない浮世にハードコアパンクの灯火を燈せる事が出来るのではないかなと。こんな生きにくい世の中で、パンクスでさえ右向け右の怠惰な濁流の中に飲み込まれている現状は最悪でしかなく、好きな事をとことん追い求める探究心は決して忘れてはいけない事であると思います。本気になる素晴らしさと、それを分かち合える友は人生にとって何よりも掛け替えのないものです。立ち上がるなら今である！ **1人1人が荒野に立ち昇る轟々たる狼煙なのだ！**

立ち上がるなら今である!

共謀者 SO <HARDCORE SURVIVES disc&tape / KAOTIK HERO zine>

共謀者 TAKAYAMA <PUNK AND DESTROY / FRAMTID / Nightmare>

『THE ACTIONツアー』！ それはそう、名古屋ハードコアパンク-REJECT-のコウイチロウが、えーと…確か…人間堂の平山氏だろうか(?)に、ライブハウスからの帰り道かなんかを歩きながらする何気ない会話から産まれたと言います。「パンクは死んどりゃせん。その事を証明するためにも、とにかく行動するんや！ 行動ゆーたらアクションじゃ。『THE ACTIONツアー』じゃけ!!」みたいな、こんな感じであったはずがないし…あの、まるでウーパールーパーの様な両性爬虫類的な顔をして、いつも馬鹿なことばかり言ってるコウイチロウの口から、このような案件が飛び出してこようとは一体誰が想像したであろうか？ それが例え酔った勢いで口を突いて出た、ただの思い付きの類であったとしても。だが、しかし絵空事だろうが何だろうが、行動に移して実現化してしまう偉大なる奇人変人たちによって時代は塗り替えられてきたのである!? "80'sパンク"がキーワードとしてあったようである。あっと言う間に首謀である名古屋の-REJECT-をはじめ、津山のSKIZOPHRENIA、名古屋のFOLKEIIS、東京のINTRUDERSという4者4様なバンドが集結。そして、この4バンドによる4 way split 7"EPをリリースする人間堂代表の平山氏、さらに"Makin' Punk Future!"を掲げ、その誠実な情熱でパンクの未来を切り拓け！ 高円寺からHARDCORE SURVIVE代表（妖怪ウーロンハイではありません）、我らがロウ・パンク妖精SO THE KAOTIK YOUTHという東京現場最先端バリバリな両レーベルによる心強い援護射撃を受け、みるみる内に拡散するムーブメント！ この文章を書いている3月末日、すでに4 way split 7"EPは発売前の予約オーダーのみで1000枚を即ソールドアウトさせるなど、ウナギが青い天井を目がけて猛烈に上昇するかの如き、いきなしのテンション・マックス状態だ！ 時間制限イッパイ、待ったなし。いよいよ動き出す『THE ACTIONツアー』！ 『MOBSPROOF VOL.05』が出てる頃には、この文章を読んでいる人の中にも、すでに目撃・体感してきた人もいる事でしょう。うーん、どうだったのでしょうか？ その行動の1つ1つがライン上に連ねられた時、静止していた場面にもたちまち生命力が漲るように。**怯む事なく、留まる事なく、"Action"し続けよう。そしてもちろん"Never Give Up"だぜ！ 未来はそう、間違いなく僕達の手の中にあるのです！** ではでは、道中ご安全に来てくださいね。着いたら連絡してね。アメ村で待ってます(^3^) /!



4way split 7"EP『THE ACTION』(NMCR-004 / 人間堂 / Limit:1000)
収録曲 -REJECT-「KEEP OUR STYLE」 SKIZOPHRENIA「STEREOTYPE」 FOLKEIIS「TUHOTA MAAILMA TÄYNNÄ VIHAA...」 THE INTRUDERS「TIME TO DEATH」
今回のツアーの模様を収録したDVDも7月10日発売予定!

NOBODY'S HERO! 炎はまだ燃えているか?

STIFF LITTLE FINGERS

18年ぶりにアイルランドの青く燃えるパンクバンドSTIFF LITTLE FINGERSが来日！ そこで大阪公演で共に紛争するLUCY & THE LIPSTIXのメンバーに好きな1曲を挙げてもらった。さらに再結成初期の彼らのギグをボストンで体験したPOGO 77 RECORDSの今村氏に回想レポートをしてもらったぞ。



LUCY & THE LIPSTIXオススメの1曲!

NOBODY'S HERO

taken from album『NOBODY'S HEROES』(1980) or『NOBODY'S HERO / TIN SOLDIERS』7"EP (1980)

この類は、いつだってそう！ ソイツは曲の頭、一発でキマる。そこに震えて、後に嫉妬する。その"一発"が分からない君！ まずは、彼らのファーストとセカンドを聴こう！ それでOK! じゃあ、STIFF LITTLE FINGERSは何発、隠し持ってんだ？ 5月の来日公演で、確認しよう！



LUCY SUPERNOVA



ARATA

BARBED WIRE LOVE

アルバムの中でも非常に目立つ曲ですね。ジェイクのボーカルはリラックスしていて、他でガナリ倒してるから、よけい浸みます。ギターの音も他より少しマイルドな感じで浸みます。何よりこの展開！ センス！ 何か語れと言われても「大好きです」としか言えないのだけれど…。でもやっぱりSTIFF LITTLE FINGERSといえば熱血ボーカルと激烈ギターを期待してます。来日公演は、コチラも燃え尽きる覚悟で臨みます。

taken from album『INFLAMMABLE MATERIAL』(1979)



HEAL "K" STICKS

ALTERNATIVE ULSTER

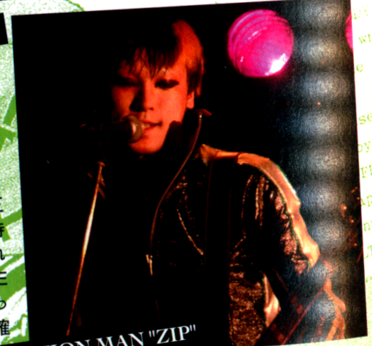
STIFF LITTLE FINGERSの中で1番よく聴いた曲です。歌詞の意味、背景などほとんど分からずとも、この激情や衝動は曲から溢れ出るエネルギーによって確かに僕の胸に届いています。言語や時代を超えても、無条件で心を突き動かすことのできる音楽の1つだと僕は思います。プレイヤーとしても、こういった力を持つ音楽を目指し励んでいきたいです。

taken from album『INFLAMMABLE MATERIAL』(1979) or『ALTERNATIVE ULSTER / 78 RPM』7"EP (1978)

SUSPECT DEVICE

taken from album『INFLAMMABLE MATERIAL』(1979) or『SUSPECT DEVICE / WASTED LIFE』7"EP (1978)

カミソリよりナイフ。いや…電動ノコギリか。そんな切り刻まれそうなギターからはじまるファーストを聴いた瞬間"カッコイイ!"。それは聴いた人全員だと勝手に断言する。正直、俺は後々の音源を追っかけたり歌詞や時代背景や国柄を深く研究した事はない。それでも伝わる音だと思うから。STIFF LITTLE FINGERSのトレードマークの炎が現在も真っ赤に燃えてるのか。1人1人の目や耳や心で、確かめに行こう。研究するよりずっとイイ。



ACTION MAN "ZIP"

10数年前、ボストンでのSTIFF LITTLE FINGERS

text NORI (POGO 77 RECORDS)

13年前？ 14年前？ ボストンに住んでたんだけど、毎月イギリスから80年代に気張ってたパンクバンドが来米してました。THE VARUKERS、THE ADICTS、THE BUSINESS、CITIZEN FISH、ANTI NOWHERE LEAGUEなどなど…そして、今回久々に来日するSTIFF LITTLE FINGERSも。もちろん行きましたよ！ ラリったルームメイト・パンクスたちと。チケットは$10ぐらいだったか？ 会場がまたでかいんだ。1000人位の場所。レッドソックスの球場の隣のクラブなんだ。埋まるのか？ ANTI NOWHERE LEAGUEもそこでやったんだけど、ガラガラに見えちゃってた。でもさ、当日すごいんだよ、人間が。パンクス、スキンズ、モッズ。そして普通のおっちゃん、おばさんまで1000人はいなかったと思うけど800人はいたか？ フロア満員。初期の曲中心で演奏してくれた。ファーストアルバム『INFLAMMABLE MATERIAL』はほぼやったんじゃないか？ もう、フロア全体大合唱！ パンクス大暴れ、スキンズ大暴れ、モッズご機嫌ダンス、おっちゃんビール飲みながら歌ってる。演奏、プロだよ。上手いだけでなく、エネルギッシュ！「TIN SOLDIER」やった時なんて、死亡フラグが何本も！ ぐちゃぐちゃになって突撃してました。メンバーはジャケットで見たマンマの格好で、痩せててカッコよかった！ うなずけるライブだった。幅広い層のお客さんが一体となって、大合唱！ 憎しみなんてなかった。77'sパンク〜82'sパンクを駆け抜けて、ずっとやり続けてるバンドの力強さがあった。そして今年、久々に来るんだね。ぬぉぉぉぉぉぉ！

STIFF LITTLE FINGERS JAPAN TOUR

2010年5月24日 東京・高田馬場 AREA
with VIBRATE TWO FINGERS / the BUBBLES

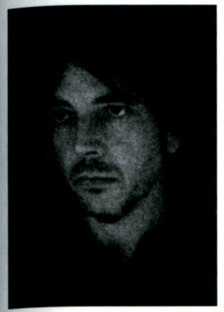
2010年5月25日 東京・高田馬場 AREA
with fragments / JUNIOR

2010年5月26日 東京・高田馬場 AREA
with WISE WORM / DREX / BACK TO BASICS

2010年5月28日 大阪・アメ村 KING KOBRA
with BOOTed COCKS / LUCY & THE LIPSTIX / THE DITCHMAN
DJ VINNY (666) / K∞SUKE (NASTY RECORDS)
YASUYUKI HARA (CHEAP HOLIDAY)

問い合せ先 VINYL JAPAN Part 2 / 03-5330-9141





ex. ACTIVES / AKATOMBO

Paul Kirk interview





今回の奇跡のはじまりは、先頃再発されたACTIVES『KICK IT DOWN』について少し触れたMOBSPROOFブログへのある書き込みだった。書き込みの主はACTIVESでドラムを担当していたKIRKY氏(現PAUL KIRK)の奥様からであった。奥様曰く、再発CDはメンバーには無許可のブートであること。今は2人で広島に住んでいるということ。KIRK氏はAKATOMBO名義で今でも音楽を続けているということなどが判明。奥様が通訳をしてくださるとの事で、猛烈にACTIVES好きな編集部は即刻、-REJECT-の浩一朗、狂撃のメンバーらと共にACTIVESバーミー・アーミーを結成し、インタビューを試みた！

ティーンエイジャーであることが最高の時代だったね

■ ACTIVESを始めたのは何歳でしたか?

16歳になるときだった。1980年代中頃だね。

■ 当時、どんなバンドに影響を受けましたか?

その時は、素晴らしいバンドが沢山いた。中でもTHE DAMNED、RAMONES、MOTORHEADなどに影響を受けたよ。

■ 誰がバンドのリーダーだったのでしょうか?

僕がアレンジのほとんどをやっていたんだけど、リーダーではなかった。4人がイコールだったんだ。

■ ドラムのオカズが特徴的ですが、影響を受けた音楽があったのでしょうか?

僕は(今でもそうだけど)ラット・スキャビーズの大ファンだったんだ。THE DAMNEDのファーストアルバムでの彼のドラムは本当に素晴らしくて、それでドラムを始めたんだ。RAMONESの最初のドラマー、トミー・ラモーンやMOTORHEADのフィル"Animal"テイラーにも影響を受けたよ。

■ 当時はどんなバンドと一緒にギグをしていましたか?　また、集客はどうでしたか?

THE ALTERNATIVE、UK SUBS、THE EXPLOITED、ABRASIVE WHEELS、THE ADICTSなど。他にも色々なバンドとギグをしたよ。オーディエンスはいつも溢れるほどいっぱいだった。

■ 当時のシーンはどのような感じだったのでしょうか?

ティーンエイジャーであることが最高の時代だったね!　70年代終わりから80年代初期は本当に良いバンドが沢山いて、ギグやレコードも素晴らしかった。パンクバンド同士でもいい友情関係が出来ていたしね。

■「RIOT」はデモとEPでキーが違いますが意識的に?

そうだね。僕たちがEPをレコーディングする時、何度かリハーサルするチャンスがあったんだ。それで、書き直したりして、もっとACTIVESらしく仕上げた。結果、キーが変わったんだよ。

■『RIOT』『WAIT AND SEE』『KICK IT DOWN』それぞれのプレス枚数は?

うーん。大体の数しかわからないけど…。それぞれ2000~3000ぐらいだと思うよ。12インチ『WAIT AND SEE』は1000~2000だと思う。

■ リリースはどういった経緯で決定したのでしょう?

僕たちはMENACEの元ベースが経営していた広告代理店(Publishing Companyと呼ばれる。バンドなどをメディアやレーベルに売り込む会社)と契約していたんだ。デモを送った後、レーベルが見つかってリリースが決定した。どの曲をリリースするか完全に自由だったし、アートワークも自分たちでデザイン出来た。僕たちはラッキーだったと思う。

■ ACTIVES時代で思いで深いエピソードはありますか?

多分、TOY DOLLSの前座だった時かな。オーディエンスがACTIVESで完全にぶっ飛んで、すごかった。思った以上の反響だったよ。多くの人に、「TOY DOLLSより断然良かった」と言われたね。

■ 当時のメンバーとは今でも交流がありますか?

ここ3年ぐらい、たまにだけど、ギターのグレイム/スメッドとメールのやり取りはしている。バッジーやルイスも元気にしていると聞いているよ。

■ なぜACTIVESは解散したのでしょうか?

『WAIT AND SEE』EPのレコーディング後、当時有名だったTWISTED NERVEからオファーを受けたんだ。僕はいろんな音楽に興味があったし、何か新しいことをやってみたかった。それで、オファーを受けた。3人は納得してくれて円満に脱退したけど、その後のACTIVESは以前ほどうまくいかなかったようだ。

■ 以前、未発表を含む『ACTIVATED』がリリースされましたが、それ以外に未発表音源はあるのでしょうか?　また映像などは残っていますか?

そのリリースはレコード盤で、友人がロンドンの店で見かけたって聞いたんだ。それから、レーベルに問い合わせて聞いたら、ほとんどは僕がいた時に作ったデモ曲を元にしていたことが分かった。だから正式にレコーディングしたものではないんだ。未発表音源については、僕がレコーディングしたものをいくつか持っていると思うけど、30年も前のことだからね。そのテープがどこにあるのか…。映像は残念ながら存在しないよ。

■ 今回リリースされた『KICK IT DOWN』の再発はブートレッグだった訳ですが、今後オフィシャルでの再発の予定は?

ないと思う。僕たちの時代は終わったんだ。80年代初期のバンドなんかより、新しくて若い、才能あるバンドのアルバムをリリースすべきだ。

■ バンド解散後はどうされてましたか?

TWISTED NERVEでしばらく活動して、1986年始めにソロ活動に入った。もっと、エクスペリメンタルで新しい音楽を求めてね。同時に、レーベルも立ち上げてバンドの管理や、多くのライヴやツアーを手がけたよ。

■ 現在、拠点を日本にした理由というのは?

その後、サンフランシスコの大手ディストリビューターに何年か勤務していたんだけど、スコットランドに戻って、自分のレーベルに力を入れることにしたんだ。その中で企画したある音楽フェスで、現在の妻(日本人)と出会って、数年後には日本に行くことを決めた。僕には新しく何かを変える必要があったんだ。

■ AKATOMBOという名前の由来は?

"赤とんぼ"は日本では素晴らし赤色をした蜻蛉で童謡にもなっている。その優しいイメージとダークな音楽を融合することでみんなを困惑させたかったんだ。

■ これまでのAKATOMBOのリリースを教えてください。

現在2枚のアルバムリリースがある。ファーストアルバム『TRACE ELEMENTS』はWIREのコリン・ニューマン主宰SWIMレーベルからのリリースだ。セカンドアルバム『UNCONFIRMED REPORTS』(CD+DVD)は自身のレーベルHAND-HELD RECORDINGSからリリースしている。

■ AKATOMBOの音楽は独特でダークなビートが印象深いです。そのアイデアというのは何処から湧いてきているのでしょうか?

AKATOMBOのアイディアは色々な要素から成り立っている。僕はリズミックな音楽が好きなんだけど、美しく漂うような音楽も好きなんだ。AKATOMBOの作品には、日本に住んで感じた英国とは違う様々なヴィジョンと、好きな本や映画の要素などがミックスされているんだ。

■ フィルムメーカー、フォトグラファーとしても活動されていますが、そのクリエイティブな活動のエナジーの源は?

本能から(笑)。ひとつに留まるのは好きじゃないんだ。常に、内なる感情を、アーティスト的媒体を通じて表現するよう自分自身を奮い立たせている。

■ 日本での生活はいかがですか?

ファインだよ。外国人でいることは時に大変だけど、大体は問題ない。ここには面白くて不思議なことが沢山あるからね。

■ リリースやライブ予定など今後の予定を教えてください。

今はAKATOMBOのサードアルバムの曲作りやレコーディングで忙しくしている。年内か年明けにリリース出来ればと思うけど、まだ未定だね。ACTIVESのリリース?　あれは懐かしい思い出だ。これからもそうだよ。



AKATOMBO
『UNCOMFIRMED REPORTS』(CD+DVD)
http://www.myspace.com/akatombohiroshima





PUNK ART EXHIBITION
不良芸術展示会
THE 1ST EXHIBITION SUGI

Work Table

P.48-WARCRIME EP cover（1993）
P.49-BLOOD SHOT（2005）
P.50-CONCRETE SOX / NIGHTMARE tour poster（1992） ROVINA H.C. flyer（2009）
ROTTEN CADAVER LP cover（2008） BLOOD SHOT（2007）
P.51-ACID T-shirts front and back（1991）
HOWLING COMMUNICATION VOL.43 flyer（2009）
HOWLING COMMUNICATION VOL.44 flyer（2009）
激烈音隊突撃開始GIG VOL.44 flyer（2009） CHAOS U.K.（1991）

パンク／ハードコアパンクの世界でイラストや写真を創造し続けている人は多い。そして、その高いクオリティは世界的に評価されている。そんな素晴らしい作品をガッツリとフルカラーで堪能できる新コーナーの記念すべき第1回は、繊細なタッチが魅力のSUGI。ゆっくりご鑑賞ください。

SUGI…広島から数々のハードコアパンクバンドのアートワークを産み出すイラストレーター。その唯一無二の繊細で緻密な作品は、世界各国のパンクス羨望の的だ。





















SUGI official HP http://www.myspace.com/sugi-illustration

魅!! PUNK 乙女塾

今回は昼休み♥『乙女たちの妄想ギャラリー』

4時間目まで無事に終了し、今回はお昼休み。ランチしたり、友達と遊んだりと乙女たちのプチ宴の時間なのです。と、いうことで…街行く乙女たちにお絵描き大会をお・ね・が・い!　全くパンクに関して予備知識のない彼女たちに“パンクス妄想イラスト”と“どんなイメージ”かを書いてもらいましたよ。

Q1.パンクってどんなのだと思う? / Q2.好きな音楽のジャンル / Q3.妄想イラスト

まりちゃん

うるさい。
ピアスだらけ。
化粧してる。
まり

すきなジャンル
洋楽、加藤ミリヤ



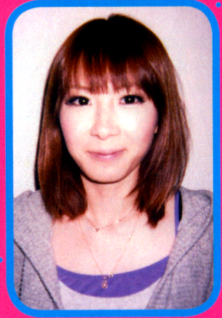


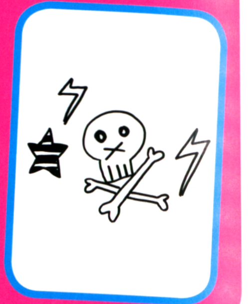
“うるさい”…当たってますね! ところでヘビは…???

りさちゃん

動きがはげしい
歌詞がエロイ
服がとげとげしい
りさ

すきなジャンル
J-POP





「部屋とYシャツと私」みたいな感じでドクロと星に稲妻。

ちさとちゃん

PUNKのイメージ…
・叫ぶ
・激しめ
・ワクワクしてる

すきなジャンル
レゲエ





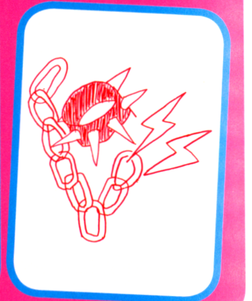
元気なイラストに書かれてる綴り… “U”であってますヨ!

きらきらぼしちゃん

・クサリ系やドクロ系のアクセサリーを身につけてる。
・髪の色が原色!!!
・ABかB型の人が多そう。
きらきらぼし☆

すきなジャンル
レゲエポップ(?)
アーティスト
メイズ、Safari





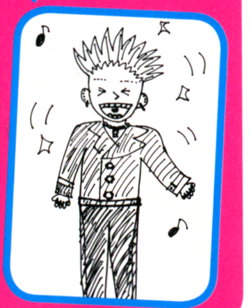
ボク、B型です。イラストはANTI NOWHERE LEAGUE ?

くりちゃん

・ツンツン頭
・ごっついアクセサリー
・音楽にのってあばれまくる!
くり

すきなアーティスト ジャンル→J-POP
Michi





良い笑顔のパンクス。眉毛がポイントですね!

ななみちゃん

PUNK は PUNK!!
ぶっとんでる感じ…
七生

すきなジャンル
テクノ、ハウス(?) 洋ロック
アーティスト
chara





縦書きと横書きをミックスしたアンケートもぶっ飛んでます!

にのちゃん

ハード
アクセサリーじゃらじゃら
くろ
にの♡

すきなジャンル (アーティスト)
嵐





ハッ…!　この坊主頭のキャラは人気マンガに出てくる…!!

すっさんちゃん

★ライダースジャケット
★爆音な音楽
★かみがた服装がハデ
すっさん

すきなジャンル
J-POP





分かってますね!　パンクはハデなのが面白いです!

総論…まだまだパンクは世間で誤った認識をされているみたいだぞ。パンクを再び脅威に!　Making Punk Threat Again!!

PORTUGAL編 EP

text / タケシ(C.F.D.L.)

ALCOORE

■ **TERRA DAS FLORES** (RAGE PRODUCTIONS RPR 002 / 7"EP)



RAGE PRODの第3弾。軽め(サウンドがね!)でUSスタイルなヨーロピアン・ハードコア。ヴォーカルも含めて、どえらぁポップな感触だよ。でも、この疾走感は壮快で心地いいね。USハードコアに影響を受けていてもやっぱ、ヨーロピアンなサウンドなんだよね。このサウンドにポルトガル語のヴォーカルは俺にとってはマジにたまんないわ。激ツボ。コピーでホッチキス綴じのブックレットもまたイイ味出してるのよね。ポルトガル語は読めないんで写真やアートワークから想像するしかないけど、しっかりしたメッセージ持ってるんだろうな? 闘牛なんて大嫌い! 伝統なんて…デストロイだ!

CONDENACAO PACIFICA

■ **CONDENADOS SEM JULGAMENTO** (CONDENACAO PACIFICA / CASSETTE)



80年代後半に活動していた彼ら唯一のリリース(だと思う)。80年代のポルトガルシーンの最重要バンドの1つだと思う。内容は86年から87年にかけてのライヴ音源などのオムニバスなんだけど…どえらぁイイよ! ジャケット見れば分かるけど、動物愛護や反武装なんかを訴えていたポリティカルなバンドで…サウンドもCRASSやMORTARHATE周辺のバンドを思い起こさせてくれる。ギターなんか結構泣けるメロディー聴かせてくれて…マジに涙もんだよ! ポルトガル語だけどブラジルな感じは無いのよね。やっぱヨーロッパなサウンド。この時代のヨーロッパでは当たり前の完全自主制作。

CRISE TOTAL

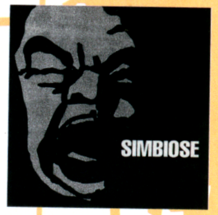
■ **CRISE TOTAL** (BETTER WORLD ORGNIZATION BWT-2 / CASSETTE)



後にSUBCAOSのXicoを迎えて96年に再結成&CDをリリースしたポルトガルの激烈最重要バンド! そんな彼らの86年と87年のリスボンでのライヴを収録したカセット。彼らは83年ごろから87年ごろまで活動してたと思うんだけど…スタジオ録音は残ってないんじゃないかな? そんで…このカセットに入ってるライヴ音源はマジにヤバいよ! もぉ〜、ガッビガッビのDISCHARGEDスタイルなロウ・ハードコアパンクだよ! あの時代にレコードでもリリースしてれば間違いなくヨーロッパの80's Dビートバンド特集(?)の常連になってたバンドだよ! 91年、B.W.O.からのリリースね。

SIMBIOSE

■ **QUE MOTIVOS PARA CELEBRAR** (VICTIMAS DEL PROGRESO / 7"EP)



今現在も活動を続ける彼らの記念すべきファースト・ヴィニールリリース! グラインディング(グラインド・コアじゃないよ!)でクラスティーなロウ・ハードコアだね! ヴォーカル2人なんでE.N.T.と比べられたりしたんだろうけど…もっと感触がポップだね(と、言っても全然ポップじゃないけど)。俺の愛するMORTAL TERRORとか好きな人も気に入りそう。ちょっと前にMCRからもCDリリースされてるんで、もう激烈ベテラン・バンドになるんだよね。いつか日本にも来てくんないかなぁ? あっ、このシルエットのジャケットも俺は好き。

THORMENTHOR

■ **PULVERSING** (SLIME SLIME 1 / 7"EP)



ポルトガル初の自主制作レーベルSLIME RECORDSの記念すべき第1弾! ポルトガルのこういう(自主レコードレーベルの)動きは90年代に入ってから始まったので…。この第1弾はグラインディングなデスラッシュ・メタル! 俺はメタル自体好きなんで…このシングルもすんなり楽しめたよ! 残念なのは歌詞が英語で唄われているトコね! ポルトガル語で歌われていれば、もっともっと独特の色が出ていたと思うのよね。この後の活動についてはよく分かんないけど…アルバムとかリリースしていても全然不思議じゃない、どえらぁしっかりしたサウンドだよ!

CENSURADOS

■ **CENSURADOS** (EL TATU ET 90007 / LP)



俺が思うにポルトガル初のパンクロックのレコードじゃないのかな? 元々はラモーンズとかに影響を受けてると思うんだけど…サウンドの方はハードコアパンクね! 1曲目の「ANGUISH」は何でか分かんないけどLAUGHIN'NOSEみたいなんだよね。とにかくポップでキャッチーでハード。コーラスもバッチリ決まってるし…俺はどえらぁ好き! でも、ポルトガルのパンクスに言わせれば"メジャー志向のパンクバンド"との事。俺にしてみりゃメジャーもインディーも関係ないけどね。とにかくこのレコードは素晴らしいよ。セカンドアルバムも持ってるけど…その後どうなったのかな? 誰か知ってたら教えて!

CORROSAO CAOTICA

■ **UNIAO E OKUPACAO** (SLIME SLIME 2 / 7"EP)



俺が初めて聴いたポルトガルのハードコアパンクバンドであり、ポルトガルのパンクシーンに興味を持ったキッカケになったバンド(と、いうかこのシングルリリースのフライヤー)。簡単に説明するとブラジルmeetsヨーロッパのサウンドなんだけど…曲作りとか、どえらぁしっかりしてるよ! ベースが引っ張ってる感じもするけど…ギターのメロディーもかっこいいのよね。もちろん変にまとまった感じは全然無くて、激烈荒々しいよ! このバンドはクールな曲をもっと持ってたんでアルバムのリリースをして欲しかったんだけど…このシングルとカセットのリリースだけで解散(多分)。最近YouTubeで映像を観て感動したよ!

NO OPPRESSION

■ **CHANGE, WHAT DESTROY YOU!** (CREATIVE CONSCIENCE / 7"EP)



彼/彼女たちはこのシングルの前に素晴らしいカセットもリリースしていて…このシングルは待ちに待ったリリースだったんだよね。男・女デュアルヴォーカルのメロディックなヨーロピアン・ハードコアだよ! でも荒々しさは全然失われてないんでクラスティーな方でも十二分に楽しめそう? FLAT EARTH (UK)とかNABATE (ベルギー)周辺のバンドに通じる空気持ってるのよね。また、ここの女性ヴォーカルの声がどえらぁ素敵! パワフルで美しい。最高だね! また素晴らしいブックレットも付いていて作りも最高! 4つのレーベルによる協同リリース! この時代の素敵なD.I.Y.ネットワークだね!

SUBCAOS

■ **CONFORMIDADE OU REALIDADE** (RAGE PRODUCTIONS RPR 003 / 7"EP)



ポルトガルで最も有名なハードコアパンクバンドって言えば彼ら…かな? ジャッキー (FRAMTID)が「スブカオス、スブカオス」って騒いでたの思い出すなぁ〜。SUBCAOSは思いっきり90年代のバンドだね。って言うかDOOM世代のバンドだね。荒々しいロウ・ハードコア。俺も彼らがポルトガルから出て来た時は嬉しかったな。ベルギーにHIATUSがいたように、ポルトガルにはSUBCAOS って存在だったなぁ〜。またこのコピー刷りのジャケットもサウンドにピッタリで激クール! ホントにお酒好きそうなメンバー写真がいっぱいの裏ジャケットもたまんない。この後もいっぱいリリースしてたよ!

X-ACTO

■ **AAHH!** (RAGE PRODUCTIONS RPR 001 / 7"EP)



ポルトガル初のストレート・エッジバンドのレコード(だと思う)。俺はこの頃、NATIONS ON FIREに夢中だったんで…このシングルがリリースされた時はたまんなかったよ! 内容もどえらぁイイね! スピーディーで荒々しくて、ヴォーカルにメロディーがあって。また、ポルトガル語なんで独特な雰囲気を醸し出しているのよね。"POSITIVE,POLITICAL,POWERFUL"って言葉が思い浮かぶよ。英訳された歌詞も載せた激烈手作りなブックレットが綴じられたジャケットもたまんないよ! また、彼らとSUBCAOSが同じレーベルにいるっていうのも嬉しいよね。後にリリースされたCD (1枚はカップリング)も最高だよ!

SPAIN編2 I〜U

text / 森下篤(OVERTHROW RECORDS)

INFIERNO DE COBARDES

■ **s/t** (Self release / EP)



この盤についてはあちこちでも書いたが、これぞ必殺!! もう何の疑いも躊躇いもないままDビートの奴隷と化したい貴方に贈るこの1枚!! コレを聴いてまんまDISCHARGEでしかないじゃんうんぬん言いたい人はどうぞご自由に。もうそういう次元じゃないんです、コレに関しては。俺の界隈(だけ)ではリリースと同時にエライ話題になったが、前号で紹介したDESTRUCCION、FIRMEZA10のテオドロによるワンマンユニット。こういう見方はちょっとアレかもだが、あと20年後のパンクスが聴いたらと思うと興味は尽きない。俺の持つスケールにおける名盤とはこういうのを指す。

MG15

■ **DERECHO A LA VIDA** (LA VIDA ES UN MUS / EP)



INFIERNO DE COBARDESにもアタリ前田の的に強い影響を及ぼし、当時リリースされた盤の中では恐らくスペイン初のDビート。05年には現ラインナップのDISCHARGEとスプリットEPをリリースしたり、このファーストEPの後にも何枚ものリリースがあるものの、残念ながらこれを凌ぐ音源はない。ギターはユルめのディストーションながらフックの効かせ方が絶妙な曲に巻き舌スパニッシュの直球ヴォーカルが絡むんだから、そりゃ〜もう…!! しかもオリジナルは敬愛して止まないATTACK PUNK RECORDSからのリリースときた日にゃあ!! UKのL.V.E.U.Mより再発されたこの盤はオリジナルより1曲多く収録で、現在は廃盤だが近くこちらも再プレスされるらしい。未聴というパンクスには何が何でも激マスト。

PROYECT HOMBRE

■ **s/t** (Self release / EP)



またしてもテオドロのユニット。バンド名も直訳だと"人間プロジェクト"と、何やらあの"人間クラブ"みたいな。テストプレスをもらって聴いた段階では、OTANに近い印象を抱いたが、正規リリースとしてジャケ付きでもらって聴くと微妙に違って聴こえるもんだから摩訶不思議。汗と唾が飛び散って来そうな位置で聴いてるような錯覚さえ抱く俺が変なのか?! 因みにテオドロは現在、スペインはバルセロナを離れUKはロンドンに移住。L.V.E.U.M主宰のパコ、ex.NAILBITERのカーロスらと早くも新ユニットを始動。今後の動向から目が離せない。

SUDOR

■ **CIUIDAD IMPERIAL** (SOLO PARA PUNKS / EP)



カタカナ読みすると"スドール"で汗を意味する。昨年スペインから届いたファンジンにデモのレビューが載っていて、気になり送ってもらい聴いた時には、このEPよりもう少しキレイに整った印象だったが思い違いだったか?! やっぱりこう来なくっちゃ!! 前につんのめりそうになりながらギリギリで突き進む、これぞスパニッシュ Dビートの伝統芸!! シンプルな墓標のジャケのセンスもイカすぜ。個人的には自分のレーベルからはこういうバンドを最もリリースしたいんだと再認識。この号が出る頃にはCRIMEN DE ESTADOとのスプリットLPも既にリリースされている事だろう。そりゃあもうなんて完璧なカード!! 幸せ!!

ULTIMO RESORTE

■ **LA LARGA SOMBRA DEL PUNK** (LA VIDA ES UN MUS/ LP)



コレを外す訳にはいくまい。94年頃にフィンランドのP.TUOTANTOが不定期に行っていた中古盤のリストセールにて12"EPを発見。もしかしてRUIDO DE RABIAみたいなイカツいのじゃないかとよく知らずに買ってみたらちょっとニューウェイヴっぽくて、ウ〜ン…今イチかな〜…なんて思ったりしたのが今じゃあ嘘の様。またこの描きづらいロゴをLEBENDEN TOTENのフランクも黒の鋲Gジャンの背中の下に丁寧にしっかり描いてるだけの事はあって、今聴くとドンズバのパンクでありながら、奇妙で奇怪なフレーズが突き刺さってくる独特の世界観を擁したバンドだったのが実にサプライズ!! これもL.V.E.U.Mのパコの手による、彼らの正規音源のEPに12"EPをコンパイルした盤で実に見事な仕事ぶり。見掛けるうちに買っとこうぜ。メンバーの革ジャン渋過ぎ!! ロゴでバッジ作りたい。

KANGRENA

■ **ESTOCK DE PUS** (BCORE / LP)



80年代の全世界パンク/ハードコアシーンにおける最大の功績と栄光である名コンピ『P.E.A.C.E.』にも参加し、R.I.P.、SHIT S.Aと並んで最も早くから異国のパンクスにスペイン代表として認知されたであろうバンドこそがこのKANGRENA!! チンピラ指数の高そうなメンバーのルックスもさることながら、この84年のデモ音源のLPではその鋭利さそのままを存分に堪能出来る。さらに85年のデモにEP音源を加えた別仕様のCDもリリースされているが、この際まずはアナログからいこうぜ!! それにしてもメンバーはなんだか懐かしのBLACKの通販広告のモデルみたいだな。タイトルの『膿のストック』ってのもイカす。

OTAN

■ **SOCIEDAD DEPRECIABLE** (LA VIDA ES UN MUS / EP)



INFIERNO DE COBARDESやFIRMEZA10でも活動しているテオドロがex.INVASIONのメンバーと組んだユニットのセカンドEP。ファーストEPを聴いた時点では何となく埃っぽいというか、どちらかと言えば80年代のイタリアにありそうな音に感じていたが、このコモリ気味の音質をロウと言わずして何と言う?! このセカンドでもファーストの延長上にありながら、以前に比べ曲自体がやけに尖った印象を受けるのは俺の気のせい?! いずれにしろテオドロ、相変わらずデキるなお主!! この先、LPサイズで新録を聴けたらと期待。

RUMANIA

■ **FIESTA DEMOCRATICA** (AVUNTAMIENTO DE MADRID / EP)



ここ最近のスペインからの新譜の中で、最も古き良き時代(もちろん今だっていいが)を感じたバンド。やけにジギジギしたギターに若干、ビアフラを彷彿させるヴォーカルが乗っかり弾ける。曲もヒネクレてたりポップだったりと様々に表情を変え、大阪はパンデスさんの入荷時のレビューじゃないが、本当に現代のバンドかよコレ?! みたいな感じが実に心地良い。あんまり余計な小技に走らずこのままでいってくれたら。さて、次のリリースでどう出るか?!

TDK

■ **ESTO ES UNA EMPRESA CAPITALISTA** (MUNSTER RECORDS / LP)



日本人には覚えやすいバンド名というべきか(笑)。このバンドもスペインの80年代初期を代表するバンド。1曲目のミッドから終盤でいきなり早いチューンに転換するトコが渋過ぎるぜ。あとはもう、押せ押せの流れ。こういうバンドって当時のスパニッシュパンク/ハードコアパンクシーンの中でも、それこそバンドマンから支持を集める玄人バンドとしての位置付けだったんだろうなと思う。スパニッシュ・パンクのプレイ自体にはそこまでキメキメの整合性を期待しないが、ここまでビシッとキマるとやっぱり充分過ぎるほどの説得力を持ち痛快!!

LA UVI

■ **YA ESTA BIEN** (MUNSTER RECORDS / EP)



82年オリジナルリリースの再発EP。このちょっと影を持ち、ささくれ立ったようなメロディラインが個人的に極めてツボなこのバンド。音質もバッチリでクオリティは極めて高い。正直言うと、こうした歌モノ的キャッチーさを持つパンクはかなり長きに渡りスルーしてきたが、一連の津山のバンドを聴くうち影響され、これまで聴かずにきた事に後悔しきり。「RUIDOS」は惜しくも解散してしまったサンフランシスコのPELIGRO SOCIALにもカバーされた。2階調のジャケも味があるが、バンドの当時の写真とかもっと見てみたい。黄色いピクチャー盤も有り。

SCREAMING PUNK RECORDS

AAAARRGGGHHHHHH!!!!

大好評連載第2回目は『スペイン』編パート2と『ポルトガル』編。
パンク・インフェルノに堕ちろ!!

早くも辺境パンク/ハードコアパンクファンから注目を集めているこのコーナー。紹介している作品は今でも探せばレコード屋の隅っこに眠っている場合もあり(?)…だから、家でシコシコとネットなんかしてないで街へガップンガップン飛び出そうぜ! ネットショップのリストにも漏れているかもしれない、愛しのヴィニールたちに会いに行こうや! そして、手に入れたレコードを爆音で聴きながら勝利の美酒に酔いしれるんだ!! "レコードが…パンクが3度のメシより大好き!"…そんな素晴らしきボンクラたちに捧ぐ。

CHANNEL SIX in MOBSPROOF

沖縄の超絶パンク集団“チャンネルシックス”が MOBSPROOF をページ・ジャック！
愛も欲望も希望も絶望も平和も戦争も全てを笑え !!

チャンネルシックスとは…様々な表現手段を用いて、PUNK を表現しようとする集団。デザイン活動やイベント出演など、ノンジャンルでアグレッシブな活動を続けているのだ！

真っ白に燃え尽きちまったぜ





『あしたのジョー』最終話参照

燃え尽きた。
真っ白な灰になるくらいに燃え尽きた。
男は故郷の田舎町を飛び出し、今年の春から上京してきたばかりの若者である。
もちろん右も左も分からない彼は、目的地へ行く事すら一人ではどうしようもできない。
それならばと、道行く人に声をかけるが、早足で通り過ぎてゆく人々は誰も彼の言葉に耳を傾けない。
この街では、見ず知らずの人間の相手をしたなら、食い物にされてしまうのだから仕方がないのか?
男は途方に暮れ、今日のところは目的地へ行く事はやめる事にするが、問題が一つ浮上した。

「帰り道が分からない！」
人に道を尋ねることすらできないこの街で、男はひっそりと燃え尽きた。

ちなみに、前回に漫画や映画の再現シーンの募集をしたものの、やはりひとつとしてお便りがなかったのです。
もう、その悔しい気持ちを表現するにはこの一コマしか考えられなかった。

秘技「氣功投げ」



東洋には古来から「氣」という独特の感覚野が存在し、それは現代の科学や理論をもっても解明出来ない現象を引き起こすことができるのだ。
そして、東洋の人々は、そんな常識や理屈では納得出来ない問題に対して『“気”のせい』であると表現することがしばしばある。
「気のせい」となれば、これはもはや我々の力では及び知れないものなのだから、考える必要すら無用である。
ただもしも、気のせいだと思っていたことが「ヒトのせい」だったなら、それこそ脳天から地面へ落下することになりかねない事もある。
“気”のせいだと言う前に、「“気”になる」ことでミえてくるものもあるに違いない。
そう、これは東洋にまつわるそんなお話。

【チャンネルシックス】http://ch6x.com　■密かに(訂正→切実に)お便りを待っているのです→ cxhx6@yahoo.co.jp



SKINHEAD! IT'S AN ASIAN LEAGUE

CROPPED MEN × BOOTed COCKS

インドネシアツアーレポート

インドネシア夜明け前

CROPPED MENとBOOTed COCKSが行ったインドネシアツアー。題して『アジア夜明け前』！ 世界各国の良質なスキンヘッドバンドをリリースし、シーンを盛り上げるBRONZE FIST RECORDSの高崎氏がツアーを密着レポート！

text／高崎英希（BRONZE FIST RECORDS）

パンクが身寄りのない子供たちの拠り所になっている

2007年の夏頃、シンガポールのTHE RUCTIONとの音源のトレードをきっかけにMySpace（世界中に会員が存在する大規模なSNS）を通じて、東南アジアに良質なOi!／スキンヘッドバンドが数多く存在する事を知った。そして2008年1月のシンガポール行きを皮切りに韓国・インドネシア・フィリピン・タイ・マレーシア各国にてシーンを垣間みる事に成功した。特に1万8100もの大小の島に2億3千万人以上の人口（世界第4位）を抱える赤道直下の国インドネシアの熱いスキンヘッドシーンの様子はロックに対する私の価値観を再確認させてくれた。首都ジャカルタのスキンヘッズたちと交わした「来年、日本のスキンヘッドバンドを連れて来てよ！」という約束を果たすべく調整を重ね、東京のCROPPED MENと大阪のBOOTed COCKSのインドネシアツアーを計画、2010年1月に『アジア夜明け前（BEFORE ASIAN DAWN）』と銘打ち、実現するに至った。

［1月13日］

大阪関西空港からジャカルタへの直行便はないので必然的にバリ経由になるのだが、ツアー初日は2008年12月の初インドネシア渡航時に知り合ったインドネシア唯一のサイコビリーバンドSUICIDAL SINATRAがホームグラウンド、バリ島クタの繁華街のド真ん中に位置するTwicebarでのライヴを段取りしてくれた。AM11：00発のGA0883便にて一路、インドネシアへ。

［1月14日］

昼間はホテルでのんびりしたり、ビーチへ出たりしながら夜を迎えた。数ヶ月前に入手したインドネシアの若手スキンヘッズのオムニバスCDR『Oi! Nusantara Vol.1』のジャケットに記載されていたバリのスキンヘッドバンドの電話番号へ片っ端から電話してたら、みんな観に来てくれるとの事。開演時間には40～50人の客が集まっていた。PM9：30、ライブはBOOTed COCKSからスタート！ 地道な宣伝の甲斐あってか（？）20人以上のバリ・スキンヘッズが押し寄せ、盛り上がりました。そして1月にリリースした『FAR EAST SLAPPERS』参加のネオ・ロカビリーバンドTHE HYDRANTとサイコビリーバンドSUICIDAL SINATRAが立て続けに素晴らしいステージを見せてくれた。トリの東京スキンヘッズCROPPED MENでも再びバリ・スキンヘッズがパワーを発揮、メタル好きっぽい白人客のモッシュをも巻き込んでの盛り上がり。

［1月15日］

PM12：50のエアー・アジア機でジャカルタへ。THE ENDやSKINLANDER、WARRIORS CREW（THE ENDのUthayを中心としたジャカルタ・スキンヘッズの集団）が迎えに来てくれた。この日の会場のジャカルタ南部の街チブブールの1000 Island High Pubは1年前の渡航時に急遽、私の歓迎ライヴを開催してもらった思い出深い場所。フライヤーに"For Warriors Crew Only"とある。翌日は中心部でデカいイベントなので、この日は身内のお客さん向けのようだ。開演はPM5：00と書かれていたがPM8：20頃、スタート（笑）。UK Oi!のカバー中心のDICKSHE、MAU MAUSをハードOi!にしたかの如きインパクトのドラム／ヴォーカルの3人組STA-PREST BOYS、在インドネシア白人がヴォーカルのTOLERANCE。3バンドみんなTHE ENDのUthayのテレキャスターを使っていた。経済的に恵まれている日本との違いを垣間みた。4番手がBOOTed COCKS。ファーストアルバム『FOR ONESELF』や『SKINHEAD vs PSYCHOBILLY』コンピレーションなどが出回っているからか、一緒に歌う者もいた。みなさんステージに上がりまくり、アットホームに盛り上がる。続いてCROPPED MEN。曲ごとに途中まで耳を傾けていたオーディエンスが暴れ出す。その繰り返しで痛快でした。そして今回、私が最も楽しみにしていたTHE ENDの登場！ 2008年初頭に入手した彼らの名作カセットアルバム『MADE IN INDONESIA』（1999年）にヤラれ、CDとして何とかリリースしようと奔走し、遂に今回の渡航前、バンドン・スキンヘッズHAIRCUTSのこれまた名作『HAIRCUTS』（2004年）とのカップリングCD『INDONESIAN SKINHEAD DIVISION』としてリリース。ここ何年かで出会ったバンドの中でも、筆者にとって最も思い入れの深いバンドなのだ。オーソドックスなようで独特な楽曲。どの音楽シーンでもオリジネイターは強力な存在感を放つ。トリは古株KEOTIK。この日は80年代UK Oi!のカバーが中心。空調などある訳なく（小さな扇風機のみ）蒸し暑い中、合唱。気がついたら日付は変わっていた。

［1月16日］

ツアー数日前に、客にバラ撒く声明文の作成を思い立った。捉えようによっては税関で発見されたら入国を拒まれる可能性もある代物なので、事前にUthayへPDFデータにして「出力しといて」と、メールで送っておいた。が、案の定すっかり忘れていたようで、自分でまずプリンターのあるネットカフェを探して出力。さらにそれをコピー屋さんで刷り増し。日本みたくコンビニでコピー出来る訳ではないので1時間以上、通行人に聞いたりしながらコピー屋を探し出し300枚ほどコピー。まぁ、こんな面倒な作業もいつもと違う環境下では楽しく感じられる。声明文の内容は"パンクの根源的な存在意義に関連する思想について"とだけ言っておく。この日は『Oi! FEST 2』。残念な事にTHE ENDは出演しない。昨日、今日と出演希望バンドが殺到したらしく、Uthayは自ら主催なのに後進へ道を譲った。彼らのクルー同志の結びつきが強く感じられた。数ヶ月前にmixiで知り合ったTさんが、日本人向け新聞『じゃかるた新聞』で勤める知人の方へライブの事を伝えたら取材に来てくれた。会場の受付に件の声明文の束を預けて「配布してね」。この日の1番手はハードOi!バンドNO ONE RULES、そして80年代UKハードコア／Oi!なINA SUBS、3番手が今回のツアーの窓口になってくれたAnggiがベースを弾くSKINLANDER。『SKINHEAD! IT'S AN ASIAN LEAGUE』コンピレーションにも参加してくれた彼らのCONDEMNED84／COMBAT84的、ジワジワにじり寄るがごとき重たい楽曲は（西）日本人好みかも。昨年に続きラスト3曲、私もドラムで出演。そしてBOOTed COCKS。ここでもマイクが2本しかなかったが、この日は途中でキーボード前にマイクを置きTaxが歌う「STEP ALONG」をやってくれました。80年代UK Oi!／ジャパニーズOi!影響下にありながらTHE POGUESに代表されるアイリッシュトラッド的な味付けの彼らのサウンド。インドネシアには絶対にいないタイプのバンドだろう。ここで会場の盛り上がりはピークを見せた。一度、会場の外へ涼みに行く。知らぬ間に道路を挟んだ会場一帯に300人近いスキンヘッズが集まっていた。みんな入場料が払えないので、ライヴの終盤に無料入場が可能になるのを待っているらしい。壮観だ。「すげぇ…」。顔見知りになった連中と一緒に写真を撮っている時、何人かの若いスキンズがサッカーチームの応援歌を歌いながら小走りでクルマの前を横切って行くのが見えた。「？？？」。いきなり1人の通行人に集団暴行を加え始めた。どうやらこの夜にサッカーの試合があり、通行人はジャカルタと対抗するチームのユニフォームを着ていたようだ。このエリアは飲み屋街で、店が雇っていると思しきガードマンだか私服の警官だかが割って入り、サッと身分証を高く掲げると20人ほどが暴れた騒ぎは一瞬にして収まった（さすがにカメラを向ける勇気はおまへん）。…間髪入れず300人近いハゲが声を張り上げ、フーリガンソングの合唱。周囲一帯が異様な雰囲気に包まれた。対立チームの旗に放火し歓声を上げる者も（クルマの側で火は危ないっちゅうに）。騒ぎのため渋滞していたのでWARRIORS CREWの年長者たちがサッと素早く交通整理を始めた。そんな騒ぎを尻目に会場へ戻ると、バイオリン入りラスティックなIKAT KEPALAでさらに客のノリは加速。続いて我らがCROPPED MEN。音を出した瞬間から会場の空気を一変させ、徐々に暴力衝動を煽る彼ら独特のサウンドは例に漏れずこの日も大受け。パンクロックのドライヴ感を損なっていない曲調で聴きやすいのも支持を受ける要因の1つだ。ギター／ヴォーカルの相原君がベースのジャイアンを指差し「ヤクザ、ヤクザ！」。客は爆笑。そしてサッカー応援歌をメロウなサウンドに昇華するFIREY JAK。トリはOi! SQUAD。馴染みやすいOi!サウンドに客の盛り上がりも最高潮に。

［1月17日］

早めに目を覚まし、チャーターした小型バスでAM8：00過ぎにバンドンへ出発し、特に渋滞もなく3時間で到着。私がBOOTed COCKSのドラムの手伝いをした2006年末に静岡で知り合った、当時日本へ留学していたPanjiが迎えに来てくれた。到着すると正午過ぎでMOONSTOMPがプレイ中。名曲「BEER AND BRANDY」が聴けず残念。メロディックなOi!と80年代ニューヨークハードコアな曲を交互に演奏していた。そして、この日の『Oi! IS BACK!』を企画してくれたHAIRCUTS。迫力のあるノリの良いハードOi!サウンドだ。ラストのTHE OPPRESSED「WORK TOGETHER」でドラムをやらせてもらいました。続いてHAIRCUTSのAanと並んでシーンのオピニオンリーダー的存在であるシャープ・スキンズDido率いるTHE REAL ENEMY。THE BUSINESS「REAL ENEMY」演奏時、1年前にもらった彼らのTシャツを掲げてステージに乱入してみた。続いてBOOTed COCKS。まだ日が高いうちからダイビングの嵐、嵐で盛り上がりもピークに。ツアー中、最も気合いのこもったステージでした。昨日同様、数百人ものスキンヘッズが会場に集結していたが、この街は雰囲気がのんびりした感じ。小学生・中学生もたくさんいる。後で知ったのだが、ある程度の年齢以下の子供たちは入場無料だったそう。インドネシアではパンク／ハードコアのシーンが身寄りのない子供たちの拠り所にもなっているのである。見に来ていた彼らが成長する5～10年後が楽しみというか、末恐ろしい。キュートなスキンガール5人組D'PONIS、UK Oi!フレーバーな古株OPPRESSION HEAD、ニューヨーク・ハードコア寄りなS.O.R.とBULLDOG BRIGADEなどに続き、イスラム教の礼拝時間のため中断をはさみ、シンガポールのTHE BOiSの登場。2008年1月のシンガポール渡航時にスタジオでセッションをしたり、世話になった彼ら。その時は全員ニコリともしない印象だったのに、この日は笑顔で愛想良かった。旅先やからか（笑）？ センスの良いフーリガンOi!なRENTENIR、管楽器も入ったスキンヘッド・スカDON LEGOで場内の盛り上がりは最高潮に。多い時で1000人近い客が押し寄せ、この国のシーンの底力を再認識した。ツアーそのものは盛況の内に終了したが感慨深い気持ちはこれっぽっちも生まれず、ここから生まれるであろう今後の動きに高揚するばかりである。終演後、声明文の余りを配っていたら、小学生が大勢集まって来て凄まじい勢いでひったくるように持って帰ってくれたのですぐ無くなった。一度ホテルへ戻った後、バンドン・スキンヘッズの溜まり場であるバーTWANKに出演者が集まり乾杯！ 深夜までPanjiの案内でバンドンの街を短い時間ながら堪能した。

［1月18日］

朝もPanjiが迎えに来てくれて、フレッドペリーが安いショッピングモールやメシ屋などへ案内してくれた。我々の荷物はHAIRCUTSのAanが引き取って空港まで持ってきてくれた。1日1便しかないバンドンからバリへの飛行機に乗りジャワ島に別れを告げた。現地時間のPM4：00頃にバリに到着。クタビーチの夕陽を眺めながら必ず戻ってくることを心に誓った。





①［1月14日］バリ島のネオ・ロカビリー THE HYDRANT。2009年にヨーロッパツアーを敢行するなどインドネシアのロックシーンでも一歩、抜きん出た存在　②［1月14日］この日のライヴを段取りしてくれたバリ島のサイコビリーバンドSUICIDAL SINATRA。ライヴの演奏が音源と全く変わらないタイトな演奏は見事だった　③［1月15日］BOOTed COCKS at 1000 Island High Pub　④［1月15日］この日の会場の雰囲気はアットホームで、子供連れの人もおりました　⑤［1月15日］香港のストリート・パンクバンドOi! SQUAD。フィリピン人ヴォーカルのMoyほか、欧米諸国出身メンバーによる多国籍バンド。3日間、ライヴを共にしました　⑥［1月15日］今回のジャカルタでのライブを段取りしてくれたインドネシア最初のスキンヘッドバンドTHE END。この日しか観られなかったのは残念。現在、ベースはANTI SQUADのドラムBucilが担当　⑦［1月15日］トリを務めたジャカルタの古株スキンヘッドバンドKEOTIK。この日はCOCK SPERRERなどUK Oi!のカバー中心でした　⑧［1月16日］1年前と同じくこの日もSKINLANDERで3曲、ドラムを叩きました　⑨［1月16日］バイオリンやアコギが入ったラスティックなIKAT KEPALA。インドネシアにもこんなバンドがいたとは驚きだ。ずっとピッチずれてたけど…　⑩［1月16日］CROPPED MEN at Masberto Cafe。ハードコア好きにもウケていたようで終始、ニュースクール系のお客のウィンドミル（手足を交互に振り回す踊り）が見られた

BRONZE FIST RECORDS new stuff!!



V.A
『SKINHEAD! IT'S AN ASIAN LEAGUE』
THE INDEX、BOOTed COCKS、真摯、THE END、HAIRCUTS、SKINLANDERなど13のアジア各国のスキンヘッドバンドを収録。



THE END / HAIRCUTS
『INDONESIAN SKINHEAD DIVISION』
THE ENDが1999年にリリースした『MADE IN INDONESIA』とHAIRCUTSの2004年の作品『HAIRCUTS』をカップリングしたファン待望のスプリットアルバム。



V.A
『FAR EAST SLAPPERS』
SUICIDAL SINATRTA、THE HYDRANT、RESCUE、SPIDERZなど日本、インドネシア、フィリピンのロカビリーとサイコビリーバンドを収録。



⑪［1月17日］この日のライヴを段取りしてくれたHAIRCUTS。ジャカルタと並んでスキンヘッドシーンの大きなこの街、バンドンの中心的存在　⑫［1月17日］スキンガール5人によるD'PONIS。ヴォーカルは肝っ玉母さんキャラでしたが、他のメンバーは綺麗どころ揃いで惚れました♪　⑬隣の会場でもハードコアのギグがあったため、このモール一帯はスキンヘッズとパンクスに占領された形になっていた　⑭&⑮［1月17日］BOOTed COCKS at IBC Cafe。文句無し！ 今回のツアー中で最も最高なステージを見せてくれました　⑯［1月17日］センスある楽曲を聴かせてくれたRENTENIR。楽曲の核になる印象的なフレーズを奏でるベーシストは日本に留学した事があるらしく少しの間、通訳してもらいました　⑰［1月17日］ホーンも入ったスキンヘッド・スカなDON LEGO。我々のツアーの締めくくりにふさわしい楽しめるステージ。スキンヘッド・ムーンストンプや！　⑱［1月17日］今回のインドネシアツアーの締めくくりのDON LEGOの演奏の終盤、これまで体験した事のない、えも言われぬ神々しい空気に包まれる感覚に襲われた　⑲［1月17日］バンドンのスキンヘッズの溜まり場でもあるTWANKで打ち上げ　⑳［1月17日&18日］バンドンでは何から何までお世話になったPanji（左端）。日本とインドネシアのスキンヘッドシーンの繋がりは紛れもなく彼と私から始まったのである



BRONZE FIST RECORDS　URL : http://www.bronzefist.jp　http://www.myspace.com/bronzefistrecords　E-mail : bronzefist@hotmail.com

MAVERICK KITCHEN VOL.2

photo / Yuki Kuroyanagi　text / Kunihirock





2010.4.4 sun Tokyo Ebisu LIQUID ROOM

去年に引き続き開催されたタワーレコード主催の"一匹狼の台所"ことMAVERICK KITCHEN。前回を上回る盛況で暴動寸前の巨大ギグが終了した。本誌お馴染みのバンドから、はじめましてなバンドまで…その灼熱の模様を完全撮り下ろしフォトとレポートで完全レポート!!



JAPAN-狂撃-SPECIAL

怒髪天

ゲタカルビ

キャリアやセールス…全て度外視したイベント

エディ・マーフィー(桑マンも)の誕生日でもある4月4日、リキッドルームにて行ったTOWER RECORDS presents『MAVERICK KITCHEN VOL.2』! このイベントは、変な政治とか金とか、キャリアとかセールスとかは全て度外視して、タワーレコードとして本当にお客様に届けたいバンドのみを集めたイベントとして昨年5月にVOL.1を開催しました。2回目となる今回もバンドとお客さん、当日のスタッフのおかげで、最高の1日にして頂きました! ここに、当日のレポートを報告させて頂きます!

出演順は前回同様、当日の会場内のみで発表だったのですが、オープン時刻14:30の段階でリキッド2Fロビーは既にパンパンに! "スタート15:00までに客入れ終わるのか?"と焦りながら、定刻通りイベント・スタート。

トップバッターは怒髪天! 前回はトリだったんですが、増子さんがその時のMCで「こういう長丁場のイベントで、トリは酒飲めないから最悪」と言ってたので、今回はトップでお願いしました(笑)。1曲目に「ド真ん中節」という意表をついた選曲で始まり、その歌詞通り"心が燃えたぎる"情熱のストレート、怒髪天とタワーとの"契り"ナンバー「NO MUSIC,NO LIFE.」、「美学」ほか全7曲をいつも通り沸点の下がることなく全力で叩き付け、1組目からフロアのボルテージは最高潮に!

でも、MAVERICK KITCHENはお客さんを休ませません! 続く2番手として アナーキーの仲野茂率いるゲタカルビが登場! しかも1曲目に「東京イズバーニング」! 3月にタワー限定リリースとなったアルバム『公式海賊盤「壱」』からのナンバーを中心にプレイされ、最後に名曲「四月の海賊たち」で終了。またイベント当日、ゲタカルビ×亀戸ハードコア×タワーレコードのコラボ・タオルが入場者全員に配られ、THE BAWDIESファンの女の子がそのタオルを首に巻くというハードコアなシーンにも遭遇(笑)。

続く3番手は、JAPAN-狂撃-SPECIAL! トップバッターで出演しお客さんもまだチラホラ、反応も様子見的な感じだった前回に対し、今年は狂撃初体験のお客さんをも巻き込んだ盛り上がりに! 「なめんな音頭」で



ニューロティカ

SA



MOSQUITO SPIRAL

THE BACILLUS BRAINS

THE BAWDIES

は恒例のコール＆レスポンスが会場全体を飲み込み、観客のハートを鷲掴み！ 新曲「オオカミになれ」も披露された今回、彼らの成長を改めて感じて胸がアツくなり感動すら覚えました。これから狂撃はもっと化ける気がします！

そして4番手は、GASTUNK復活でも話題のBAKIを擁するMOSQUITO SPIRAL！ 2月にリリースされたアルバム『IN THE CROWD』からのナンバーを中心に観客を圧倒！「MONSTER」ではBAKIさんがステージからフロアに乱入し、お客さんのボルテージも更に上昇！ 最後に「ISOLATION」を叩きつけ、強烈な印象を残してステージ終了。

そして、ちょうど折り返しポイントとなる5番手にTHE BACILLUS BRAINS（以下、脳炎）が登場！ 1曲目から新曲（ヤバい！）で幕を開けた脳炎。この日も早川さんがパーカッションでサポートに入ってましたが、音がメチャクチャ太い！ フロアも、のっけからアガりまくり！ 2曲目には早くも「MIDNIGHT SAVAGE」炸裂！ 後は、ロックはロールしていくだけ。もう誰にも止められないですね（笑）。脳炎は昨年も出てもらいましたが、前回以上の最高のステージをブチかましてくれました！ キイチくんもマイクスタンドを客席にブン投げ、最後はフロアにダイブ。なかなか新作が出ない状況の中で最高のライブをやってくれて、逆にちょっとムカつきましたね（笑）。

今年は昨年よりも、お客さんに若い女の子が多かったんですが、それは彼らが出るからでしょう。6番手、THE BAWDIES！ 今や、オリコントップ10内に入るくらいモノ凄い人気を誇る彼ら。今回のメンツの中では異色に映ったかもしれません。でも、彼らがライブで掻き鳴らす音は想像以上にヘヴィーでカッコよく、ロックンロールと向き合うその姿勢には強く共感できます。どうしてもアイドル的なイメージがあるので、そこだけで判断してしまう人も多いかもしれませんが、そのハッピーでシェイキンなロックンロールは是非、体験していただきたいです。

そして7番手にはニューロティカが登場！ 〝THE BAWDIESが終わったら、もしかするとお客さん一気に減るのかな？〟とちょっと心配な部分も正直あったんですが（笑）、スミマセンでした！ 後ろの方まで、フロア満タンでした！ でも、それ凄く嬉しかったです。匠の技といえるそのステージ運びに、ロティカを初めて観るお客さんも終始笑顔に。新たなファンを、今回でロティカは多く獲得したんじゃないでしょうか。アッシさんのトークも絶好調！ 爆笑の嵐でした（笑）。ギターのシズヲさんはゲタカルビのメンバーでもあるのでこの日は2ステージでした（因みに前回もシズヲさんは2ステージでした。お疲れ様でした！）。

ラス前、8番手はSA！ いつ、いかなる状況でも、確実に〝持ってく〟イベント・キラーとして知られるSA。昨年出演時にプレイされた「（GOOD BYE）SHINING FIELDS」の時、確実にSAを初めて観るであろう人たちが手を上げ、そのメロディーを会場全体が一緒に歌ったアノ感動的な光景は今でも強烈に脳裏に焼き付いています。前回のMVPとの声も多かったSAですが…、今年もやってくれました！「GET UP！ WARRIORS」で幕を開けたライブは、終始ダイブが止む事が無く、もうフロアはガッチャガチャのグッチャグチャ！ 最高でした！

SAがステージを終え、まだフロアに強力なヴァイブスが漂う中、今回のトリを務める毛皮のマリーズが登場！ 音が掻き鳴らされ、「俺らで最後！」とヴォーカルの志磨遼平が叫ぶと一気にフロアの空気は毛皮のマリーズのものに。人気ナンバーが次々とプレイされる中、新作となるメジャーファーストアルバム『毛皮のマリーズ』から「それすらできない」（超名曲！）が披露され、その後も再び疾走感溢れるナンバーが次々にプレイされていき、「恋をこえろ」で志磨くんが「タワーレコード万歳！」と叫び、フロアにダイブしてライブは終了。でも！ あの曲をまだやってないので終われません！当日会場先行販売を行ったタワー限定シングル『NO MUSIC, NO LIFE.』。鳴り止まないアンコールに導かれ、メンバーが再びステージに登場。「今日1日、全部濃かったから疲れたでしょ？ ホンモノは効くでしょ？」「2年連続、いろいろあるけどゴリ押しでタワーレコードが本気出してこういうイベントやるってどうなのよ？ ちゃんと分かってんの？」とお客さんにMCで投げ掛けてくれて。グッときましたね。ウチのスタッフは、泣いてる子もいた位みんな感動してました。なんか報われたって。志磨くん、ありがとう。そしてメンバー全員イ



JOHNS TOWN ALOHA



TY HATE



毛皮のマリーズ

SA

★

スに座って、最後にその「NO MUSIC,NO LIFE.」を本邦初公開。この曲、歌詞の中に〝タワーレコード〟が出てくるんですよ。初じゃないすかね、歌詞にウチの会社名が出てくるの。良い曲ですので是非多くの方に聴いていただきたいです。

こうして、6時間30分強に渡る〝祭り〟は無事終了。40オーバーからパンクスに女子高生まで、本当にいろんな方々が最高の音楽の下に集まって一緒になって騒いだ、至福の1日でした。今回は多くのバンドにステージで「MAVERICK KITCHENは好きなイベント」って言っていただけたりして、本当に漏らしそうなくらい嬉しかったです(笑)。また、前回もお越し頂いたお客さんも多く、「今年もMAVERICK KITCHENへ行きます」なんて声をネットなんかで発見すると泣きそうになりますね(笑)。少しづつですが〝MAVERICK KITCHEN〟という名前が認知されはじめているのを肌で感じました。それは素直に、めちゃくちゃ嬉しいですね。もちろん、準備期間を含め前回にはなかった問題点が出てきたりもしましたので、いい経験もさせていただきました。楽屋のビールはまだまだ必要だということも(笑)。VOL.1を始める時から決めてましたが、やはりイベントは続けることが大事だと思ってます。ただ、これもはじめから決めてた事ですが、イベントの主旨がブレるような事があった場合は、『MAVERICK KITCHEN』は終わらせます。それはVOL.1、VOL.2に出演いただいたバンドと来ていただいたお客さん、そして協力してくれたスタッフの事を考えると当然ですね。また、MOBSPROOF、RUDE GALLERYには今回も快くご協力いただきました。勝手言って申し訳ないですが、この2社にはこれからも『MAVERICK KITCHEN』が無くなるその日まで、ずっとお付き合いいただくつもりです(笑)。職種は違えど、同志だと思ってます。感謝してもしきれません。いつもありがとうございます。それと、ディスクユニオンさんにもこの度はお力添えいただきました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。そして何より、『MAVERICK KITCHEN VOL.2』にお越しいただいた皆様、本当にありがとうございました！来年、VOL.3でまたお会いしましょう！最後に、当日先行販売していた毛皮のマリーズのタワー限定シングル『NO MUSIC,NO LIFE.』の売上枚数が、偶然にも69(ロック)枚だったことを付け加えておきます(笑)。

NO!を言うための行動イコール闘争

ORIGIN OF [M]

広島を中心に活動し、強力な意思を表現し続けているバンド、ORIGIN OF [M]。待望のファーストアルバム『STRUGGLE』が北海道のSTRAIGHT UP RECORDSからリリースされた。広島パンク界のゴッドファーザーでもあり、バンドのヴォーカリストであるガイ氏がインタビューに答えてくれた。

デスマスクのようなジャケットが意味するものは？

■これはブックレットを全部見ると分かるんだけど、3部作になってます。最初のジャケットの絵は被爆者の被爆直後の姿を現しています。次の絵で目を開こうとする被爆者を、そして最後にカッと目を見開きポジティヴに向かう被爆者を表現しているんだと思います。65年前に、この〝ヒロシマ〟の地で悲劇があったのは事実。しかしその凄惨な体験を乗り越えて今の平和都市〝HIROSHIMA〟がある。と、いうことを、この作品を使って表したかったんだ。このデザインは広島在住の絵画家、川本絵美さんが描かれた作品を購買された松本さんの許可を得て使わせてもらいました。川本さんは自分が今、関わっている上関原発反対のイベント『NO NUKES RELAY』の活動の中で、鎌仲ひとみさんのビデオレター『ぶんぶん通信2』のDVDを借りに行った際に、偶然そのカフェで個展を開いていた彼女と知り合ったんです。様々な人物の肖像画が展示してあったんだけど、作品を見た時に彼女の表現する絵画の力を感じたんです。そして展示されている作品以外を掲載しているスクラップブックの中に、このジャケットの絵を見つけたんです。それから彼女に交渉し、この絵が3部作でありことを知り、購買者の方のサロンに実際に見に行って〝これしかない〟と感じたんだ!!!

ハッピーエンドに向けて僕達の闘争は始まる

今回の作品で音のバラエティがさらに広がった感じがします。そのアイデアは自然と？ それとも意識的にでしょうか？

■成長したのかな(笑)？ 基本ラインはあんまり自分では変わってないような気がするんだけど、○の新曲も増えてるし、バラエティに富んでると思われたなら嬉しい事だね。それはオリジンの各自の色が強まってきたということだと思います。それと、せっかくフルアルバムなんだから、トータルアルバムな感じにしようと思ったのね。テーマは反戦、反核、脱原発、そしてそれらに対して「NO！」を言うための行動。イコール〝闘争（STRUGGLE）〟だから。そういう歌詞ばかりではないけど、このアルバムで一番言いたいのは〝Our Struggle Starts Toward The Happy Ending（ハッピーエンドに向けて僕達の闘争は始まる）〟なんだよね。いろんなタイプの曲があるんだけど、新録も再録も含め、1枚のアルバムとして聴いてもらいたかったので、レコーディングはもちろんのこと、マスタリングで曲のイントロから終わり方、SEに至るまで、かなり拘ったし時間をかけました。時間をかけすぎて確定申告間に合いませんでしたが(笑)。

バンド以外にもお店、レーベル、『TO FUTURE』とハードワークな印象がありますが、その衝動の元となるものは？

■怒りかな？ それがオレの糧だからね。刺激がないとボケちゃう(笑)。確かにハードワークだけど、理解あるうちの嫁さんと手伝ってくれる仲間に助けられてます。苦しいときも正直あるけど、誰に強制されてるわけでもなく好きなことをやってるんだから、純粋にその全てを楽しんでるっていうのも事実だね。広島で生まれ、育ってきた中で自然と生まれる反戦や平和の気持ちは常に感じてて、それはパンクとの出会いで、より強く感じてた。でも、パンクバンドの中で〝ヒロシマ、ナガサキ、NO NUKES、NO WAR〟なんて叫んでる連中の〝一体、何％が実際にその土地に来てるんだろう？〟〝その気持ちは本当なんだろうか？〟なんて疑問も多少持ってたから逆に自分のバンドではそういうの封印してたし、活動もしてなかった。実際に広島に住んでるとね、「ヒロシマ」ってなかなか簡単に言えないよ。でも、地元のパンクスは話さなくてもオレと同じ感覚を持ってくれてるだろうなと思ってたのね。で、6～7年前かなぁ。後輩の反戦イベントをきっかけにみんなと話したんだけど、なんか〝ヒロシマ〟に対して希薄だったんだよね。今は真剣に考えてる広島パンクスも多いけどね。それからかな。地元がこれじゃ他県や外国には何も伝わるわけがない。広島から反戦、平和の発信をしていこうって、思ったのがきっかけ。

今後の予定や目標は？

■去年の倍を目標にいろんなとこへ行ってライブをやりたいなー。愚鈍から数えて26年。ハードコアパンクバンドやってんのに行ってない県の方が多いからさ(笑)。出不精なのかな？ それを治して今年はアクティヴに行こうと思ってます!! STRAIGHT UP RECORDSからせっかくリリースしてもらったんだから北海道は行きたいよね


Our struggle starts toward the happy ending

アルバム『STRUGGLE』全曲解説

ガイ氏による全曲解説でメッセージ性の強い歌詞がより立体的に！

track1
STRUGGLE!! ｜Our Struggle Starts Toward The Happy Ending｜

この曲は今回のテーマの1つ。反戦、反核、脱原発のうち、上関原発に対して感じたことを歌ったナンバー。この原子力発電所建設問題に対してみんなに考えてもらいたい。〝ただ何となく電気って必要だから〟とか〝CO2減らさないとね〟とか、漠然に考えてたら未来なんかないよって、こと歌ってます。とにかく原発なんか必要ない。原発が必要なのはその技術を売ってる企業やお国だけ。原発が無くても日本は充分なエネルギーを手に入れることが出来る。実際、ヨーロッパは脱原発～自然エネルギーへの移行を国を挙げて進めてる。その先進国が営業をストップさせた原発の解体や廃棄物の処理に頭を抱えてるんだ。ところが日本は脱原発を目指すどころか、MOX燃料（ウランとプルトニウムの混合核燃料）を使ったプルサーマルを全国的に広めようとしている。おまけに新規の原発建設に着手するなんて狂ってる。まだ俺たちの手にある未来を掴むためにアクションを起こそうぜ!!

track2
阿呆の政ーまつりごとー

今回の衆議院選挙で政権交代した時に思ったことを歌ってます。自分は悩んだあげく結局選挙には行かなかった。歌詞にも書いているけど〝我がの選択肢は何処？〟って感じたから。自民も民主も保守やからね。言い方を変えれば昔の自民党の派閥争いが党派になっただけに感じてしょうがない。小沢なんか元田中派閥の金権体質丸出しだよね。実際、田中イズムを一番引き継いでるのコイツでしょ。Why Does Our Society Rot？ 何故俺たちの社会は腐るんだ？？？？ そりゃ政治家が阿呆やから。

track3
SUICIDE

これは最初のリリースのナンバー（男道の『テロリズム4』収録）。当時は自分がベースで、脱退したヴォーカルが歌ってるし、今でもライブではよく演奏する曲なんで現メンバーで再録してみました。何故か当時より荒いし速い(笑)。

track4
プラハ

チェコスロヴァキアはプラハでのオバマの演説にラガのビートを合わせてみました。

track5
戦争の犬共

E.N.T.、SLANG、FRAMTID、PERSEVERE、ACE IN THE HOLEが入ってるPEACEコンピ『TO FUTURE』の収録曲を再録音したナンバーです。初めて自分が戦争というものに対して歌ったナンバーなので今回のアルバムに入れました。戦争の犬はいわゆる死の商人のこと。死の商人（軍産官複合体）により、この世界の多くの紛争や戦争は引き起こされる。それは大国にとって莫大な利益を生むんだ。だから大国は建前では平和を唱えながらも、実際に平和になっちゃ困るんだ。兵器輸出は出来ないし、自国にかける軍事予算で内需も拡大できないからね。去年のオバマのプラハの演説だってそう。本音は、アメリカ以外の国の核保有やテロへの核技術の流出を防ぎたいわけだ。だから自国が率先して核を廃絶しようってブチまけたわけ。要は通常兵器で戦争しましょうってこと。北朝鮮だって核実験やミサイルは商売。核保有国の承認を求めてるのは堂々と商売したいからでしょう？ もちろん国力の象徴としての威嚇の意味もでかいけどね。日本は核ミサイル保有の代わりに多量のプルトニウムを持ってる。その核は原発として稼動している。兵器を作る代わりに核技術を売ってる。外国が軍産官複合体なら日本は原産官複合体。戦争の犬（死の商人）には変わりない。そんなヤツラはこの世界にはいらない。

track6
FIRST CRY ｜産声｜

これもテロリズム収録曲。この曲も何故か当時より荒いし速い(笑)。

track7
destiny

今まで多くの仲間が亡くなった。自分もたくさん悲しい想いをした。でも、その事を自分の人生に生かさなきゃ、彼らに失礼だと個人的には思う。一時は荒れるのもいい。でもそのままそこに立ち止まってるのは見たくない。

track8
真理

UNDER THE SURFACEのコンピ『DEMNTED ANTHEM HARDCORE ASSEMBLAGE』収録曲。レコーディング当時と構成が変わったし、好きな曲なので今回も再録音しました。

track9
ORIGIN OF MADNESS

このバンドを始めたとき、作品ごとにORIGIN OF [M]の〝M〟の意味を出したナンバーをやろうと決めていた。テロリズム収録時はORIGIN OF MURDER（殺意の起源）。今回は狂気をテーマにしてみた。昭和の時代と違い、今は誰でも狂気を持ってる気がする。その狂気に身を委ねるのも自分。抑え込み、共存するのも自分なんだ。

track10
SUCK UP!!

バンド、レーベル、企画、店舗、活動とやってると色々な出来事がある。決して楽しい事ばかりじゃない。どれ1つ満足に出来てない自分が全てこなそうとすると思い切り疲れる時がある。けど、落ち込んでるのも勿体無いからまた前進する。土砂降りの後の晴れ間は気持ちいい。

子供達よ 渡さずにいたポケットの魂 深くしまっていてくれ



GLE』
フレコーディングス
・¥2,205（税込）



抹殺 OSAKA

2009.11.22 sun Osaka SOCIO

13時のスタートから約10時間‥全21バンドの演奏終了後には来場者全てを“抹殺”した驚愕のイベント『抹殺OSAKA』。その全貌を暴く衝撃ド迫力フォトと首謀者であるサイトゥーン(FORTITUDE) & 啓太(抹殺ギグ)によるテキストで戦慄の完全レポート!

YOUR LIFE CONSISTS OF COUNTLESS DEATH AND COUNTLESS GRIEF
YOUR LIFE CONSISTS OF COUNTLESS DEATH AND COUNTLESS GRIEF
YOUR LIFE CONSISTS OF COUNTLESS DEATH AND COUNTLESS GRIEF



ZYANOSE



REDNECKS



ADIXION

世界広しと言えど怪奇パンクを地でいくなんて彼らしかいないだろう。エッ？　怪我した？　真っ赤な血が出た？　残念ながらそれじゃ駄目なんだナ。緑色の血じゃないと…。

抹殺 OSAKA



AKKA

愛媛・香川混成ダークネスハードコア。ヴォーカルHyodoの激鬱なMC、ライブでの存在感は若手バンドながら圧倒的!!　声の質もハードコア・メイニアックスの心をくすぐる絶叫だ!

抹殺 OSAKA



BAD DIRTY HATE

大阪3ピース、激昂スラッシングハードコア!　ンッ!?　何やこの写真はッ？　ベビーゴリラ?　チビゴリラ??　まぁ、何でもエエわ。そういう事です。



REDUCTION
大阪ソウルサバイブハードコア!　彼らはこの日、2本のライブをこなした実力派!　ハイテンション!　梅兄ぃの血湧き肉躍る雄叫びを聞け!!



ATOMIC THROAT
山口県を中心にジャンベ2名、サンプラーを加えたメンバー総数7名で登場!　反復される展開の中でグングンスピリチュアル感を増幅させる極悪アシッドハードコアに脳ミソが研ぎ澄まされる!!



COMPLETED EXPOSITION
大阪3人組パワーバイオレンス最終兵器!　轟音ダブルベースが全てをなぎ倒すスタイリッシュな光速ハードコア。ハイボルテージ&ハイエナジー!!



DEVASTATED GOES
大阪ドゥーミック・クラスティーズ!　ヴォーカルkawata氏の低音を中心とした豪快な咆哮が箱を揺さぶる強力ライブ!　自主制作7インチ音源に期待が高まる!!



GALLHAMMER
暗黒世界の住人。世界をまたにかけるネガティブチェーンソー!!





MORTALIZED
京都発激烈光速テクニカルグラインド! 速さの中に答えがある!



RIVERGE
大阪北摂80's暴走スラッシュメタル! ささくれ立った獣の臭い!



SIGNS OF SIN
東京グラインディングドゥーム! 悶絶! 前後不覚の底なし沼!



NERD
日本ハードコア界の大秘境、九州は博多から暴虐ハードコア!!



UNARM
東京ポリティカルクラスティーズ! 雑音の洪水と絶叫が全てを飲み込む!!



FORTITUDE
大阪肉弾粉砕アルコールコア! うわぁ! 何これーッ!? ヨダレたらたらーッ、顎腫れーッ! 超キモーッ(爆)!! だから何回も何回もゆーてるけどな、何で自分のバンドの事自分で書かなアカンねんッ! 死ね(怒笑)!



DISGUST
もはや説明不要、名古屋重鎮クラストグラインド！　ザクザク切り込む極悪ギターノイズリフの波状攻撃とグルーブ感を兼ね備えた音数の多いリズムの嵐で会場内の全てをなぎ倒す。



UNHOLY GRAVE
グラインド総番！　ヴォーカル小松氏の長身を生かした独特のライブが圧巻！





LITTLE BASTARDS
埼玉グラインドバスターズ！　この日究極の盛り上がり、会心の一撃！



THE PROCESS
イギリスより来日の巨漢重戦車！　激情ハードコアで大阪を殴打!!



屈辱
京都グラインドコア！　陰鬱な日本語表現が独特の世界を生み出す！



SWARRRM
神戸より参戦のカオティックグラインド！　安定感のある演奏と深みのある楽曲でオーディエンスを昇天させる貫禄のライブを体現！　TSUKASA氏の叫びも切れ味鋭く絶品!!

KEEP IN TOUCH

DISC REVIEW

VOL.01からの人気コーナー『RIGHT TO WORK』で取り上げたレーベルの新作をアップデートしていくこのコーナー『KEEP IN TOUCH』。各自でファイリングして、目指せ完全コンプリート! どんどん増殖していくからってメゲるなよ! このコーナー名の由来は…そう、パンクス同士の文通でよく使われていた言葉…『KEEP IN TOUCH(連絡を取り続けよう)』!

GUDON



(BSR-100)

残忍聖者-EARLY YEARS- CD

カセット『腐臭』(84年)、ソノシート『残忍聖者』(85年)、シングル『卑下志望』先着特典の激レア・カセット(86年)の音源を収録した全20曲入り。インポサイド/ボッキサイドが懐かしい『腐臭』と最強のアンチクライスト・アートが素晴らしい『残忍聖者』はヴォーカルがONE時代の作品。

END OF SEEEDS



(BSR-101)

END OF SEEDS CD

三重を拠点にACROSTIX、T.N.A、CONTRAST ATTITUDEらと共に精力的な活動を続けるハードコアパンクバンドのファーストアルバム。女性ヴォーカルがグイグイと引っぱる強力なサウンドはジャパニーズ・ハードコアパンクやクラストを飲み込み、獰猛な音を産み出している。

AXEWIELD



WAR MACHINE CD

暗黒製重金属斧メタリック・クラスト・フロム・死国! イントロのアルペジオから殺気漲る冒頭曲「DEATHTOPIA」、ジャッギジャギの殺戮ギターが耳を切り刻む「OMINOUS DREAM」など死臭と気迫に満ちた5曲入り。CRUST WARから12インチ『WISDOM OF DOOM』も同時リリース!

RAW NOISE



(MCR-250)

SYSTEM NEVER CD

EXTREME NOISE TERRORのヴォーカルでもあるディーン率いるRAW NOISEのセカンドアルバム。20年前にリリースされ、全世界のクラスティーズに嬉ションを漏れさせたファーストシングル同様、凶暴極まりない野蛮な咆哮が轟いてくるぞ!

-REJECT-



(MCR-251)

FIGHT FOR EXISTENCE CD

"80's UKハードコアパンクへの愛が治まる暇なし"な、暴動都市で生存競争を賭け、活動を続ける-REJECT-の6曲入り。原色が似合うカラフルでポップなキャラクターとアグレッシヴなエナジーが炸裂したサウンドの相乗効果で強力な作品となっている。

more news...**MCR COMPANY** AXEWIELD『WISDOM OF DOOM』12"EP MCRがディストリビュートするCRUST WARの新作は香川より地獄の使者たちの最新音源!

Special InFoRmaTiOn

GIG INFORMATION



■ EXTINCTION OF MANKIND / DISGUST JAPAN TOUR

イギリスから極悪スラッシュリフをザクザクと斬りつけてくるダークヘヴィクラストバンドEXTINCTION OF MANKINDが来日決定! 迎えるは日本の愛知県で極太なブルタルグラインドクラストを打ち鳴らすDISGUST! 逃げ場の無い爆音が日本中に鳴り響くぞ!!

9年18日(土)名古屋 Huck Finn with REALITY CRISIS / FOLKEIS / DARGE
9月19日(日)東京 EARTHDOM with ギロチンテラー / AGE
9月20日(月) TBA(栃木、埼玉、群馬辺りの予定) with ???
9月22日(水)四日市 Club Cahos with ACROSTIX
9月23日(木)香川 高松RIZIN' with AXEWIELD
9月24日(金)広島 CLUB BORDER with D-CLONE
9月25日(土)大阪 TBA with FRAMTID / D-CLONE



来日を記念してEXTINCTION OF MANKINDへミニ・インタビュー!

今回の来日のきっかけは? 以前から日本でギグをやることに興味があったのかな?

何年も前から日本へ行きたかったんだ。でも、フル・ツアーをサポートしてくれる人物がいなくてさ。だから、マスミ(DISGUST)が今回のチャンスを与えてくれて、本当に感謝しているんだよ! 長年の夢が叶ったよ。GAUZE、LIPCREAM、SDS、BASTARD、MACROFARGE、DISCLOSE、EFFIGYなどなど本当に多くの日本のバンドに影響を受けたからね。日本のパンクシーンの魅力を体験して、イギリスのシーンでも反映出来たら最高だね。

今のイギリスのパンク/ハードコアシーンはとんな感じかな?

イギリスのシーンは浮き沈みが激しいね。良いときは良いけど、悪いときは悪い。ブラッドフォードの1 IN 12クラブで行われるギグやロンドンで週末に行われるスカムフェスタは多くの人が訪れるね。

結成してから18年になるけど、長く続けられる力の源は何?

俺たち、本当にクラストが好きだからね。ハハハ! メンバー同士は仲の良い友人だし、E.O.Mをしてなかったら人生は無味乾燥だろうね。たまに疲れるけど、人生や仕事とか生活でのフラストレーションの捌け口としてもE.O.Mが必要なんだよね。

リリースやツアーなど今後の予定は?

もうすぐイタリアのAGIPUNK RECORDSからアメリカのPHOBIAとのスプリット12"をリリースする予定。それに新しい7"を日本ツアーに持って行くよ。MCRからDISGUSTとのスプリットCDも出るしね。それとAGIPUNK RECORDSから『THE NIGHTMARE SECONDS...』と『NORTHERN SCUM』のアナログ盤がリリースされる予定。2011年にはアメリカツアーとヨーロッパでいくつかのギグをやる予定さ。

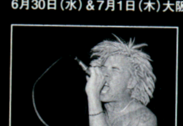
日本のパンクスにメッセージを!

一緒に酒を飲もうぜ! 日本に訪れるのを本当に楽しみにしてるんだよ。日本のバンドも観れるし、新しい仲間が出来るとさらに最高だね! 日本のみんなと一緒にプレイ出来るのは名誉な事だと思ってるよ。ただ、残念なのは旧友、DISCLOSEの川上ともう会えないってことだよね。彼のためにノイズをブチかますよ!

■ MARTIN SORRONDEGUY "TWISTED VISIONS" PHOTO EXHIBIT.

LOS CRUDOSやLIMP WRISTのヴォーカリスト、マーチンの写真展が東京と大阪で行われる。展示会を記念したライブもあり、マーチンも来日予定! 会場ではマーチン写真集の先行発売もあります。

6月22日(火)~27日(日)東京 中野MOON STEP BAR SPACE 16:00~23:00 入場無料
6月30日(水)&7月1日(木)大阪 HOKAGE B2F BAR FLOOR 14:00~ライブ終了まで 入場無料








■ VEKTOR

5月15日(土)東京 初台WALL

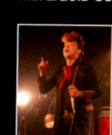


■ POINTED STICKS / DISHRAGS JAPAN TOUR

日本でも人気の高いカナダの70's パワーポップ/パンクバンドPOINTED STICKSとDISHRAGSが日本にやって来るよ!

7月17日(土)東京 新代田FEVER
with FIRESTARTER / THE RAYDIOS
7月18日(日)東京 新代田FEVER
with BACK TO BASICS / PARACHUTE / YOUNG PARISIAN
7月19日(月・祝)大阪 難波 ROCKRIDER
with LIQUID SCREEN / PSYCHOTIC REACTION



■ SA

6月13日(日)横浜 DRAGON CLUB
6月15日(火)東京 代々木 Zher the ZOO
6月27日(日)東京 高円寺HIGH
7月3日(土)大阪 心斎橋KING COBRA
with THE FLAMINGO CLUB / DEATH DUST EXTRACTOR / ORGANISM and more
7月5日(土) 松阪 M'AXA

RELEASE INFORMATION



■ KMK

スウェーデンから期待の新星KMKがネット配信限定でアルバムをリリース。TOTALITARバリにテンション高めなハーパーターボ・ハードコアパンクで血圧を上昇させるぞ! 「俺たちまだ無名だからリリースしてくれるレーベルがなくて、ネット配信でリリースしたんだよ」とはメンバーの弁。マジでカッコいいので、どこかCDかLPでリリースしてやってくれ!

http://www.myspace.com/knulladmedkniv

■ PINEAPPLE RECORD

SAが主宰するPINEAPPLE RECORDSよりTHE WiLDHEARTSのソーリー率いるストリートパンクバンド SORRY AND THE SINATRASのアルバムがリリースされる。500枚限定リリースの7"EP収録曲をボーナストラックとして追加。THE WiLDHEARTSバリの抜群のメロディセンスと、ロックンロールのダイナミズムを踏襲しつつも、一音一音から吹き出るような衝撃は、まごうことなき100% PUNK ROCK! さらにTHE YO-YO'Sのギタリスト、リッチ・ジョーンズが今年から緊急加入!! 『HIGHBALL ROLLER』(PAC-007 / 2,200円)。









KROSSA

東京ロウDビート! 暴走ブチ抜きの盛り上がりでスウェディッシュ・パンクの亡霊がここ大阪に現る! 信じられるか? 俺はあの時、現実に見たんだ! 場内ダダ暴れパンクスの渦!!

Special InFoRmaTiOn

GIG INFORMATION

■ THE VARUKERS / SLANG「ANOTHER RELIGION ANOTHER WAR 2010」TOUR
UKハードコアパンク・レジェンドTHE VARUKERSと5月末からUSツアー（掲載画像はそのツアーポスター）を決行する札幌ハードコアパンクの雄SLANGによる強力スプリット・ツアーが決定! 共演バンドに関する追加情報はSLANGのHPをチェックだ。



8月18日（水）名古屋 今池ハックフィン
8月19日（木）大阪 難波ベアーズ
8月20日（金）岡山 津山K2
8月21日（土）三重 四日市 CLUB CHAOS
8月23日（月）東京 新宿ANTIKNOCK
8月24日（火）栃木 足利 south BBC
8月25日（水）仙台 BIRD LAND
8月27日（金）北海道 函館 BaySity'sStreet
8月28日（土）北海道 旭川 CASINO DRIVE
8月29日（日）北海道 札幌 KLUB COUNTER ACTION
http://www.slang1988.com/



■ BAD DIRTY HATE
5月20日（木）大阪 KING COBRA
6月24日（木）大阪 KING COBRA
6月26日（土）大阪 難波ベアーズ
7月3日（土）東京 早稲田ZONE-B
8月14日（土）東京 新大久保アースダム
9月17日（金）大阪 アメ村KING COBRA

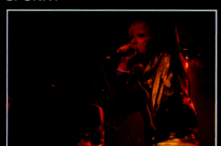
■ THE VICKERS
5月30日（日）横浜 ドラゴンクラブ
7月11日（日）名古屋 ハックフィン
http://www.vickersjapan.com/

■ THEクルマ
5月15日（土）神戸 108
5月16日（日）岐阜 51
6月12日（土）神戸 108
6月26日（土）大阪 KING COBRA
http://www7b.biglobe.ne.jp/~kuruma69/

■ RADIOTS
5月22日（土）名古屋 APOLLO THEATER
5月29日（土）大阪 新神楽
5月30日（日）千葉 LOOK
6月9日（水）川崎 club CITTA'
6月11日（金）熊谷 Heaven's Rock
6月13日（日）名古屋 DIAMOND HALL
7月24日（土）東京 DIFFER有明
http://www.radiots.net/

■ ゼピットC.C
5月22日（土）甲府 BODEGA
7月10日（土）福井 XES
7月17〜19日（土〜月・祝）奥多摩GIG
http://tosp.co.jp/i.asp?I=suikennight

■ LUCY & THE LIPSTIX
5月15日（土）神戸 108
with THE PRISONER（東京）
THE LAST MOMENT（東京）
THE クルマ / SUGAR BOYZ
5月16日（日）岐阜 51
with THE PRISONER（東京）
THE クルマ / HALF SPORTS
THE HIPS
6月26日（土）大阪 心斎橋 KING COBRA
with MOSQUITE SPIRAL
MASTER PEACE / THE クルマ
D'VERZET / SPEECIES
SPUNKY



■ サウザンド・サークル vol.3
6月12日（土）神戸 108
THE クルマ
THE JUNGLERS and more

■ TOO CIRCLE RECORDS presents「SEASICK JAPAN FIRST DAY」
5月14日（金）東京 西荻窪STUDIO UEN
SEASICK（U.S.A.）/ CRUCIAL SECTION / ENCROACHED
COMMUNICATES / AND BELIEVE

■ SDR
5月29日（土）東京 吉祥寺 ROCK JOINT GB
6月26日（土）東京 新宿 Club Doctor
6月30日（水）名古屋 CLUB UP SET
7月1日（木）京都 磔磔
http://sdr.rdy.jp/



■ ハツリ
5月20日（木）大阪 KING COBRA
6月12日（土）岡山 津山K2

■ ORIGIN OF [M]
6月5日（土）広島 CLUB BORDER
with WARHEAD / 鉄アレイ / DOOMSDAY HOUR etc
7月2日（金）大阪 難波ベアーズ

■ Be PUNX and ZIGZAGレコ発ギグ
7月30日（金）東京 新宿LOFT
ZIGZAG / LAUGHIN'NOSE / THE ZETT / STAR CLUB / FUNGUS

■ CHEAP RESISTANCE GIG
8月7日（土）横須賀 PUMPKIN
SEE YOU IN HELL（チェコ）/ SYSTEMATIC DEATH / PROTESTATION
HAZARD and more
『CHEAP RESISTANCE』ZINE無料配布中!
お問い合わせはcheap_resistance@yahoo.co.jpまで
http://cheapresistance.seesaa.net/

5月21日（金）『OUT OF BABYLON SPECIAL』
Djizoes（SWITZERLAND）/ VAGERKE / InTheEnz / SPEECIES / Alredy Yours
DJ TAKAZUMI SHIOTA（end roll.）/ TOYOMETAL（METAL NIGHT）
K∞SUKE（NASTY RECORDS）/ YASUYUKI HARA（CHEAP HOLIDAY）
KAZUMASA（Rise From The Dead）/ YOSSY（FUNNY RADIO）
AKI（FAKTORY）
FOOD Que Sera Sera

5月28日（金）
STIFF LITTLE FINGERS
BOOTed COCKS / LUCY & THE LIPSTIX
DJ VINNY（666）
K∞SUKE（NASTY RECORDS）
YASUYUKI HARA（CHEAP HOLIDAY）



5月29日（土）
和嶋工務店 / A

6月26日（土）
MOSQUITE SPIRAL / MASTER PEACE
LUCY & THE LIPSTIX / THE クルマ
D'VERZET / SPEECIES

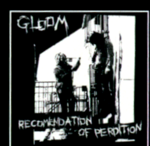
7月19日（月）『ラフィン・ロティカ・タンブリング・ツアー』
LAUGHIN'NOSE / ニューロティカ / A

■ 三重 KING COBRA
7月20日（火）『ラフィン・ロティカ・タンブリング・ツアー』
LAUGHIN'NOSE / ニューロティカ / A

RELEASE INFORMATION

■ TOO CIRCLE RECORDS
5月に『DE-CULTURES（日本）/ THURNEMAN（スウェーデン）』split EPとGLOM DA!（スウェーデン）『grisigast ostergotland』EPをリリース!

■ GLOOM
永遠の名作12"『RECOMENDATION OF PERDITION』が再発予定! 発売直後、速攻ソールドアウト＆聴く者全てを虐殺したトータル・ノイズ・デストラクションな最高傑作だ! オリジナル盤とは裏ジャケのデザインが違い新しくなっていますが、そんな事とは関係無しに持ってない人は今回確実にゲットしないと泣きを見ますよ。さらに何と、極初期ライブ音源も6月15日同時リリースされる予定! ヤバイぜ!!



■ 波山
茨城で精力的な活動を続ける波山が京都のウランチョと5月25日にスプリット・アルバムを発売。6月末には波山監修による北関東のパンク、ハードコアパンクバンド15バンド）を収録した無料コンピレーションCDも配布予定。

■ MAD GUILLOTINES
『UNDER GROUND PUNK ROCKERS』シリーズコンピレーションCDをオーガナイズしているMAD GUILLOTINESも参加する『DISORDERLY CROWD』（軒003）コンピレーションCDがマルケンレコードよりリリース。

■ EPITAPH
フルスロットルなノン・ストップパンクロックミックスコンピレーション『PUNK O RAMA NON STOP MIX』CD（EICP1327）をリリース。

■ REVOLSIST RECORDS
ゲタカルビ、MOSQUITO SPIRAL、LOUDSなどが参加する2枚組コンピレーション『BAD SIGNAL / GOOD SIGNAL』（SR-001A）をリリース。13バンド25曲全て新録で価格は何と1800円!

■ G.B.H.
去年の来日公演の記憶も新しいG.B.H.が新作アルバム『PERFUME AND PISS』（EICP1329）をリリース! 通算10枚目となる今作はファースト〜セカンドアルバムの雰囲気を残しながら、新たなサウンドも昇華したドライビング・ハードコアパンクが最高! そして10月にはまたも来日決定! ギヴ・ミー・ファイヤァァァー!!

■ KRANIUM
スウェーデンのKRANIUMからKVOTERINGENとNITADのスプリット7"EPがリリースされた。以前、MCRからリリースされたCDと同じ組み合わせで、仲良いのね〜。2バンドとも強力無比なスウェディッシュ・ハードコア! 限定500枚。
http://www.krnm.se









■ VERTEX RECORDS
オーストラリアのVERTEX RECORDが限定400枚でTHE HOMICIDESの『BLACK LEATHER REDNECK』12"EPをリリースした。アメリカの初期ハードコアパンクに影響を受けたような凶暴極まりないブ厚いサウンドと、サタニックな雰囲気で独特の存在感を放っているヤバイ作品。今後も色々なリリースが決定しているそうだ。
コンタクト先…VERTEX AUDIO PO BOX 138 WEMBLEY WA 6913 AUSTRALIA



■ Discokicks
滋賀発のハンドメイド・パンクギア・ブランドDiscokick。染色、縫製も全てこだわりの手作業で行っており、レザーカラー＆ステッチカラーの指定もOK! 自分だけの1本が手に入るぞ。ご注文、取扱店情報はDiscokickオンラインショップへ。
http://discokick.shop-pro.jp/





■ 九狼吽
驚異的なパワーを放出する怒濤のライブを各地で繰り広げている九狼吽のTシャツ（2000円／サイズS〜XL／バックプリントあり）が発売中。購入やライブ情報はホームページで!
http://nchc-clown.com/

■ ハツリ
FREEDOM FIGHTERからリリースされたカセットが速攻でソールドアウトしたハツリ。夏頃、アメリカの某レーベルから待望のシングルがリリースされる予定だ! 暴発ハードコアパンクがまたも炸裂するぞ!!

■ BAD DIRTY HATE
強烈な個性を放つメンバーが繰り出す、疾走凶暴スラッシュ・ハードコアパンクバンドBAD DIRTY HATE! 久しぶりのシングルが夏にはFREEDOM FIGHTERからリリースされる予定。スラッシュ・ティル・デス!!

※掲載のライブやリリースの情報は2010年4月下旬のものです。発行後に変更・キャンセルなどの場合もございます。 ※MOBSPROOFではリリース、ライブなど情報を募集中です。情報掲載希望の方はMOBSPROOF編集部までメールなどでお送り下さい。スペースに限りがありますので応募多数の場合は掲載できない場合もございます。

プレゼントコーナー





アナーキーポロシャツ、倫敦コーリングTシャツをそれぞれ1名様に!!

70'sパンクファッションをブラッシュアップし、ハイクオリティなウェアを産み出し続けているscopeからアナーキーポロシャツ（Sサイズ・8,925円）と倫敦コーリングTシャツ（Sサイズ・4,095円）を各1名様にプレゼント! ステンシルプリントの文字はオリジナル同様に型抜きのスプレー仕上げ、染色とブリーチはハンドメイドで再現という凝りに凝ったアナーキーポロシャツ。THE CLASHの名作『LONDON CALLING』と80's ロンドン・ファッションで流行した中国漢字ムーブメントを見事に融合させた倫敦コーリングTシャツ。どちらもコレからの季節にぴったりだ! http://shopscope.ocnk.net/

THE HOMICIDES『BLACK LEATHER REDNECK』12"EPを3名様に!!

今号の「SPECIAL INFORMATION」でも紹介したオーストラリアのTHE HOMICIDESの『BLACK LEATHER REDNECK』12"EPを3名様にプレゼント。

ご応募は住所・名前・年齢を記入の上、メール（mobsproof@studs.jp）またはハガキでご応募下さい。応募締切は2010年6月10日。当選は発送をもってかえさせていただきます。

MOBSPROOF VOLUME 5 READY STEADY GO issue colophon

2010年5月15日発行

企画・編集・執筆・撮影・デザイン
MOBSPROOF編集部

執筆者
松原 弘一良　平田裕介　タケシ（C.F.D.L.）　森下篤（OVERTHROW RECORDS）　オイドン

撮影
畔柳雪子　井上郁茂　堀 俊也

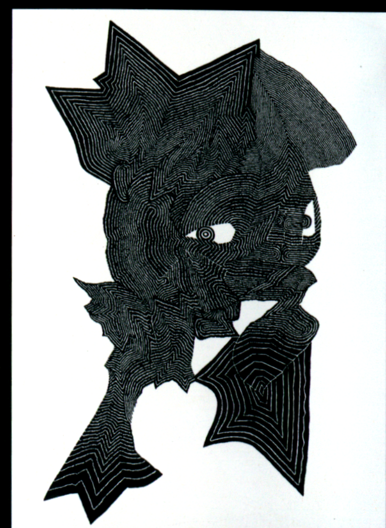
編集・発行人
松原 弘一良

発行所　design studio STUDS
〒655-0034　神戸市垂水区仲田3-1-10-301　tel 078-709-7122　e-mail mobsproof@studs.jp
HP http://www.studs.jp/
blog http://blog.goo.ne.jp/mobsproof　twitter http://twitter.com/MOBSPROOF
mixi http://mixi.jp/view_community.pl?id=3366170

Printed in Distort Japan

ISBN 978-4-9904390-4-0　C0473 ¥951E

thanks...All the people and bands who appear on this issue.Supprt to making this issue.and You!



illustration/OiDON



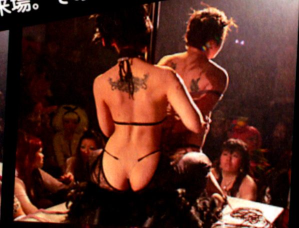
1st Anniversery Party♥

FARPLANE NIGHT 3

2010.03.20 DROP & NEO

MOBSPROOF VOL.04の表紙を飾ってくれたモニカちゃんのお店、FARPLANEが1周年を記念して、3月20日『FARPLANE NIGHT』を開催したぞ。今回は大阪・アメリカ村DROPとNEOの２ヶ所同時開催という大規模なものになり、当日はFARPLANEに縁の深いパンクスも大挙して来場。その非現実的異空間を出演者＆関係者のコメントと写真でアフターレポート!





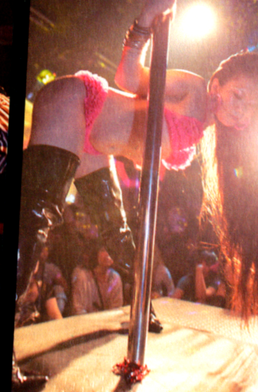














トヨカツ（ZYANOSE）
AAAAGGGHHHRR!!!!! 俺にとっては非現実的世界。自分自身…パンクを中心に活動しとるけど、FARPLANE NIGHTで普通にエンジョイ!!! 変な言い方すれば女の子が楽しむ場なのかな? パンクスが非現実的な空間で楽しむって変だと思うけど、コレは現実ありきの空間なので…って難しい事を考えるのはナンセンス!!! 誰にでも同じように朝がくる。くだらない事は爪を立ててピンヒールで蹴ってやればいい!



モニカ（FARPLANE）
FARPLANE NIGHT! お疲れ様でした!! ご来場頂いたお客様、出演者様、関係者様ありがとうございました!! 人生は1回限り! 今、この瞬間は1度しかない!! "楽しい事はないか?"ではなく、楽しい事は…共に作っていこうではありませんか♪ "人生を謳歌するか? しないか?"は、アナタ次第!! 大切な事を忘れがちな現代社会に向けて、FARPLANEは新たな起爆剤を投じます! 次回は夏に開催予定です。詳細はHPなどで随時UPしていくのでチェックよろしくっ!!
http://www.farplane.jp



SHIGA chang（大阪D.I.Y PUNK MASTER）
思い思いの服装で思い思いに楽しんでいる人。バラバラのようで、それぞれが楽しんでいる。見習うところが多い夜でした。

MINAMI（反権力ZIN）
『FARPLANE NIGHT』…原色と音楽でケバケバしく彩り、日常とはかけ離れた異空間を作り出す! 多種多様な人種がひしめき合い、そこには何の偏見も、ましてや性別すらも存在していないかのような錯覚すら覚える!



藤本修羅（異端黥従紋身院）
お色気フルスロットルな会場の中で目のヤリ場に困ったウブな小生であったが、思春期にジークムント・フロイトのリビドーについての論文を読み耽ったりした頃を思い出したり…。ポップでセクシーな女性であふれていたが、オトコに媚びるための淫売めいたエロスじゃない、カッコイイ女の子が多かったなぁ。逆にセクシーでカッコイイ男が少ないんじゃないかなぁ。ニッポン男子の諸君! 毎朝ちゃんと勃起してるか?! しっかりしようぜ男子!



HUMMER（MORTALCOMBAT）
フェティッシュの壁を乗り越えて様々なサブカルチャーやアーティストがクロスオーバーした1日だった。良かった時代を嘆くより、今また新たに作ろう。真の反骨精神とはそうあるべきだと思う。こんな時代だからこそ枠に囚われない目線、スタンスが必要だと思う。そう感じさせてくれる1日だった。













design studio STUDS
定価：999円 本体951円

9784990439040

PUNK MAGAZINE FOR DESTRUCTION
MOBSPROOF
モブスプルーフ VOL.05
READY STEADY GO issue

ISBN978-4-9904390-4-0 C0473 ¥951E

1920473009517



PUNK MAGAZINE FOR DESTRUCTION MOBSPROOF READY STEADY GO issue 世界をパンクだらけにしてしまえ！ VOL.05

PUNK MAGAZINE FOR DESTRUCTION
MOBSPROOF
モブスプルーフ VOL.05
READY STEADY GO issue

design studio STUDS
定価：999円 本体951円

9784990439040

1920473009517

ISBN978-4-9904390-4-0 C0473 ¥951E